

がんに対する市民意識調査

報告書

令和 5 年 2 月

札幌市保健所健康企画課

(業務受託者：株式会社パイロン 作成)

<目次>

1	市民向け意識調査	1
	集計結果	2
	(単純集計、性別によるクロス集計、就労状況別によるクロス集計)	
2	事業所向け意識調査	123
	集計結果	124
	(単純集計)	
3	資料	154
	(1) 市民向け意識調査	155
	(2) 事業所向け意識調査	171

1 市民向け意識調査

(1) 調査対象者

札幌市がん検診の対象となる40～74歳の男性と、20～74歳の女性を対象とし、5,000人を無作為抽出により選定し、アンケート調査を実施した。

(2) 調査方法と回収率

アンケート調査は、郵送とwebの2種類の方法で行った。郵送では、アンケートを対象者に調査票と返信用封筒を同封して発送し、郵送によって回収した。Webでは、googleフォームにより専用ページを作成し、回答を受け付けた。

本調査は令和4年9月に実施し、全体で5,000件を発送した。そのうち1,677件の回答（回収率約33.5%）を得た。（うちweb回答109件）。

	実数	構成比
アンケート発送数	5,000	100.0%
回収数 (うちWEB回答)	1,677 (109)	33.5% (6.5%※)
		※ 回収数1,677での比率

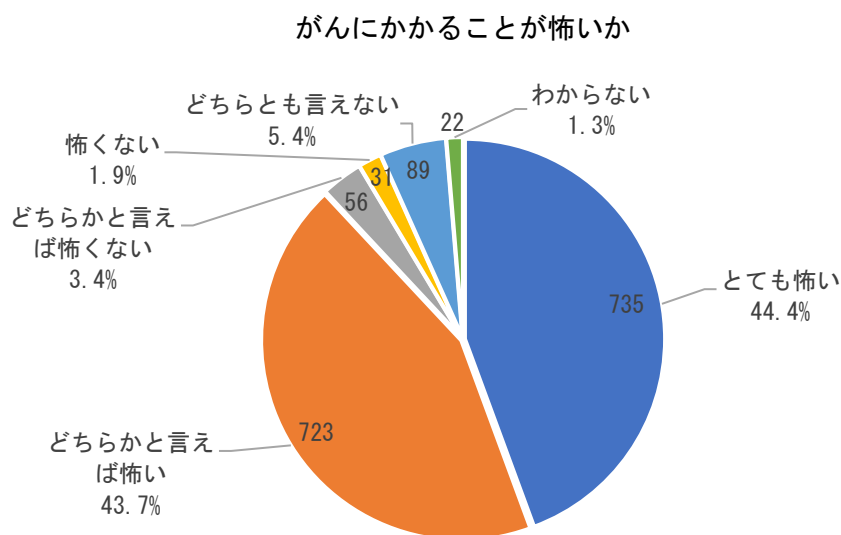
注) 端数処理により、比率の合計が100%とならない場合がある。

集計結果

問1 あなたのがんに関するご認識についてお答えください。

(1) がんにかかることが怖いか（択一回答）

がんにかかることが怖いか聞いたところ、「とても怖い」が44.4%で最も高く、次いで「どちらかと言えば怖い」が43.7%となっている。



(回答者数：1,656人)

性別で見ると、男性は「どちらかと言えば怖い」が48.2%、女性は「とても怖い」が47.6%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
とても怖い	216	38.2%	515	47.6%	1	33.3%
どちらかと言えば怖い	273	48.2%	446	41.3%	2	66.7%
どちらかと言えば怖くない	18	3.2%	38	3.5%	0	0.0%
怖くない	18	3.2%	13	1.2%	0	0.0%
どちらとも言えない	32	5.7%	57	5.3%	0	0.0%
わからない	9	1.6%	12	1.1%	0	0.0%
回答数	566	100.0%	1081	100.0%	3	100.0%

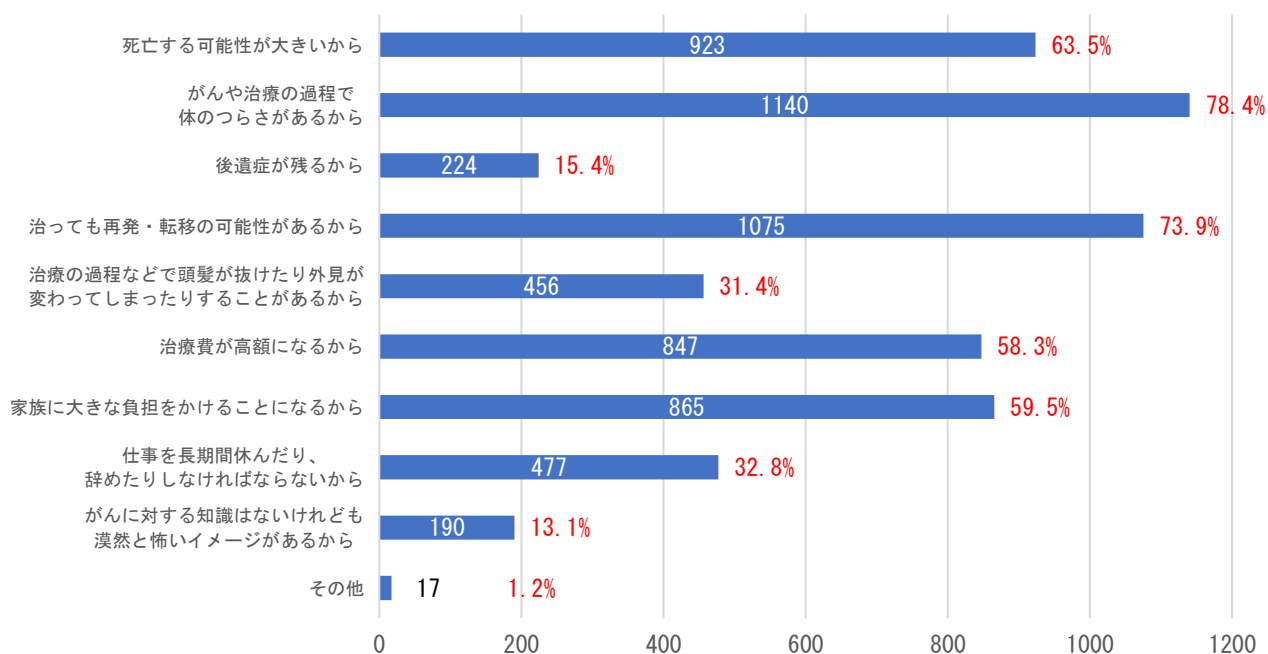
就労別に見ると、就労ありは「とても怖い」が45.7%、就労なしは「どちらかと言えば怖い」が45.1%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
とても怖い	491	45.7%	229	42.0%
どちらかと言えば怖い	460	42.8%	246	45.1%
どちらかと言えば怖くない	36	3.4%	17	3.1%
怖くない	18	1.7%	13	2.4%
どちらとも言えない	57	5.3%	31	5.7%
わからない	12	1.1%	9	1.7%
回答数	1074	100.0%	545	100.0%

(2) がんが怖い理由（複数回答）

問1(1)で、「とても怖い」「どちらかと言えば怖い」を選択した回答者にその理由を聞いたところ、「がんや治療の過程で体のつらさがあるから」が78.4%と最も高く、次いで「治っても再発・転移の可能性があるから」が73.9%となっている。

がんが怖い理由（複数回答）



(サンプル計：1,454人)

性別に見ると、男女共に「がんや治療の過程で体のつらさがあるから」最も高くなっており、男性は71.8%、女性は81.8%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
死亡する可能性が大きいから	323	66.5%	596	62.1%	1	33.3%
がんや治療の過程で体のつらさがあるから	349	71.8%	785	81.8%	3	100.0%
後遺症が残るから	58	11.9%	164	17.1%	1	33.3%
治っても再発・転移の可能性があるので	328	67.5%	741	77.2%	3	100.0%
治療の過程などで頭髪が抜けたり外見が変わってしまったりすることがあるから	94	19.3%	358	37.3%	2	66.7%
治療費が高額になるから	262	53.9%	578	60.2%	3	100.0%
家族に大きな負担をかけることになるから	274	56.4%	586	61.0%	2	66.7%
仕事を長期間休んだり、辞めたりしなければならないから	152	31.3%	320	33.3%	3	100.0%
がんに対する知識はないけれども漠然と怖いイメージがあるから	47	9.7%	139	14.5%	2	66.7%
その他	4	0.8%	13	1.4%	0	0.0%
サンプル計	486	100.0%	960	100.0%	3	100.0%

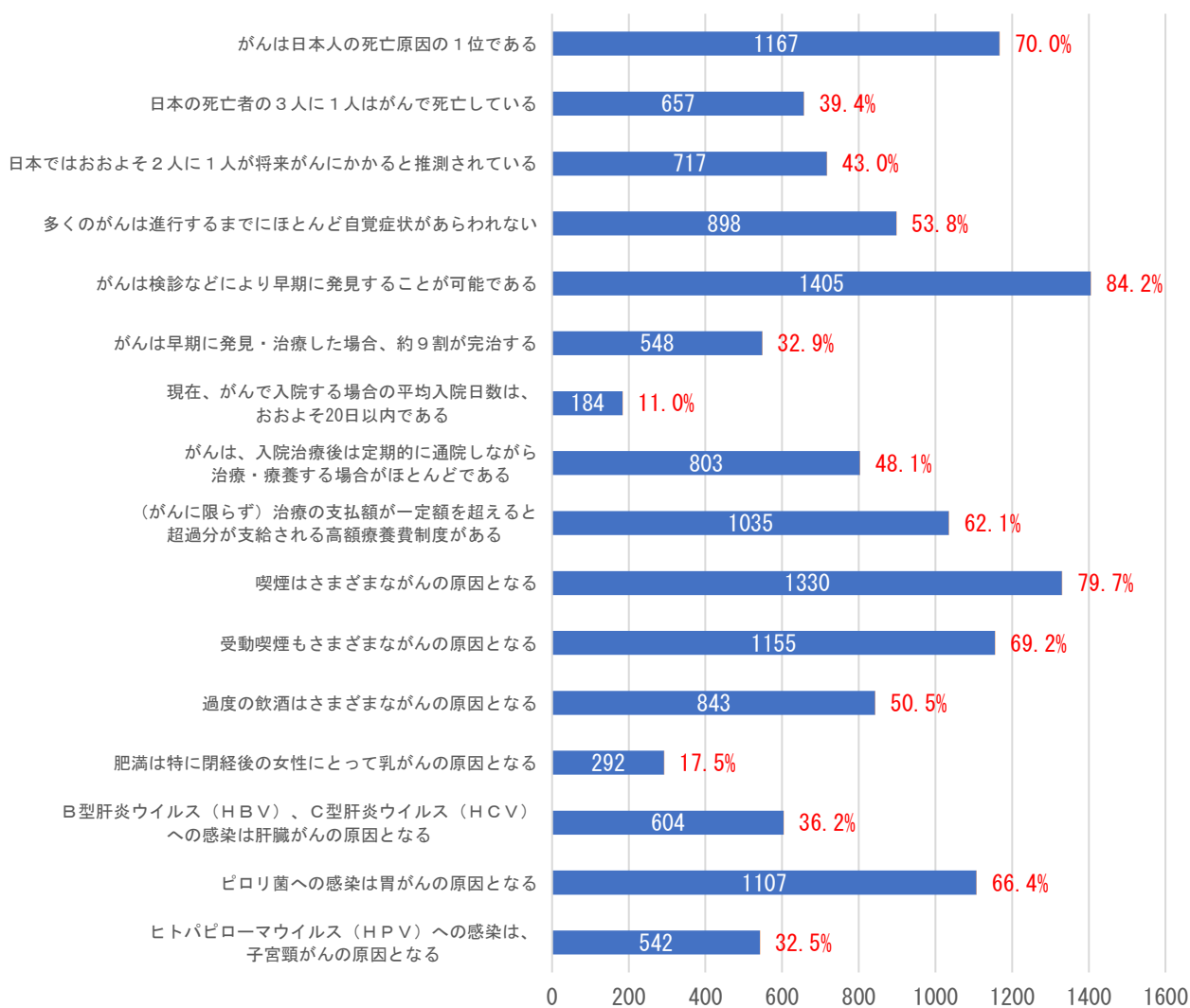
就労別に見ると、就労ありなし共に「がんや治療の過程で体のつらさがあるから」が最も高くなっており、就労ありは78.0%、就労なしは80.0%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
死亡する可能性が大きいから	601	63.4%	304	64.1%
がんや治療の過程で体のつらさがあるから	739	78.0%	379	80.0%
後遺症が残るから	154	16.2%	65	13.7%
治っても再発・転移の可能性があるので	695	73.3%	357	75.3%
治療の過程などで頭髪が抜けたり外見が変わってしまったりすることがあるから	312	32.9%	136	28.7%
治療費が高額になるから	570	60.1%	257	54.2%
家族に大きな負担をかけることになるから	573	60.4%	275	58.0%
仕事を長期間休んだり、辞めたりしなければならないから	425	44.8%	41	8.6%
がんに対する知識はないけれども漠然と怖いイメージがあるから	105	11.1%	79	16.7%
その他	11	1.2%	6	1.3%
サンプル計	948	100.0%	474	100.0%

(3) がんに関する知識（複数回答）

がんについて知っていることを聞いたところ、「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」が84.2%で最も高く、次いで「喫煙はさまざまながんの原因となる」が79.7%、「がんは日本人の死亡原因の1位である」が70.0%となっている。

がんに対する知識（複数回答）



(サンプル計：1,668人)

性別に見ると、男女共に「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」が最も高くなっており、男性は78.7%、女性は87.2%となっている。

がんに対する知識（複数回答）

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
がんは日本人の死亡原因の1位である	413	72.6%	747	68.5%	2	66.7%
日本の死亡者の3人に1人はがんで死亡している	240	42.2%	412	37.8%	0	0.0%
日本ではおおよそ2人に1人が将来がんにかかる と推測されている	239	42.0%	476	43.7%	0	0.0%
多くのがんは進行するまでにほとんど自覚症状が あられない	298	52.4%	594	54.5%	3	100.0%
がんは検診などにより早期に発見することが可能 である	448	78.7%	950	87.2%	1	33.3%
がんは早期に発見・治療した場合、約9割が完治 する	214	37.6%	332	30.5%	0	0.0%
現在、がんで入院する場合の平均入院日数は、お おおよそ20日以内である	52	9.1%	131	12.0%	0	0.0%
がんは、入院治療後は定期的に通院しながら治 療・療養する場合がほとんどである	219	38.5%	580	53.2%	0	0.0%
（がんに限らず）治療の支払額が一定額を超え ると超過分が支給される高額療養費制度がある	304	53.4%	725	66.5%	2	66.7%
喫煙はさまざまながんの原因となる	444	78.0%	880	80.7%	3	100.0%
受動喫煙（他人が吸うたばこの煙を吸うこと）も さまざまながんの原因となる	362	63.6%	787	72.2%	3	100.0%
過度の飲酒はさまざまながんの原因となる	275	48.3%	564	51.7%	2	66.7%
肥満は特に閉経後の女性にとって乳がんの原因と なる	54	9.5%	237	21.7%	0	0.0%
B型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス （HCV）への感染は肝臓がんの原因となる	177	31.1%	426	39.1%	1	33.3%
ピロリ菌への感染は胃がんの原因となる	346	60.8%	758	69.5%	2	66.7%
ヒトパピローマウイルス（HPV）への感染は、 子宮頸がんの原因となる	80	14.1%	459	42.1%	2	66.7%
サンプル計	569	100.0%	1090	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」が最も高くなっており、就労ありは83.4%、就労なしは86.1%となっている。

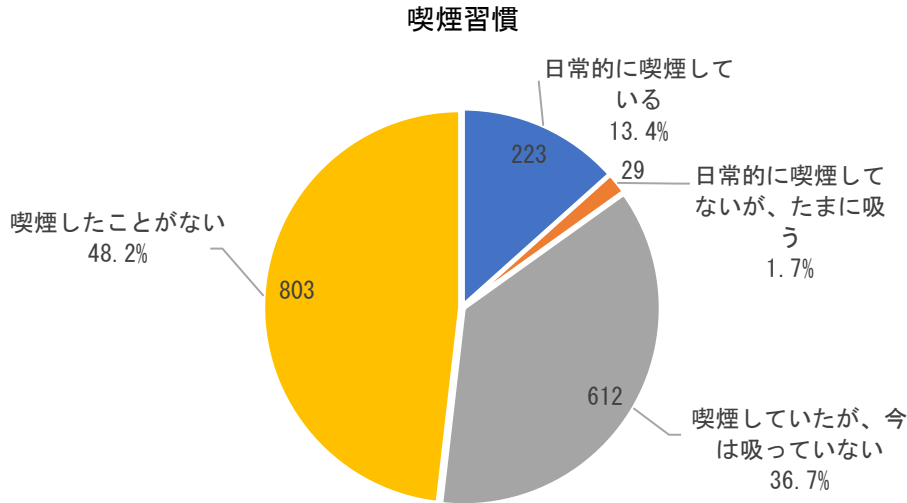
がんに対する知識（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
がんは日本人の死亡原因の1位である	785	72.8%	359	65.0%
日本の死亡者の3人に1人はがんで死亡している	437	40.5%	203	36.8%
日本ではおおよそ2人に1人が将来がんにかかると推測されている	435	40.3%	267	48.4%
多くのがんは進行するまでにほとんど自覚症状があらわれない	581	53.8%	299	54.2%
がんは検診などにより早期に発見することが可能である	900	83.4%	475	86.1%
がんは早期に発見・治療した場合、約9割が完治する	332	30.8%	205	37.1%
現在、がんで入院する場合の平均入院日数は、おおよそ20日以内である	114	10.6%	66	12.0%
がんは、入院治療後は定期的に通院しながら治療・療養する場合がほとんどである	494	45.8%	289	52.4%
（がんに限らず）治療の支払額が一定額を超えると超過分が支給される高額療養費制度がある	651	60.3%	362	65.6%
喫煙はさまざまながんの原因となる	862	79.9%	445	80.6%
受動喫煙（他人が吸うたばこの煙を吸うこと）もさまざまながんの原因となる	750	69.5%	383	69.4%
過度の飲酒はさまざまながんの原因となる	549	50.9%	278	50.4%
肥満は特に閉経後の女性にとって乳がんの原因となる	191	17.7%	97	17.6%
B型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）への感染は肝臓がんの原因となる	383	35.5%	207	37.5%
ピロリ菌への感染は胃がんの原因となる	713	66.1%	374	67.8%
ヒトパピローマウイルス（HPV）への感染は、子宮頸がんの原因となる	364	33.7%	166	30.1%
サンプル計	1079	100.0%	552	100.0%

問2 あなたの喫煙・飲酒の状況についてお答えください。

(1) 喫煙習慣（択一回答）

喫煙習慣について聞いたところ、「喫煙したことがない」の48.2%が最も高く、次いで「喫煙していたが、今は吸っていない」が36.7%となっている。



(回答者数：1,667人)

性別で見ると、男性は「喫煙していたが今は吸っていない」が55.9%、女性は「喫煙したことがない」が62.4%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
日常的に喫煙している	123	21.5%	100	9.2%	0	0.0%
日常的に喫煙してないが、たまに吸う	10	1.8%	19	1.7%	0	0.0%
喫煙していたが、今は吸っていない	319	55.9%	290	26.7%	1	33.3%
喫煙したことがない	119	20.8%	679	62.4%	2	66.7%
回答数	571	100.0%	1088	100.0%	3	100.0%

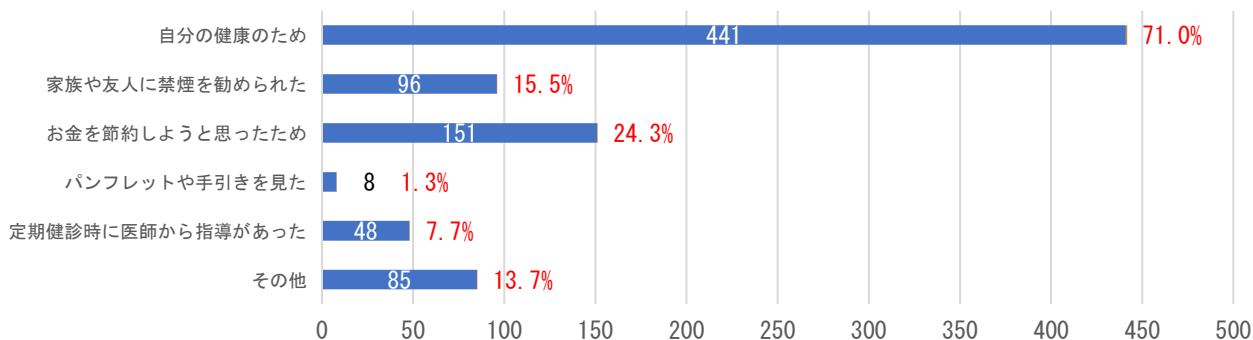
就労別に見ると、就労ありなし共に「喫煙したことがない」が最も高くなっており、就労ありは45.8%、就労なしは52.4%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
日常的に喫煙している	166	15.3%	51	9.3%
日常的に喫煙してないが、たまに吸う	21	1.9%	8	1.5%
喫煙していたが、今は吸っていない	399	36.9%	203	36.9%
喫煙したことがない	496	45.8%	288	52.4%
回答数	1082	100.0%	550	100.0%

(2) 喫煙を辞めるきっかけ（複数回答）

問2(1)で、「喫煙したことがない」を選んだ回答者以外に、喫煙をやめるきっかけになるか（なったか）聞いたところ、「自分の健康のため」が71.0%で最も高く、次いで、「お金を節約しようと思ったため」が24.3%となっている。

喫煙を辞めるきっかけ（複数回答）



（サンプル計：621人）

性別に見ると、男女共に「自分の健康のため」が最も高く、男性は73.9%、女性は67.7%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
自分の健康のため	243	73.9%	197	67.7%	0	0.0%
家族や友人に禁煙を勧められた	60	18.2%	35	12.0%	0	0.0%
お金を節約しようと思ったため	75	22.8%	76	26.1%	0	0.0%
パンフレットや手引きを見た	7	2.1%	1	0.3%	0	0.0%
定期健診時に医師から指導があった	29	8.8%	19	6.5%	0	0.0%
その他	29	8.8%	56	19.2%	0	0.0%
サンプル計	329	100.0%	291	100.0%	0	100.0%

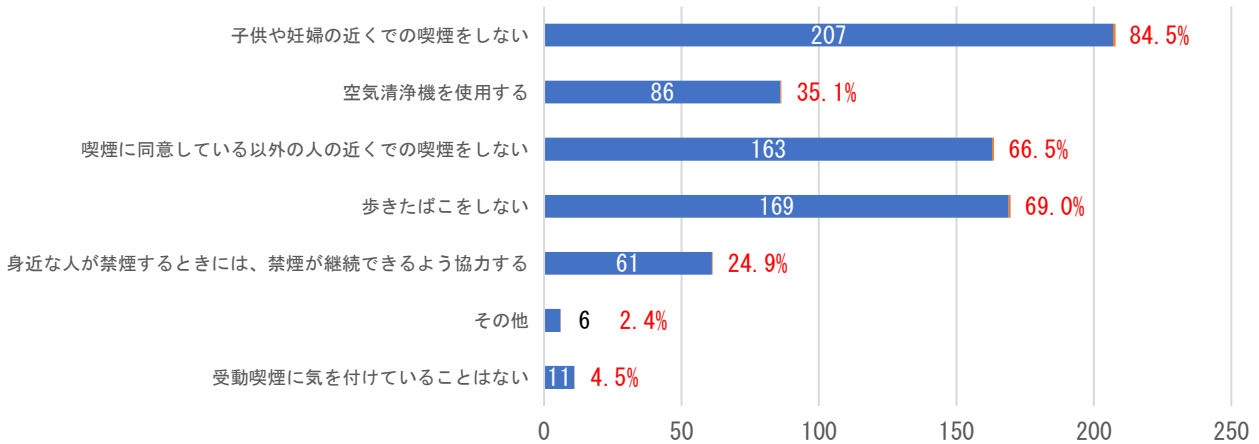
就労別に見ると就労ありなし共に「自分の健康のため」が最も高く、就労ありは67.4%、就労なしは77.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
自分の健康のため	279	67.4%	154	77.8%
家族や友人に禁煙を勧められた	66	15.9%	28	14.1%
お金を節約しようと思ったため	114	27.5%	36	18.2%
パンフレットや手引きを見た	4	1.0%	4	2.0%
定期健診時に医師から指導があった	33	8.0%	15	7.6%
その他	61	14.7%	23	11.6%
サンプル計	414	100.0%	198	100.0%

(3) 喫煙者が受動喫煙について気をつけていること（複数回答）

問2(1)で、「日常的に喫煙している」「日常的に喫煙していないが、たまに吸う」を選択した回答者に、受動喫煙について気をつけていることを聞いたところ、「子供や妊婦の近くで喫煙をしない」が84.5%で最も高く、次いで「歩きたばこをしない」が69.0%、「喫煙に同意している以外の人の近くで喫煙をしない」が66.5%となっている。

受動喫煙について気をつけていること（複数回答）



(サンプル計：245人)

性別に見ると、男女共に「子供や妊婦の近くでの喫煙をしない」が最も高く、男性は79.7%、女性は89.7%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
子供や妊婦の近くでの喫煙をしない	102	79.7%	105	89.7%	0	0.0%
空気清浄機を使用する	34	26.6%	52	44.4%	0	0.0%
喫煙に同意している以外の人の近くでの喫煙をしない	73	57.0%	90	76.9%	0	0.0%
歩きたばこをしない	72	56.3%	97	82.9%	0	0.0%
身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する	17	13.3%	44	37.6%	0	0.0%
その他	2	1.6%	4	3.4%	0	0.0%
受動喫煙に気をつけていることはない	7	5.5%	4	3.4%	0	0.0%
サンプル計	128	100.0%	117	100.0%	0	100.0%

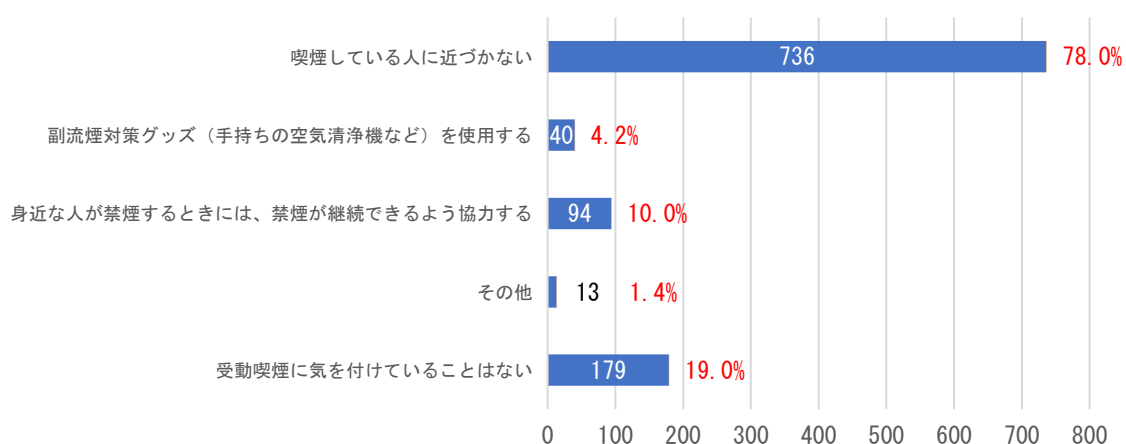
就労別に見ると、就労ありなし共に「子供や妊婦の近くでの喫煙をしない」が最も高く、就労ありは85.2%、就労なしは84.2%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
子供や妊婦の近くでの喫煙をしない	155	85.2%	48	84.2%
空気清浄機を使用する	65	35.7%	20	35.1%
喫煙に同意している以外の人々の近くでの喫煙をしない	121	66.5%	38	66.7%
歩きたばこをしない	124	68.1%	44	77.2%
身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する	41	22.5%	18	31.6%
その他	4	2.2%	2	3.5%
受動喫煙に気を付けていることはない	11	6.0%	0	0.0%
サンプル計	182	100.0%	57	100.0%

(4) 非喫煙者が受動喫煙について気をつけていること（複数回答）

問2(1)で、「喫煙していたが、今は吸っていない」または「喫煙したことがない」を選択した回答者に、受動喫煙について気をつけていることを聞いたところ、「喫煙している人に近づかない」が78.0%で最も高く、次いで「受動喫煙に気をつけていることはない」が19.0%、「身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する」が10.0%となっている。

受動喫煙について気をつけていること（複数回答）



（サンプル計：944人）

性別に見ると、男女ともに「喫煙している人に近づかない」が最も高く、男性は76.3%、女性は79.4%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
喫煙している人に近づかない	270	76.3%	465	79.4%	0	0.0%
副流煙対策グッズ（手持ちの空気清浄機など）を使用する	16	4.5%	24	4.1%	0	0.0%
身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する	34	9.6%	59	10.1%	0	0.0%
その他	4	1.1%	9	1.5%	0	0.0%
受動喫煙に気をつけていることはない	73	20.6%	104	17.7%	2	100.0%
サンプル計	354	100.0%	586	100.0%	2	100.0%

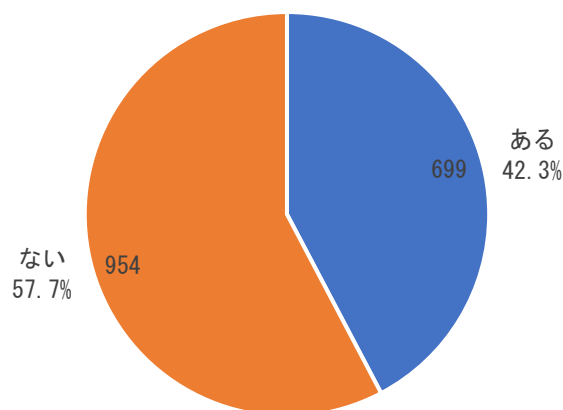
就労別に見ると、就労ありなし共に「喫煙している人に近づかない」が最も高く、就労ありは76.8%、就労なしは80.9%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
喫煙している人に近づかない	459	76.8%	267	80.9%
副流煙対策グッズ（手持ちの空気清浄機など）を使用する	17	2.8%	23	7.0%
身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する	56	9.4%	37	11.2%
その他	10	1.7%	3	0.9%
受動喫煙に気を付けていることはない	121	20.2%	53	16.1%
サンプル計	598	100.0%	330	100.0%

(5) 飲酒習慣（択一回答）

週一回以上飲酒をする習慣があるか聞いたところ、「ある」が42.3%、「ない」が57.7%となっている。

週一回以上飲酒をする習慣があるか



(回答者数：1,653人)

性別に見ると、男性は「ある」が61.3%、女性は「ない」が67.6%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
ある	347	61.3%	349	32.4%	2	66.7%
ない	219	38.7%	729	67.6%	1	33.3%
回答数	566	100.0%	1078	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「ない」が最も高く、就労ありは52.6%、就労なしは67.1%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
ある	507	47.4%	180	32.9%
ない	562	52.6%	367	67.1%
回答数	1069	100.0%	547	100.0%

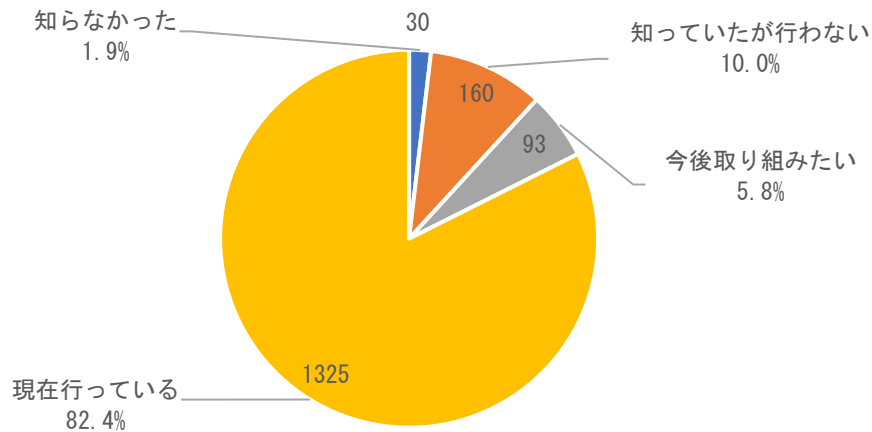
問3 がんの予防についてお答えください。

(1) がんの予防行動（ア～サの各項目について、択一回答）

がん予防に関して、現在有効であると明らかになっている行動を実行しているか聞いた。

ア 喫煙をしない

「現在行っている」が82.4%で最も高く、次いで「知っていたが行わない」が10.0%、「今後取り組みたい」が5.8%となっている。



(回答者数：1,608人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は74.1%、女性は86.8%となっている。

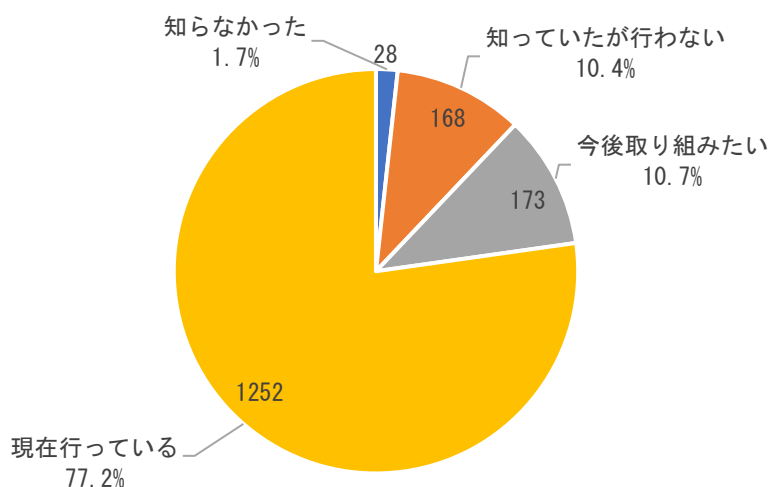
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	11	2.0%	19	1.8%	0	0.0%
知っていたが行わない	85	15.2%	75	7.2%	0	0.0%
今後取り組みたい	49	8.8%	44	4.2%	0	0.0%
現在行っている	414	74.1%	904	86.8%	3	100.0%
回答数	559	100.0%	1042	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは80.3%、就労なしは87.0%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	22	2.1%	7	1.4%
知っていたが行わない	119	11.2%	36	7.0%
今後取り組みたい	67	6.3%	24	4.6%
現在行っている	850	80.3%	450	87.0%
回答数	1058	100.0%	517	100.0%

イ 受動喫煙を避ける

「現在行っている」が77.2%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が10.7%、「知っていたが行わない」が10.4%となっている。



(回答者数：1,621人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は72.2%、女性は80.1%となっている。

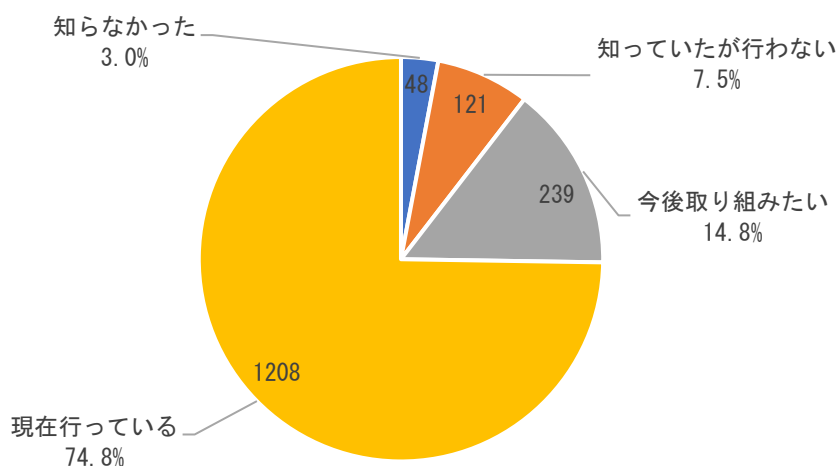
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	11	2.0%	17	1.6%	0	0.0%
知っていたが行わない	83	14.8%	83	7.9%	2	66.7%
今後取り組みたい	62	11.1%	110	10.4%	0	0.0%
現在行っている	405	72.2%	843	80.1%	1	33.3%
回答数	561	100.0%	1053	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは75.9%、就労なしは80.7%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	20	1.9%	7	1.3%
知っていたが行わない	115	10.8%	48	9.2%
今後取り組みたい	121	11.4%	46	8.8%
現在行っている	808	75.9%	423	80.7%
回答数	1064	100.0%	524	100.0%

ウ 過度な飲酒を控える

「現在行っている」が74.8%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が14.8%、「知っていたが行わない」が7.5%となっている。



(回答者数：1,616人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は63.3%、女性は80.9%となっている。

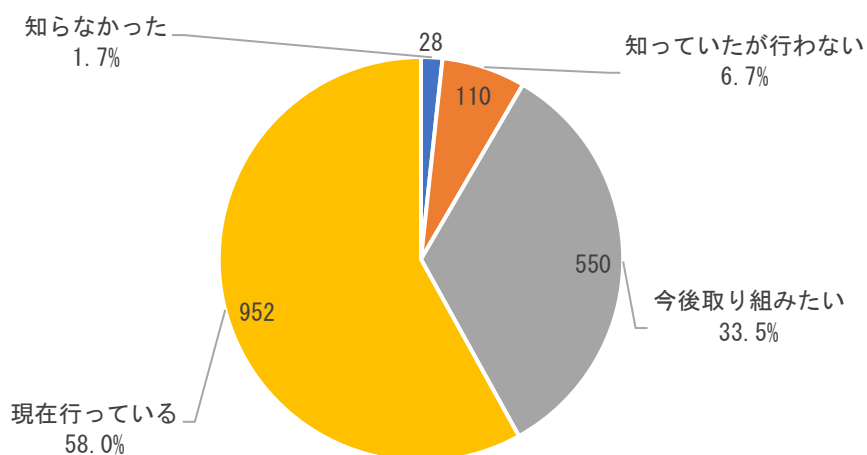
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	23	4.1%	25	2.4%	0	0.0%
知っていたが行わない	74	13.2%	47	4.5%	0	0.0%
今後取り組みたい	108	19.3%	129	12.3%	1	33.3%
現在行っている	354	63.3%	849	80.9%	2	66.7%
回答数	559	100.0%	1050	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは70.0%、就労なしは84.3%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	36	3.4%	11	2.1%
知っていたが行わない	91	8.5%	26	5.0%
今後取り組みたい	192	18.0%	44	8.5%
現在行っている	746	70.0%	436	84.3%
回答数	1065	100.0%	517	100.0%

エ バランスの取れた食生活を送る

「現在行っている」が58.0%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が33.5%、「知っていたが行わない」が6.7%となっている。



(回答者数：1,640人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は54.5%、女性は60.1%となっている。

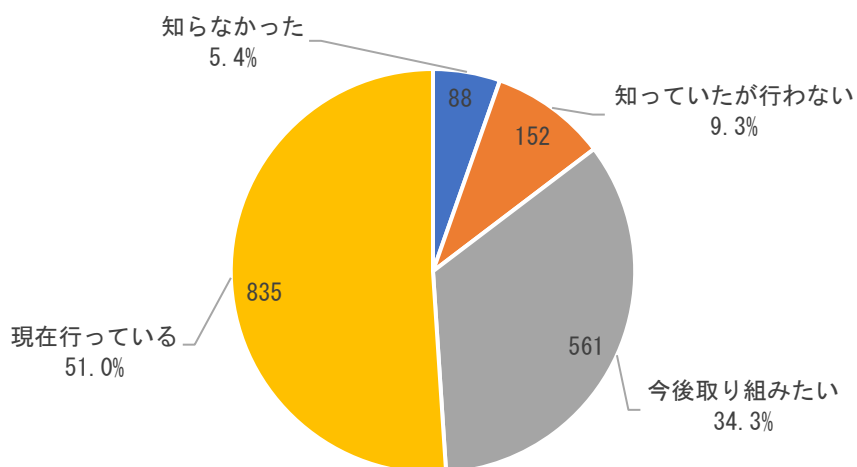
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	10	1.8%	18	1.7%	0	0.0%
知っていたが行わない	53	9.3%	56	5.3%	1	33.3%
今後取り組みたい	195	34.4%	351	32.9%	2	66.7%
現在行っている	309	54.5%	641	60.1%	0	0.0%
回答数	567	100.0%	1066	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは54.2%、就労なしは66.2%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	18	1.7%	8	1.5%
知っていたが行わない	73	6.8%	34	6.3%
今後取り組みたい	399	37.3%	140	26.0%
現在行っている	579	54.2%	356	66.2%
回答数	1069	100.0%	538	100.0%

オ 塩辛い食品をなるべく控える

「現在行っている」が51.0%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が34.3%、「知っていたが行わない」が9.3%となっている。



(回答者数：1,636人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性は46.2%、女性は53.7%となっている。

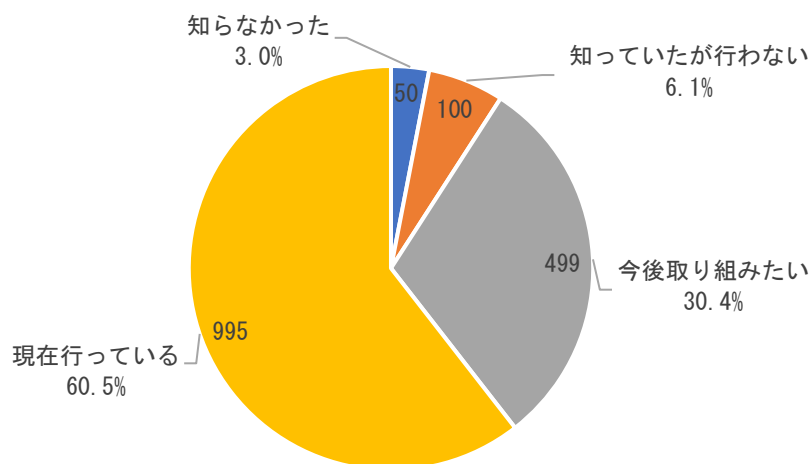
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	25	4.5%	63	5.9%	0	0.0%
知っていたが行わない	73	13.0%	78	7.3%	1	33.3%
今後取り組みたい	204	36.4%	353	33.1%	2	66.7%
現在行っている	259	46.2%	574	53.7%	0	0.0%
回答数	561	100.0%	1068	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労ありは46.2%、就労なしは60.6%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	65	6.1%	19	3.6%
知っていたが行わない	103	9.6%	44	8.3%
今後取り組みたい	408	38.1%	147	27.6%
現在行っている	494	46.2%	323	60.6%
回答数	1070	100.0%	533	100.0%

カ 野菜や果物を多めにとる

「現在行っている」が60.5%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が30.4%、「知っていたが行わない」が6.1%となっている。



(回答者数：1,644人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性57.1%、女性は62.3%となっている。

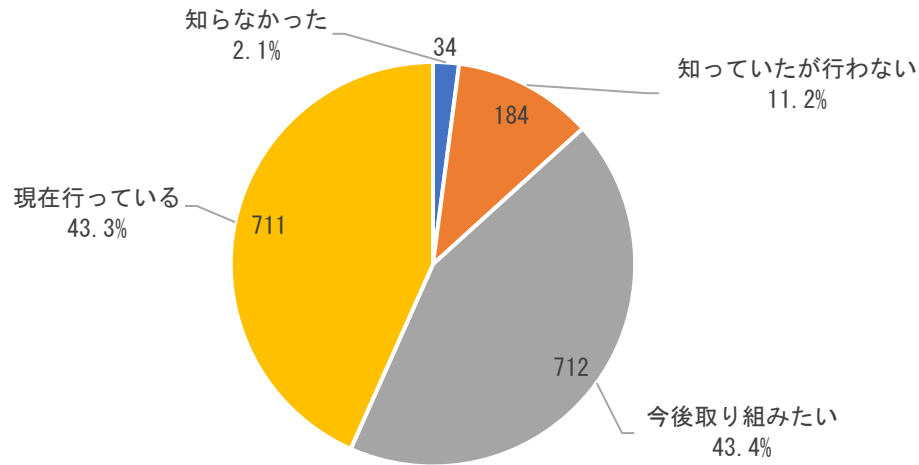
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	13	2.3%	37	3.5%	0	0.0%
知っていたが行わない	53	9.3%	46	4.3%	1	33.3%
今後取り組みたい	177	31.2%	320	29.9%	1	33.3%
現在行っている	324	57.1%	667	62.3%	1	33.3%
回答数	567	100.0%	1070	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労あり55.5%、就労なしは70.1%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	37	3.5%	12	2.2%
知っていたが行わない	60	5.6%	38	7.1%
今後取り組みたい	379	35.4%	111	20.6%
現在行っている	594	55.5%	378	70.1%
回答数	1070	100.0%	539	100.0%

キ 適度な運動を心がける

「今後取り組みたい」が43.4%で最も高く、次いで「現在行っている」が43.3%、「知っていたが行わない」が11.2%となっている。



(回答者数：1,641人)

性別に見ると、男性は「現在行っている」が47.9%、女性は「今後取り組みたい」が46.7%で最も高くなっている。

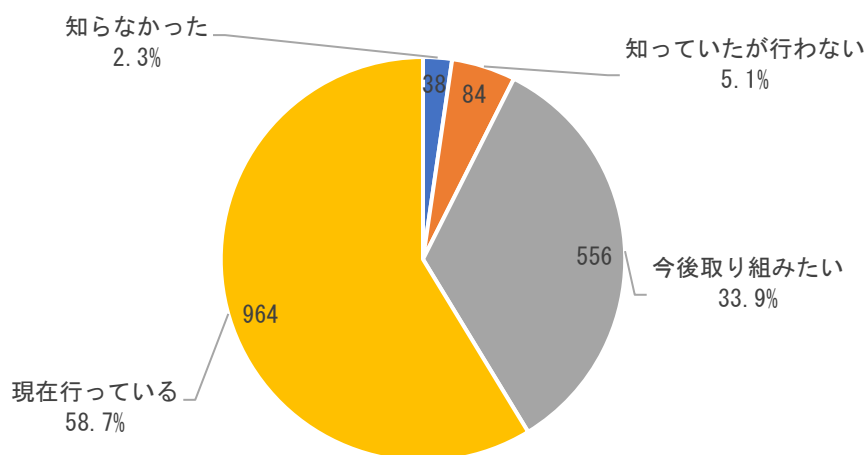
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	10	1.8%	24	2.2%	0	0.0%
知っていたが行わない	75	13.3%	107	10.0%	2	66.7%
今後取り組みたい	209	37.1%	500	46.7%	1	33.3%
現在行っている	270	47.9%	439	41.0%	0	0.0%
回答数	564	100.0%	1070	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「今後取り組みたい」が46.7%、就労なしは「現在行っている」が48.8%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	25	2.3%	8	1.5%
知っていたが行わない	112	10.5%	69	12.8%
今後取り組みたい	499	46.7%	199	36.9%
現在行っている	432	40.4%	263	48.8%
回答数	1068	100.0%	539	100.0%

ク 適切な体重を維持する

「現在行っている」が58.7%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が33.9%、「知っていたが行わない」が5.1%となっている。



(回答者数：1,642人)

性別に見ると、男女共に「現在行っている」が最も高く、男性59.8%、女性は57.9%となっている。

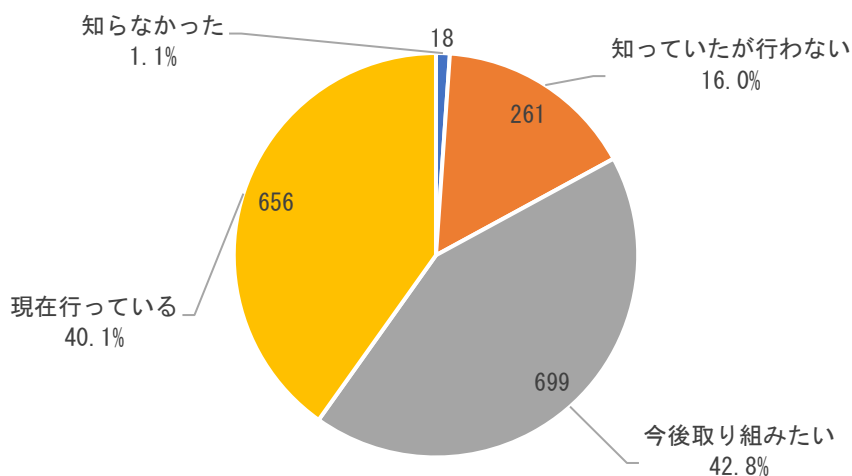
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	9	1.6%	29	2.7%	0	0.0%
知っていたが行わない	36	6.4%	48	4.5%	0	0.0%
今後取り組みたい	182	32.3%	374	34.9%	0	0.0%
現在行っている	337	59.8%	621	57.9%	3	100.0%
回答数	564	100.0%	1072	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「現在行っている」が最も高く、就労あり55.1%、就労なしは65.4%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	28	2.6%	9	1.7%
知っていたが行わない	46	4.3%	37	6.9%
今後取り組みたい	406	37.9%	141	26.1%
現在行っている	590	55.1%	353	65.4%
回答数	1070	100.0%	540	100.0%

ケ 定期的にがん検診を受ける

「今後取り組みたい」が42.8%で最も高く、次いで「現在行っている」が40.1%、「知っていたが行わない」が16.0%となっている。



(回答者数：1,634人)

性別に見ると、男性は「今後取り組みたい」が43.4%、女性は「今後取り組みたい」と「現在行っている」が同率42.3%で最も高くなっている。

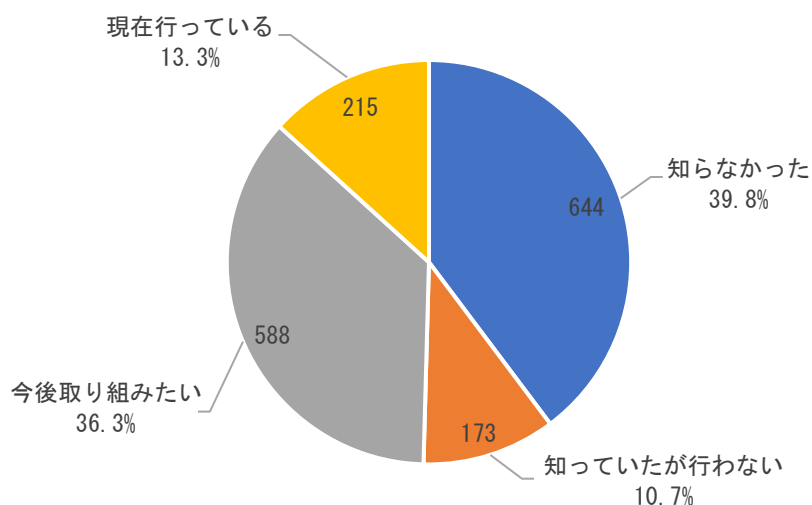
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	10	1.8%	8	0.8%	0	0.0%
知っていたが行わない	103	18.3%	156	14.6%	2	66.7%
今後取り組みたい	244	43.4%	451	42.3%	1	33.3%
現在行っている	205	36.5%	450	42.3%	0	0.0%
回答数	562	100.0%	1065	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「今後取り組みたい」が45.8%、就労なしは「現在行っている」39.5%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	12	1.1%	6	1.1%
知っていたが行わない	132	12.4%	121	22.7%
今後取り組みたい	489	45.8%	195	36.7%
現在行っている	434	40.7%	210	39.5%
回答数	1067	100.0%	532	100.0%

コ 口腔がんの自己検診・観察

「知らなかった」が39.8%で最も高く、次いで「今後取り組みたい」が36.3%、「現在行っている」が13.3%となっている。



(回答者数：1,620人)

性別に見ると、男女共に「知らなかった」が最も高く、男性42.3%、女性は38.4%となっている。

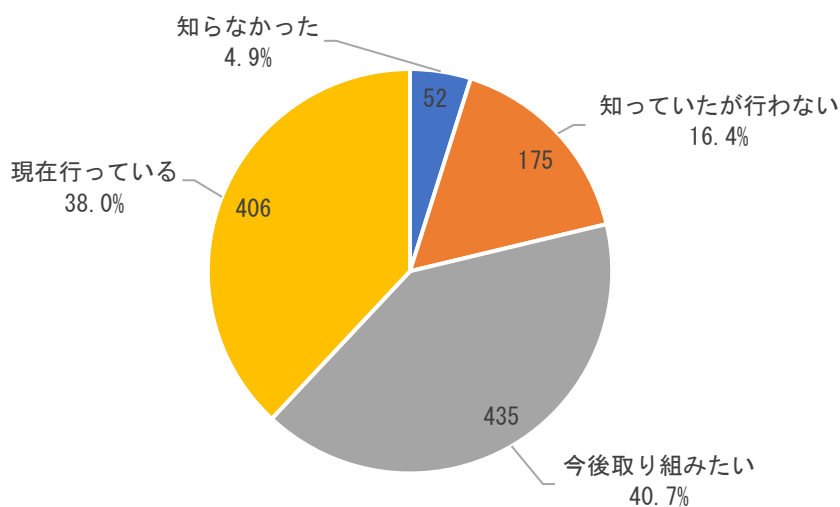
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	233	42.3%	408	38.4%	1	33.3%
知っていたが行わない	78	14.2%	94	8.9%	0	0.0%
今後取り組みたい	188	34.1%	397	37.4%	2	66.7%
現在行っている	52	9.4%	163	15.3%	0	0.0%
回答数	551	100.0%	1062	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「知らなかった」が最も高く、就労あり41.5%、就労なしは36.3%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	440	41.5%	191	36.3%
知っていたが行わない	104	9.8%	67	12.7%
今後取り組みたい	403	38.0%	175	33.3%
現在行っている	113	10.7%	93	17.7%
回答数	1060	100.0%	526	100.0%

サ 乳がんの自己検診・観察（女性のみ）

「今後取り組みたい」が40.7%で最も高く、次いで「現在行っている」が38.0%、「知っていたが行わない」が16.4%となっている。



（回答者数：1,068人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「今後取り組みたい」が42.6%、就労なしは「現在行っている」が38.1%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知らなかった	37	5.5%	15	4.0%
知っていたが行わない	94	13.9%	79	21.2%
今後取り組みたい	289	42.6%	137	36.7%
現在行っている	258	38.1%	142	38.1%
回答数	678	100.0%	373	100.0%

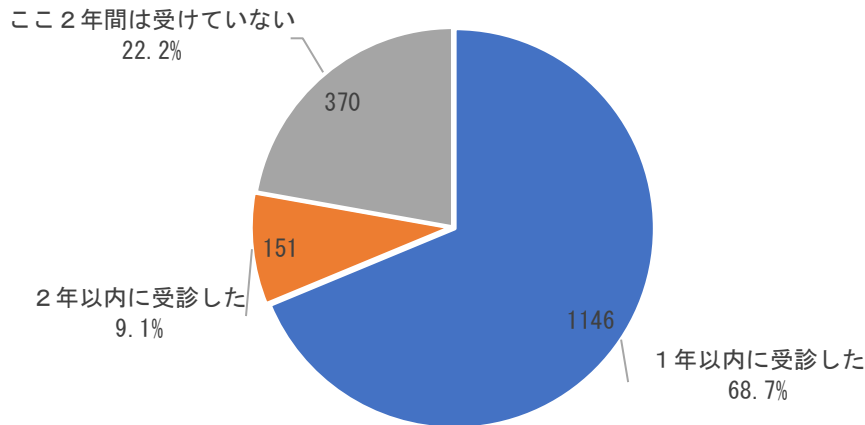
問4 健康診断やがん検診についてお答えください。

(1) 健康診断受診の有無（択一回答）

最近、健康診断を受診したか聞いたところ、「1年以内に受診した」が68.7%となっている。

一方で、「ここ2年間は受けていない」が22.2%となっている。

健康診断受診の有無



(回答者数：1,667人)

性別に見ると、男女共に「1年以内に受診した」が最も高く、男性74.3%、女性は66.0%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	422	74.3%	720	66.0%	1	33.3%
2年以内に受診した	35	6.2%	115	10.5%	1	33.3%
ここ2年間は受けていない	111	19.5%	256	23.5%	1	33.3%
回答数	568	100.0%	1091	100.0%	3	100.0%

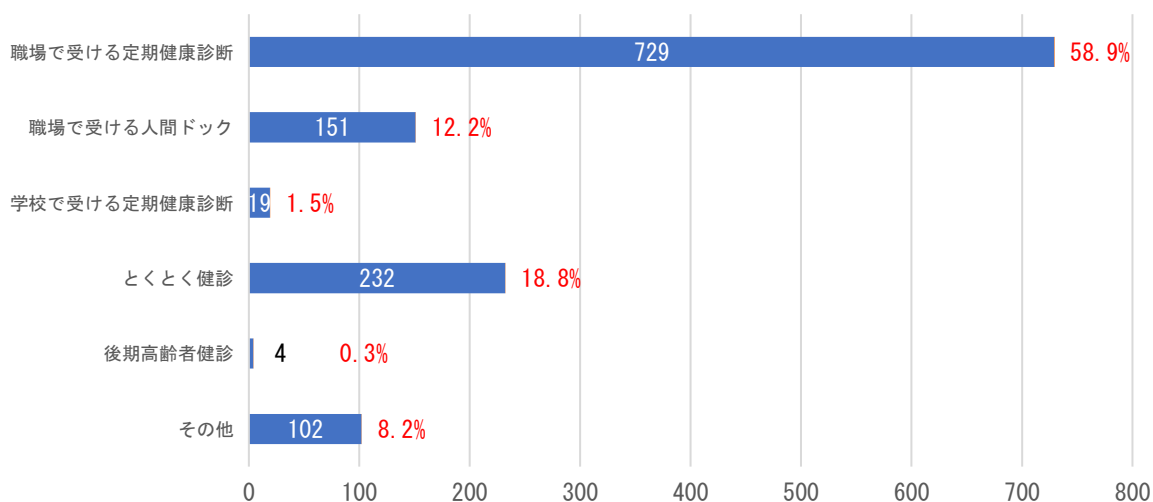
就労別に見ると就労ありなし共に「1年以内に受診した」が最も高く、就労あり80.1%、就労なしは46.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	867	80.1%	257	46.8%
2年以内に受診した	86	7.9%	62	11.3%
ここ2年間は受けていない	129	11.9%	230	41.9%
回答数	1082	100.0%	549	100.0%

(2) 受診した健康診断（複数回答）

問4(1)で「1年以内に受診した」「2年以内に受診した」を選択した回答者に、どこで健康診断を受診したか聞いたところ、「職場で受ける定期健康診断」が58.9%で最も高く、次いで「とくとく健診」が18.8%、「職場で受ける人間ドック」が12.2%となっている。

受診した健康診断（複数回答）



(サンプル計：1,237人)

性別に見ると、男女共に「職場で受ける定期健康診断」が最も高く、男性59.7%、女性は58.7%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
職場で受ける定期健康診断	261	59.7%	467	58.7%	0	0.0%
職場で受ける人間ドック	75	17.2%	74	9.3%	1	50.0%
学校で受ける定期健康診断	0	0.0%	18	2.3%	1	50.0%
とくとく健診（札幌市の国民健康保険による特定 検診。40～74歳が対象）	72	16.5%	159	20.0%	0	0.0%
後期高齢者健診	1	0.2%	3	0.4%	0	0.0%
その他	28	6.4%	74	9.3%	0	0.0%
回答数	437	100.0%	795	100.0%	2	100.0%

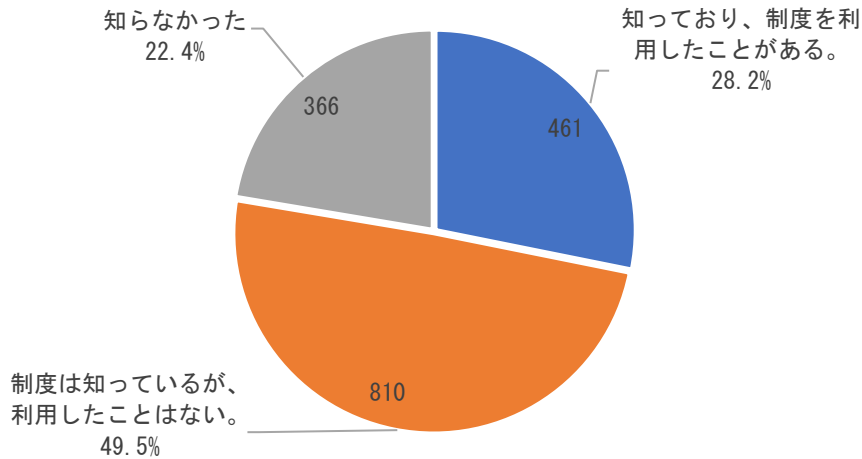
就労別に見ると、就労ありは「職場で受ける定期健康診断」が72.0%、就労なしは「とくとく健診」が52.4%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
職場で受ける定期健康診断	667	72.0%	48	16.6%
職場で受ける人間ドック	131	14.1%	17	5.9%
学校で受ける定期健康診断	5	0.5%	14	4.8%
とくとく健診（札幌市の国民健康保険による特定検診。40～74歳が対象）	78	8.4%	152	52.4%
後期高齢者健診	1	0.1%	3	1.0%
その他	44	4.8%	56	19.3%
回答数	926	100.0%	290	100.0%

(3) 札幌市のがん検診制度について（択一回答）

札幌市実施のがん検診制度について知っているか聞いたところ、「制度は知っているが、利用したことはない」が49.5%で最も高く、「知っており、制度を利用したことがある」は28.2%となっている。

札幌市実施のがん検診制度について



(回答者数：1,637人)

性別に見ると、男女共に「制度は知っているが、利用したことはない」が最も高く、男性57.0%、女性は45.6%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知っており、制度を利用したことがある	60	10.7%	399	37.3%	0	0.0%
制度は知っているが、利用したことはない	320	57.0%	488	45.6%	0	0.0%
知らなかった	181	32.3%	183	17.1%	2	100.0%
回答数	561	100.0%	1070	100.0%	2	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「制度は知っているが、利用したことはない」が最も高く、就労あり49.6%、就労なしは48.6%となっている。

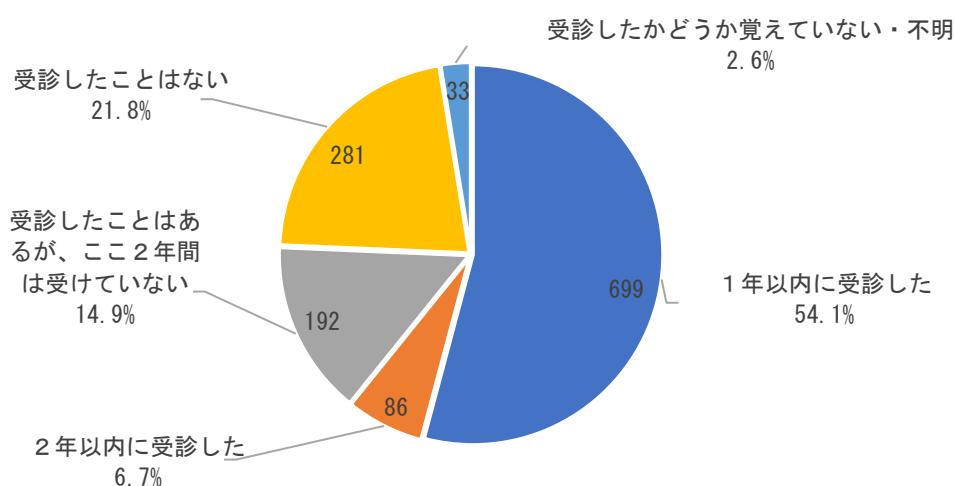
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知っており、制度を利用したことがある。	252	23.8%	202	37.2%
制度は知っているが、利用したことはない。	526	49.6%	264	48.6%
知らなかった	283	26.7%	77	14.2%
回答数	1061	100.0%	543	100.0%

(4) がん検診の受診状況（択一回答）

がん検診の受診状況について、がん検診の種類ごとに聞いた。なお、検診ごとに回答者の年代や性別が異なるため留意すること。

ア 肺がん検診（40歳以上の男女）

「1年以内に受診した」が54.1%で最も高く。次いで、「受診したことはない」が21.8%となっている。



（回答者数：1,291人）

性別に見ると、男女共に「1年以内に受診した」が最も高く、男性は58.9%、女性は51.0%となっている。

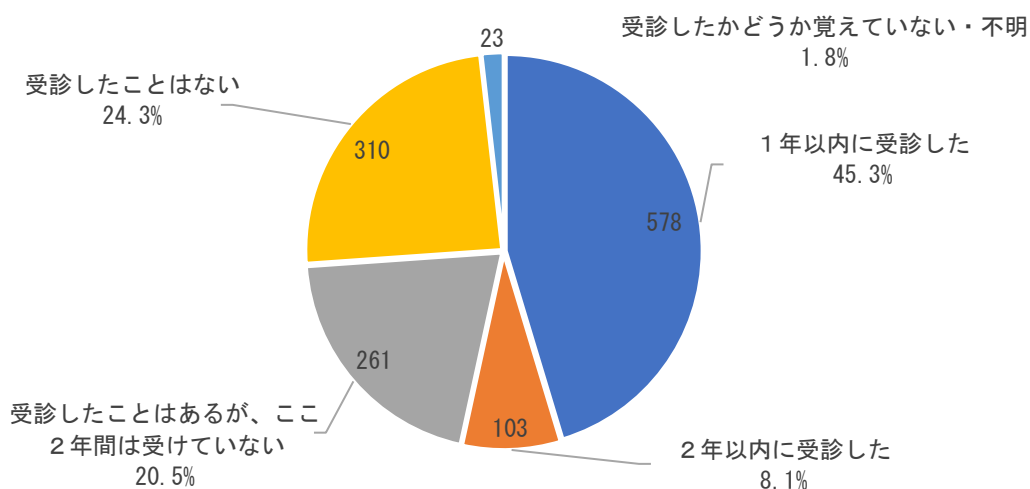
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	302	58.9%	397	51.0%
2年以内に受診した	34	6.6%	52	6.7%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	64	12.5%	128	16.5%
受診したことはない	102	19.9%	179	23.0%
受診したかどうか覚えていない・不明	11	2.1%	22	2.8%
回答数	513	100.0%	778	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「1年以内に受診した」が最も高く、就労ありは64.8%、就労なしは35.0%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	533	64.8%	155	35.0%
2年以内に受診した	44	5.3%	39	8.8%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	64	7.8%	127	28.7%
受診したことはない	164	19.9%	110	24.8%
受診したかどうか覚えていない・不明	18	2.2%	12	2.7%
回答数	823	100.0%	443	100.0%

イ 大腸がん検診（40歳以上の男女）

「1年以内に受診した」が45.3%で最も高く。次いで「受診したことはない」が24.3%となっている。



（回答者数：1,275人）

性別に見ると、男女共に「1年以内に受診した」が最も高く、男性は51.0%、女性は41.6%となっている。

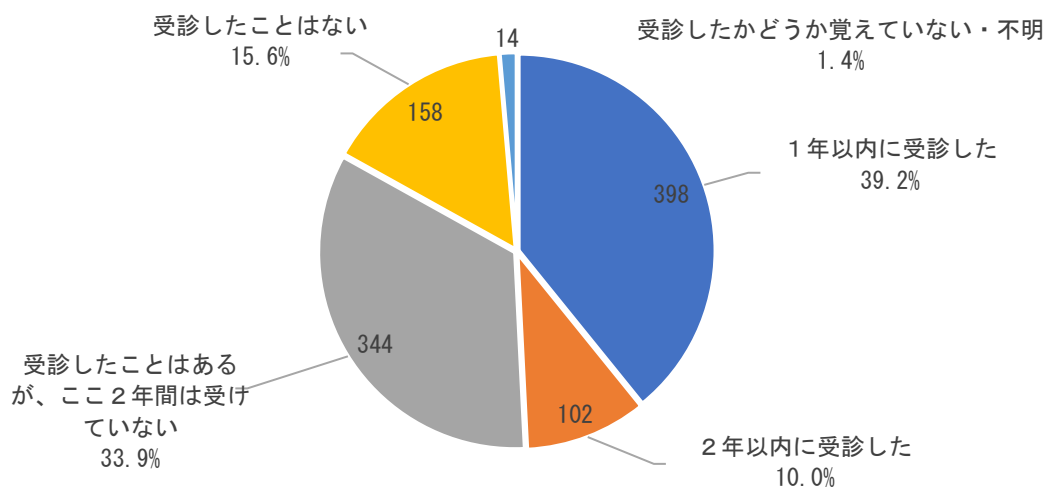
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	257	51.0%	321	41.6%
2年以内に受診した	39	7.7%	64	8.3%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	95	18.8%	166	21.5%
受診したことはない	105	20.8%	205	26.6%
受診したかどうか覚えていない・不明	8	1.6%	15	1.9%
回答数	504	100.0%	771	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「1年以内に受診した」が最も高く、就労ありは51.7%、就労なしは33.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	422	51.7%	147	33.8%
2年以内に受診した	55	6.7%	43	9.9%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	132	16.2%	126	29.0%
受診したことはない	194	23.7%	110	25.3%
受診したかどうか覚えていない・不明	14	1.7%	9	2.1%
回答数	817	100.0%	435	100.0%

ウ 胃がん検診（50歳以上の男女）

「1年以内に受診した」が39.2%で最も高く、次いで、「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が33.9%となっている。



（回答者数：1,016人）

性別に見ると、男性は「1年以内に受診した」が48.6%、女性は「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が38.4%で最も高くなっている。

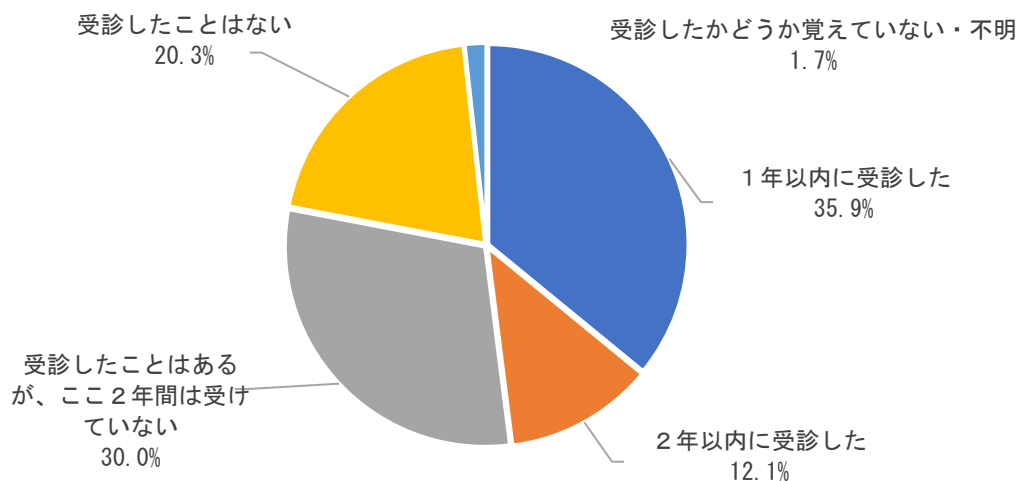
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	209	48.6%	189	32.3%
2年以内に受診した	40	9.3%	62	10.6%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	119	27.7%	225	38.4%
受診したことはない	58	13.5%	100	17.1%
受診したかどうか覚えていない・不明	4	0.9%	10	1.7%
回答数	430	100.0%	586	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「1年以内に受診した」が48.1%、就労なしは「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が42.9%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	278	48.1%	113	26.9%
2年以内に受診した	54	9.3%	47	11.2%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	158	27.3%	180	42.9%
受診したことはない	85	14.7%	70	16.7%
受診したかどうか覚えていない・不明	3	0.5%	10	2.4%
回答数	578	100.0%	420	100.0%

エ 子宮（頸）がん検診（20歳以上の女性）

「1年以内に受診した」が35.9%で最も高く。次いで「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が30.0%となっている。



（回答者数：977人）

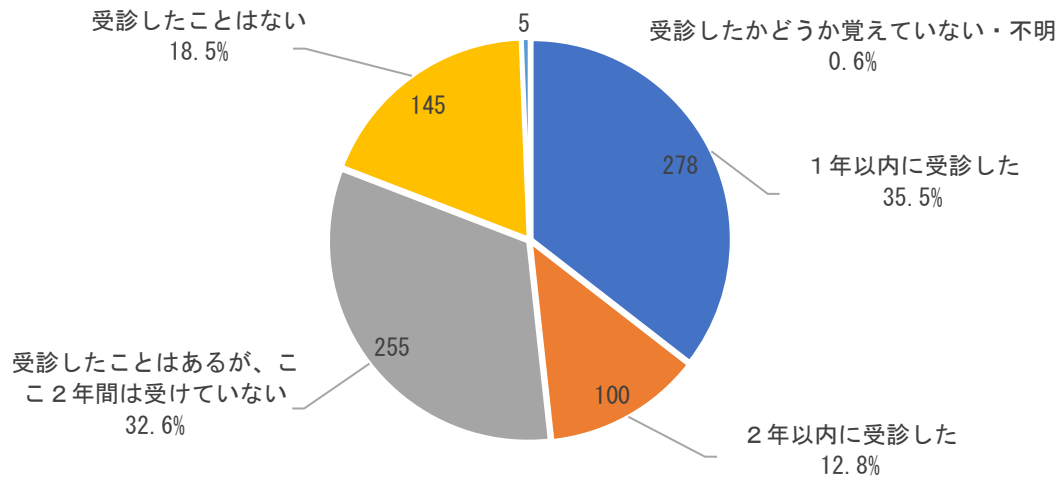
※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「1年以内に受診した」が41.5%、就労なしは「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が32.9%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	264	41.5%	84	25.6%
2年以内に受診した	70	11.0%	47	14.3%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	181	28.5%	108	32.9%
受診したことはない	112	17.6%	82	25.0%
受診したかどうか覚えていない・不明	9	1.4%	7	2.1%
回答数	636	100.0%	328	100.0%

オ 乳がん検診（40歳以上の女性）

「1年以内に受診した」が35.5%で最も高く、次いで「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が32.6%となっている。



（回答者数：783人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「1年以内に受診した」が43.2%、就労なしは「受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない」が38.9%で最も高くなっている。

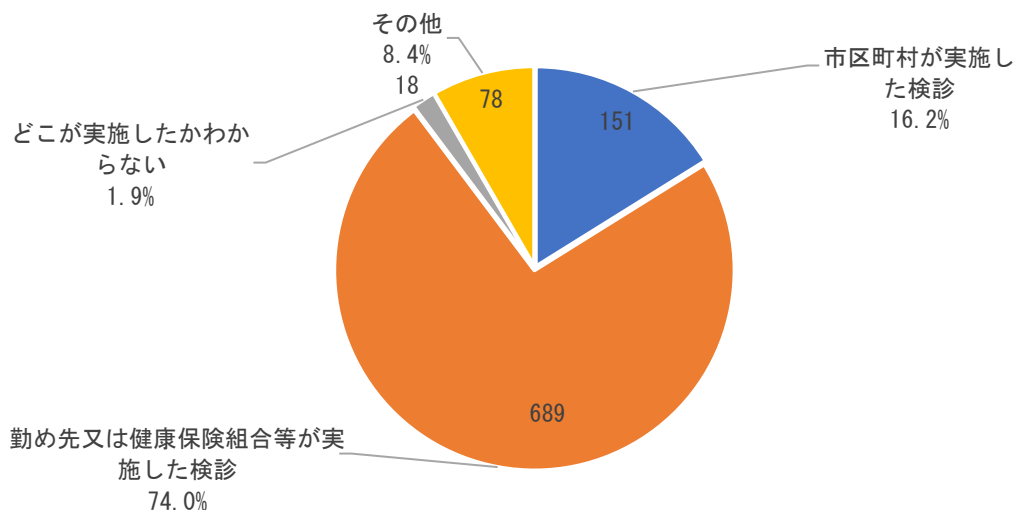
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
1年以内に受診した	205	43.2%	69	23.3%
2年以内に受診した	56	11.8%	43	14.5%
受診したことはあるが、ここ2年間は受けていない	137	28.9%	115	38.9%
受診したことはない	75	15.8%	65	22.0%
受診したかどうか覚えていない・不明	1	0.2%	4	1.4%
回答数	474	100.0%	296	100.0%

(5) がん検診の受診先（複数回答）

問4(4)で「1年以内に受診した」「2年以内に受診した」「受診したことはあるあるが、ここ2年間は受けていない」を選択した回答者に、がん検診の受診先について聞いた。なお、検診ごとに回答者の年代や性別が異なるため留意すること。

ア 肺がん検診（40歳以上の男女）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が74.0%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」が16.2%となっている。



(サンプル計：931人)

性別に見ると、男女共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、男性は77.2%、女性は71.8%となっている。

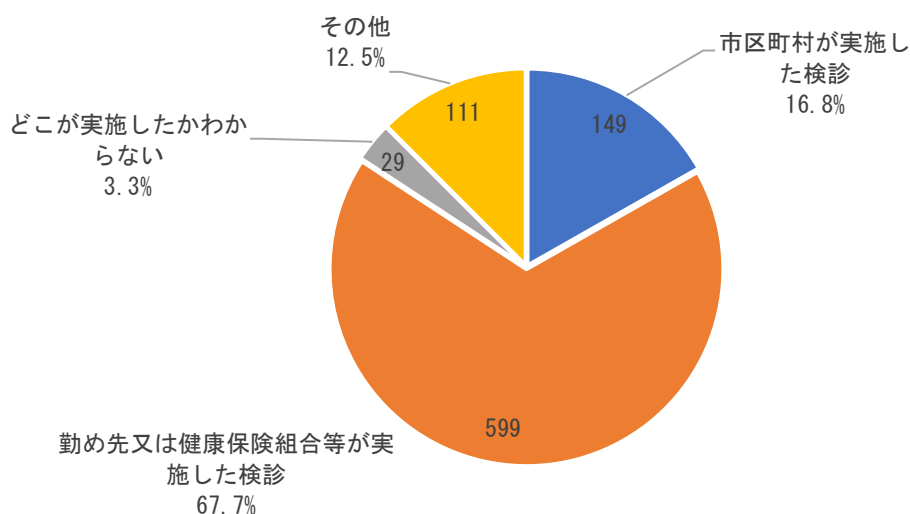
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	55	14.6%	96	17.4%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	292	77.2%	397	71.8%
どこが実施したかわからない	7	1.9%	11	2.0%
その他	26	6.9%	52	9.4%
サンプル計	378	100.0%	553	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、就労ありは86.3%、就労なしは45.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	53	8.3%	98	35.1%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	552	86.3%	127	45.5%
どこが実施したかわからない	12	1.9%	5	1.8%
その他	27	4.2%	50	17.9%
サンプル計	640	100.0%	279	100.0%

イ 大腸がん検診（40歳以上の男女）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が67.7%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」が16.8%となっている。



（サンプル計：885人）

性別に見ると、男女共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、男性は72.2%、女性は64.5%となっている。

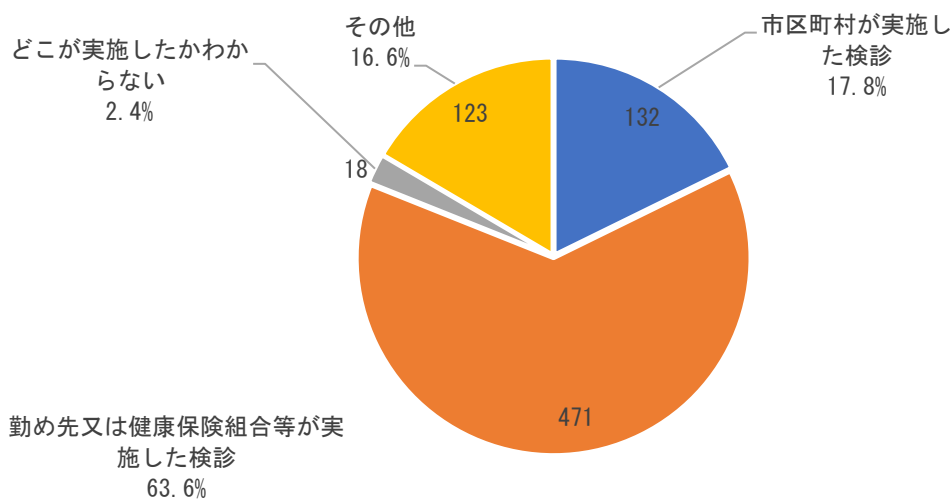
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	52	14.1%	97	18.8%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	267	72.2%	332	64.5%
どこが実施したかわからない	12	3.2%	17	3.3%
その他	41	11.1%	70	13.6%
サンプル計	370	100.0%	515	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、就労ありは80.6%、就労なしは39.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	52	8.8%	96	34.4%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	478	80.6%	111	39.8%
どこが実施したかわからない	18	3.0%	11	3.9%
その他	48	8.1%	61	21.9%
サンプル計	593	100.0%	279	100.0%

ウ 胃がん検診（50歳以上の男女）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が63.6%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」が17.8%となっている。



（サンプル計：741人）

性別に見ると、男女共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、男性は72.0%、女性は56.3%となっている。

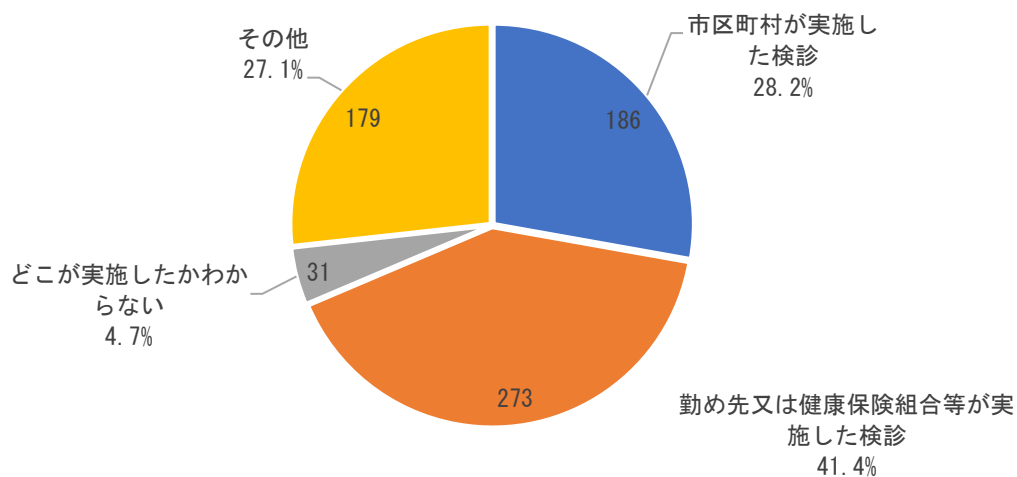
	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	50	14.6%	82	20.6%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	247	72.0%	224	56.3%
どこが実施したかわからない	10	2.9%	8	2.0%
その他	38	11.1%	85	21.4%
サンプル計	343	100.0%	398	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が最も高く、就労ありは76.1%、就労なしは42.9%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	48	10.6%	84	29.8%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	343	76.1%	121	42.9%
どこが実施したかわからない	12	2.7%	6	2.1%
その他	49	10.9%	73	25.9%
サンプル計	451	100.0%	282	100.0%

エ 子宮（頸）がん検診（20歳以上の女性）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が41.4%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」が28.2%となっている。



（サンプル計：660人）

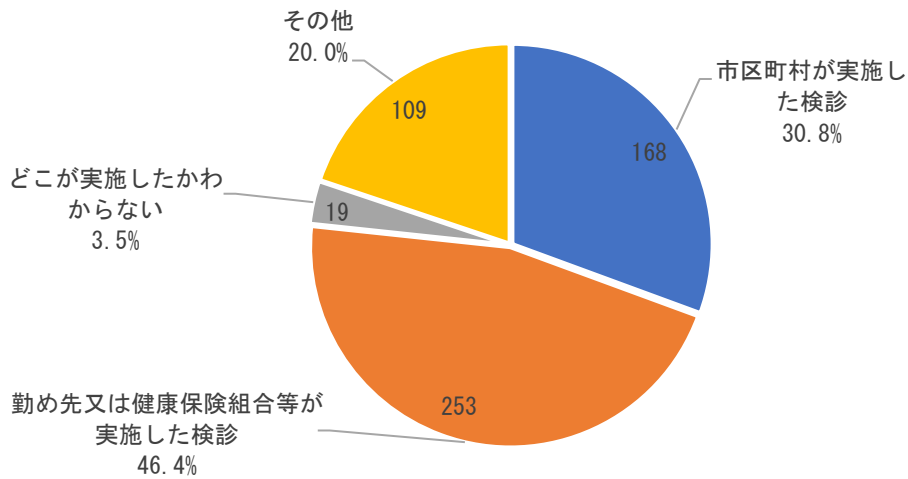
※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が45.3%、就労なしは「市区町村が実施した検診」が33.8%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	116	25.8%	69	33.8%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	204	45.3%	65	31.9%
どこが実施したかわからない	20	4.4%	10	4.9%
その他	115	25.6%	64	31.4%
サンプル計	450	100.0%	204	100.0%

オ 乳がん検診（40歳以上の女性）

「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が46.4%で最も高く、次いで「市区町村が実施した検診」の30.8%が続いている。



（サンプル計：545人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診」が51.9%、就労なしは「市区町村が実施した検診」が37.7%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
市区町村が実施した検診	95	27.2%	72	37.7%
勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	181	51.9%	68	35.6%
どこが実施したかわからない	13	3.7%	6	3.1%
その他	61	17.5%	48	25.1%
サンプル計	349	100.0%	191	100.0%

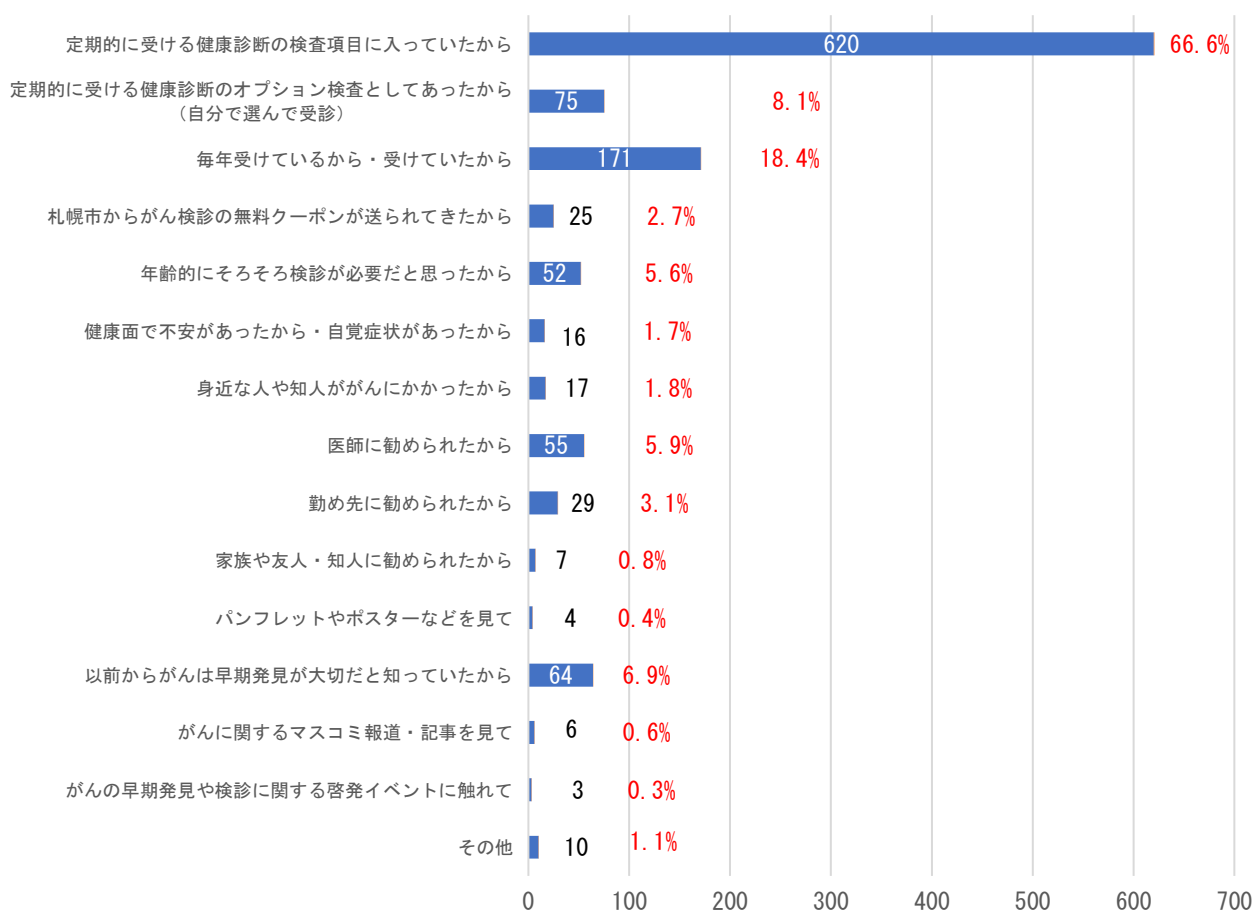
(6) 検診・検査を受診した理由・きっかけ（複数回答）

問4(4)で「1年以内に受診した」「2年以内に受診した」「受診したことはあるあるが、ここ2年間は受けていない」を選択した回答者に、検診・検査を受診した理由・きっかけについて聞いた。なお、検診ごとに回答者の年代や性別が異なるため留意すること。

ア 肺がん検診（40歳以上の男女）

「定期検診に受ける健康診断の検査項目に入っていたから」が66.6%で最も高く。次いで「毎年受けているから・受けていたから」が18.4%となっている。

肺がん検診を受けた理由（複数回答）



(サンプル計：931人)

性別に見ると、男女共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、男性は70.8%、女性は63.8%となっている。

肺がん検診を受けた理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	264	70.8%	356	63.8%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	30	8.0%	45	8.1%
毎年受けているから・受けていたから	71	19.0%	100	17.9%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	9	2.4%	16	2.9%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	11	2.9%	41	7.3%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	6	1.6%	10	1.8%
身近な人や知人ががんにかかったから	3	0.8%	14	2.5%
医師に勧められたから	25	6.7%	30	5.4%
勤め先に勧められたから	10	2.7%	19	3.4%
家族や友人・知人に勧められたから	2	0.5%	5	0.9%
パンフレットやポスターなどを見て	1	0.3%	3	0.5%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	27	7.2%	37	6.6%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.5%	4	0.7%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	1	0.3%	2	0.4%
その他	6	1.6%	4	0.7%
サンプル計	373	100.0%	558	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、就労ありは76.3%、就労なしは45.0%となっている。

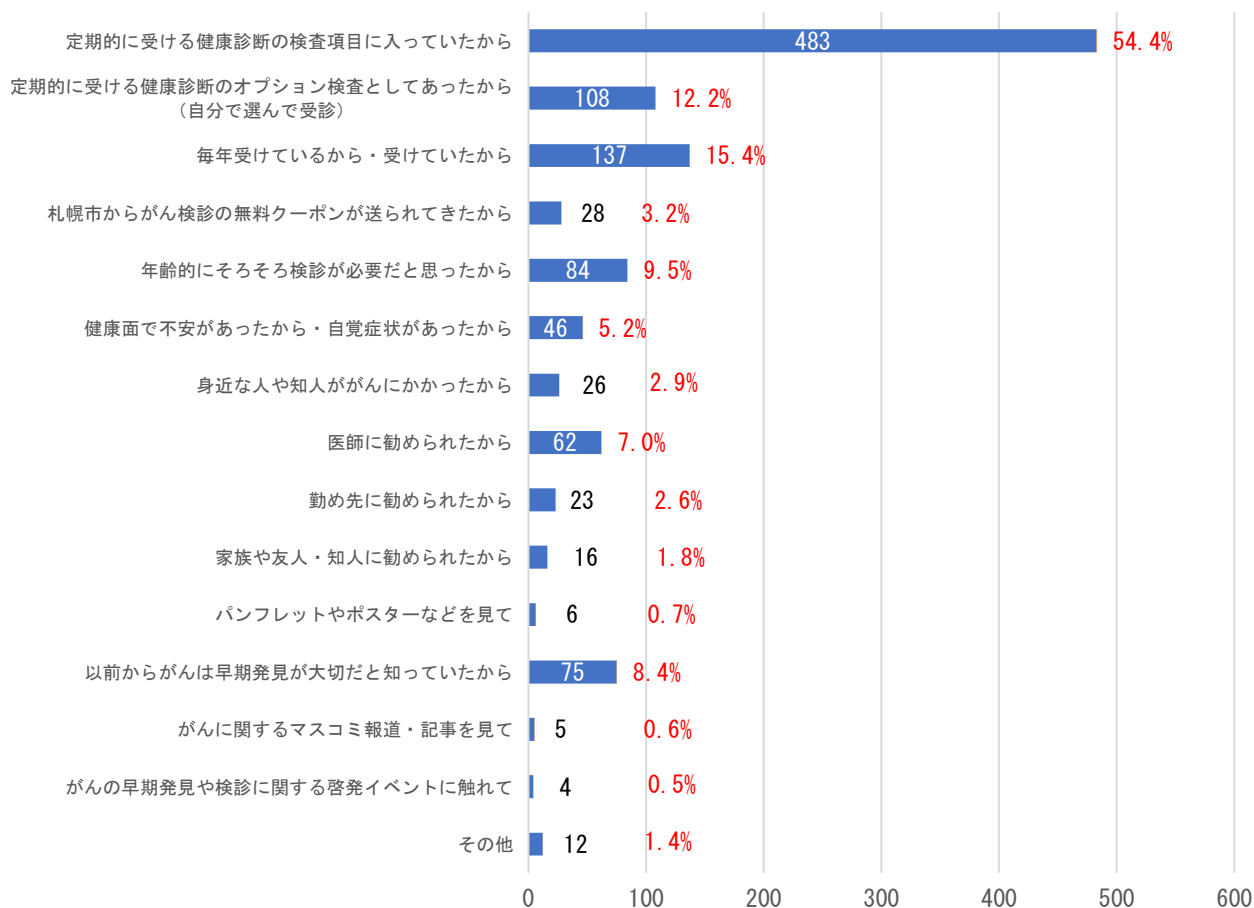
肺がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	480	76.3%	130	45.0%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	42	6.7%	32	11.1%
毎年受けているから・受けていたから	105	16.7%	64	22.1%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	7	1.1%	18	6.2%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	28	4.5%	24	8.3%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	7	1.1%	9	3.1%
身近な人や知人ががんにかかったから	12	1.9%	5	1.7%
医師に勧められたから	18	2.9%	36	12.5%
勤め先に勧められたから	19	3.0%	10	3.5%
家族や友人・知人に勧められたから	2	0.3%	4	1.4%
パンフレットやポスターなどを見て	0	0.0%	4	1.4%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	30	4.8%	33	11.4%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.3%	4	1.4%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	2	0.3%	1	0.3%
その他	6	1.0%	4	1.4%
サンプル計	629	100.0%	289	100.0%

イ 大腸がん検診（40歳以上の男女）

「定期検診に受ける健康診断の検査項目に入っていたから」が54.4%で最も高く、次いで「毎年受けているから・受けていたから」が15.4%となっている。

大腸がん検診を受けた理由（複数回答）



(サンプル計：888人)

性別に見ると、男女共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、男性は61.9%、女性は49.2%となっている。

大腸がん検診を受けた理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	224	61.9%	259	49.2%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	41	11.3%	67	12.7%
毎年受けているから・受けていたから	59	16.3%	78	14.8%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	13	3.6%	15	2.9%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	24	6.6%	60	11.4%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	12	3.3%	34	6.5%
身近な人や知人ががんにかかったから	5	1.4%	21	4.0%
医師に勧められたから	25	6.9%	37	7.0%
勤め先に勧められたから	10	2.8%	13	2.5%
家族や友人・知人に勧められたから	5	1.4%	11	2.1%
パンフレットやポスターなどを見て	1	0.3%	5	1.0%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	28	7.7%	47	8.9%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	1	0.3%	4	0.8%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	2	0.6%	2	0.4%
その他	6	1.7%	6	1.1%
サンプル計	362	100.0%	526	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、就労ありは64.5%、就労なしは33.2%となっている。

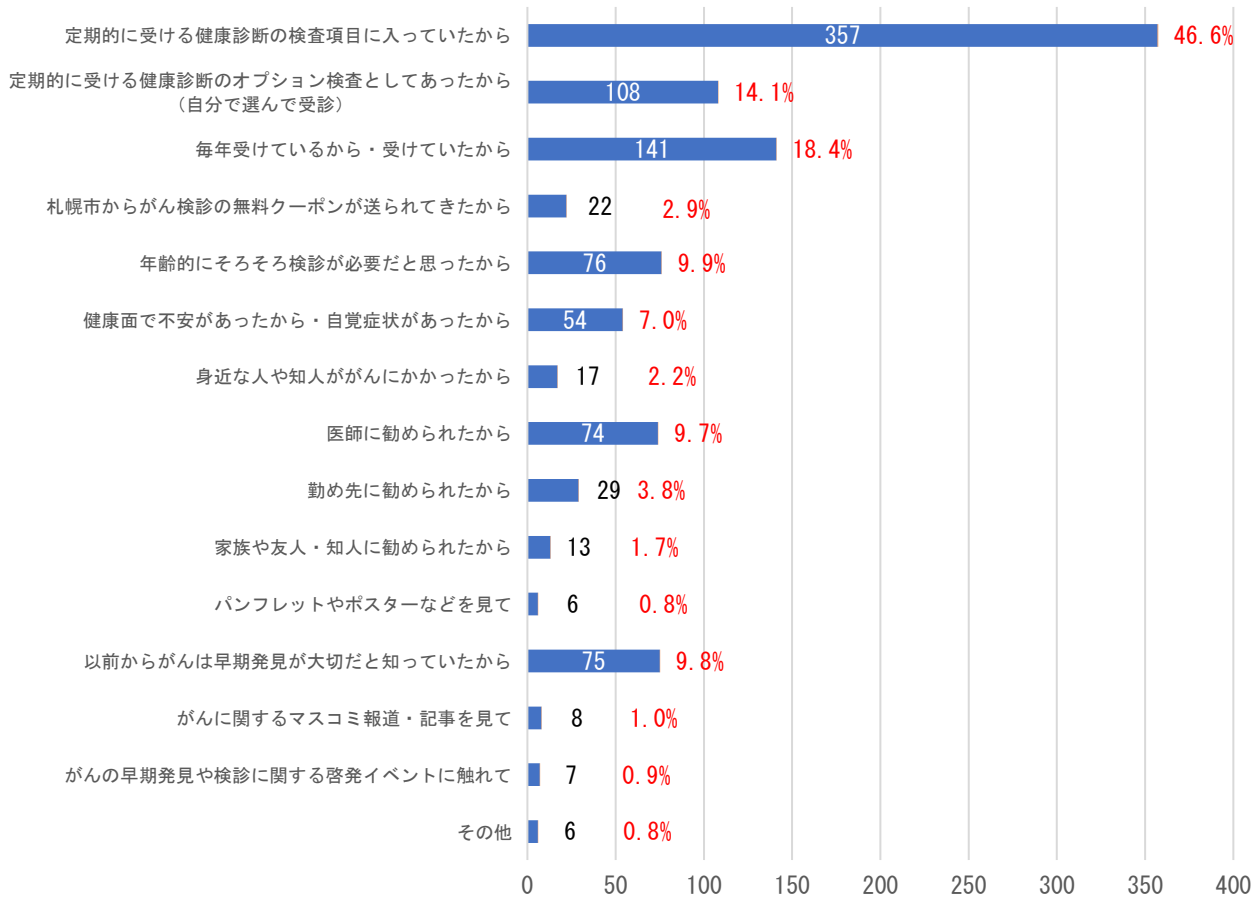
大腸がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	379	64.5%	95	33.2%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	58	9.9%	49	17.1%
毎年受けているから・受けていたから	81	13.8%	54	18.9%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	13	2.2%	14	4.9%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	47	8.0%	37	12.9%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	25	4.3%	21	7.3%
身近な人や知人ががんにかかったから	16	2.7%	10	3.5%
医師に勧められたから	25	4.3%	36	12.6%
勤め先に勧められたから	16	2.7%	7	2.4%
家族や友人・知人に勧められたから	9	1.5%	6	2.1%
パンフレットやポスターなどを見て	3	0.5%	3	1.0%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	40	6.8%	34	11.9%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.3%	3	1.0%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	3	0.5%	1	0.3%
その他	5	0.9%	6	2.1%
サンプル計	588	100.0%	286	100.0%

ウ 胃がん検診（50歳以上の男女）

「定期検診に受ける健康診断の検査項目に入っていたから」が46.6%で最も高く、次いで「毎年受けているから・受けていたから」が18.4%となっている。

胃がん検診を受けた理由（複数回答）



(サンプル計：766人)

性別に見ると、男女共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、男性は59.1%、女性は36.6%となっている。

胃がん検診を受けた理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	201	59.1%	156	36.6%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	43	12.6%	65	15.3%
毎年受けているから・受けていたから	65	19.1%	76	17.8%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	11	3.2%	11	2.6%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	22	6.5%	54	12.7%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	11	3.2%	43	10.1%
身近な人や知人ががんにかかったから	1	0.3%	16	3.8%
医師に勧められたから	33	9.7%	41	9.6%
勤め先に勧められたから	16	4.7%	13	3.1%
家族や友人・知人に勧められたから	3	0.9%	10	2.3%
パンフレットやポスターなどを見て	1	0.3%	5	1.2%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	30	8.8%	45	10.6%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.6%	6	1.4%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	1	0.3%	6	1.4%
その他	2	0.6%	4	0.9%
サンプル計	340	100.0%	426	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）」が最も高く、就労ありは55.9%、就労なしは31.3%となっている。

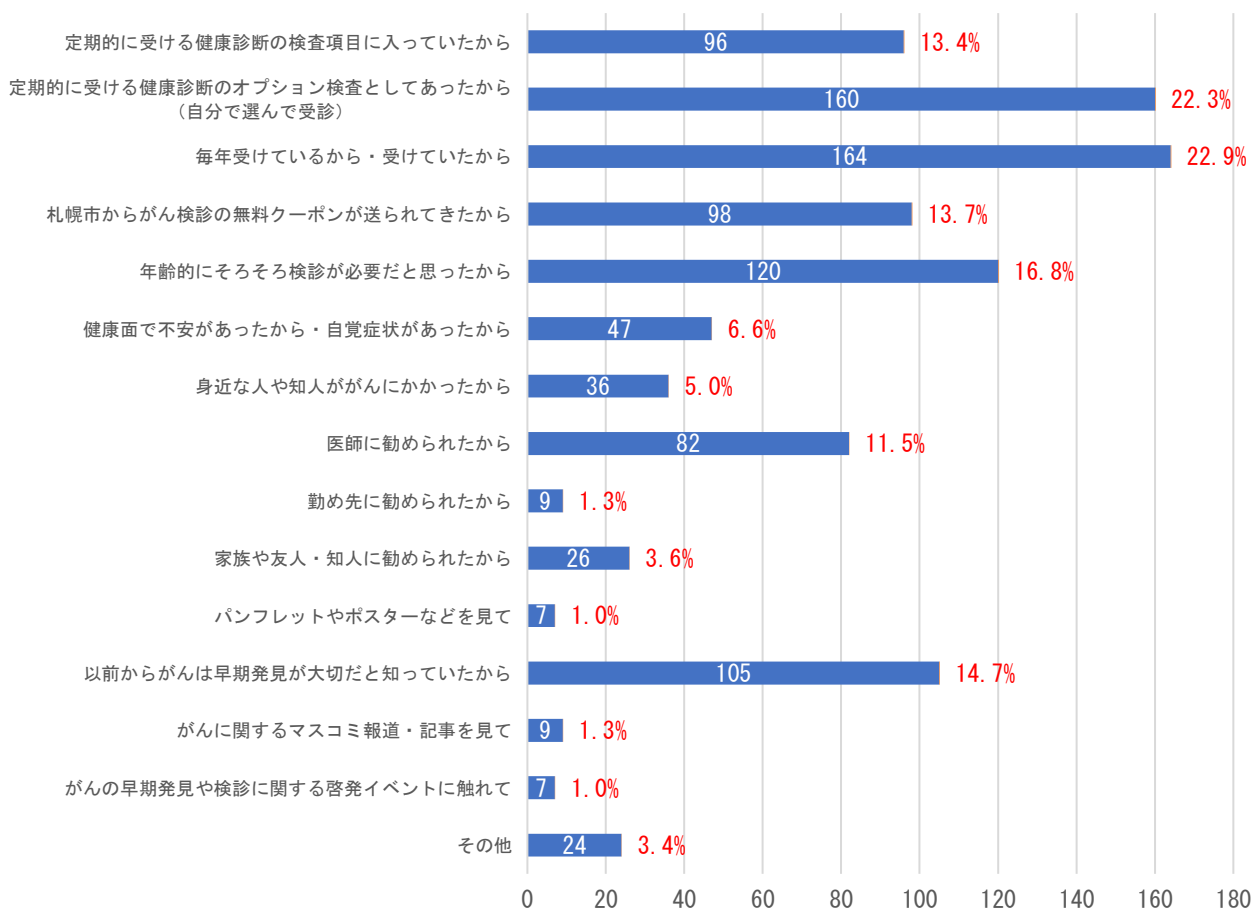
胃がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	255	55.9%	94	31.3%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	69	15.1%	39	13.0%
毎年受けているから・受けていたから	82	18.0%	58	19.3%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	11	2.4%	11	3.7%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	39	8.6%	37	12.3%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	26	5.7%	27	9.0%
身近な人や知人ががんにかかったから	9	2.0%	8	2.7%
医師に勧められたから	32	7.0%	41	13.7%
勤め先に勧められたから	15	3.3%	14	4.7%
家族や友人・知人に勧められたから	5	1.1%	7	2.3%
パンフレットやポスターなどを見て	1	0.2%	5	1.7%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	33	7.2%	41	13.7%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	2	0.4%	6	2.0%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	4	0.9%	3	1.0%
その他	2	0.4%	4	1.3%
サンプル計	456	100.0%	300	100.0%

エ 子宮（頸）がん検診（20歳以上の女性）

「毎年受けているから・受けていたから」が22.9%で最も高く、次いで「定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）」が22.3%となっている。

子宮（頸）がん検診を受けた理由（複数回答）



（サンプル計：716人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）」が23.6%、就労なしは「毎年受けているから・受けていたから」が25.0%で最も高くなっている。

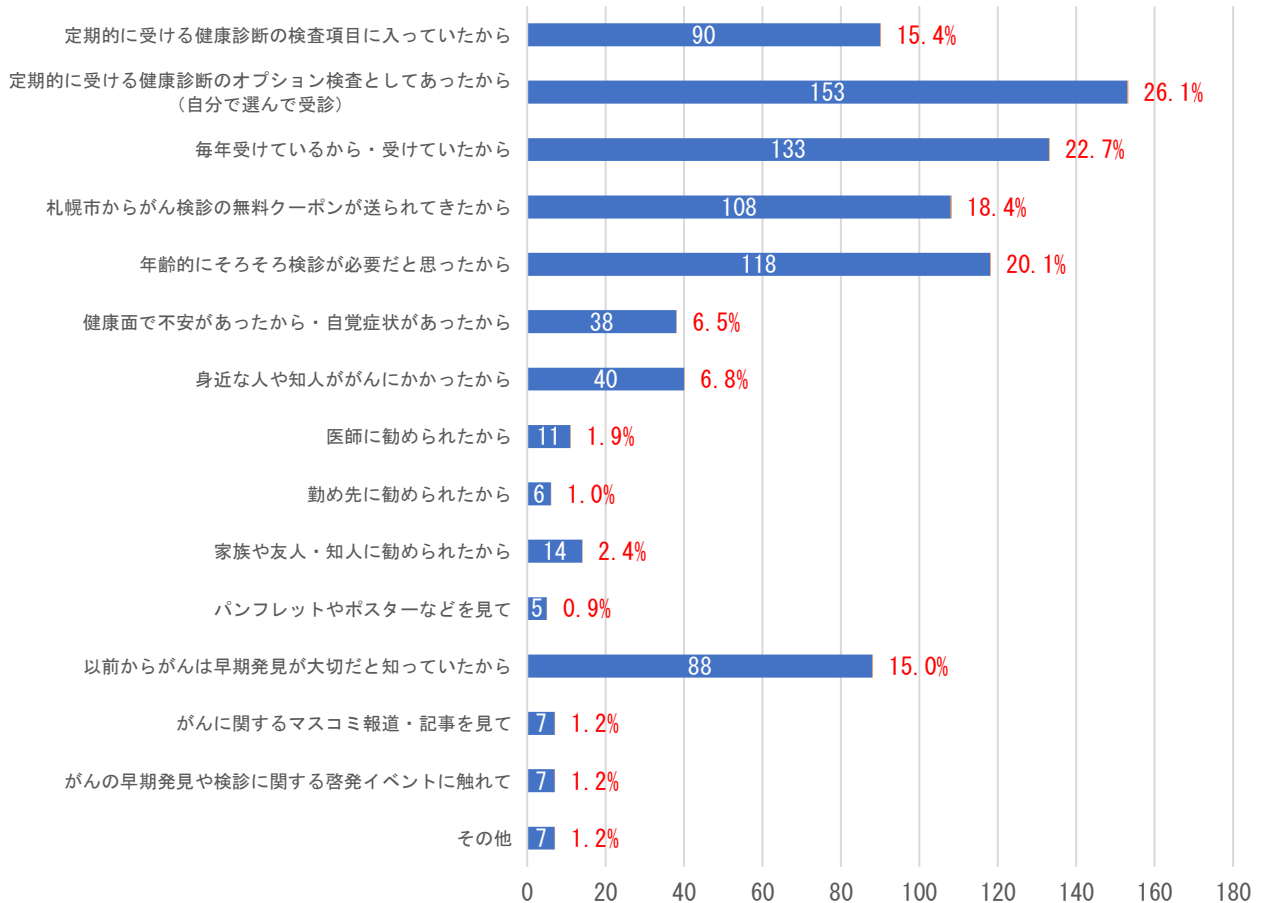
子宮（頸）がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	70	14.5%	24	10.7%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	114	23.6%	45	20.1%
毎年受けているから・受けていたから	106	21.9%	56	25.0%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	76	15.7%	21	9.4%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	76	15.7%	43	19.2%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	36	7.4%	10	4.5%
身近な人や知人ががんにかかったから	21	4.3%	14	6.3%
医師に勧められたから	52	10.7%	29	12.9%
勤め先に勧められたから	7	1.4%	2	0.9%
家族や友人・知人に勧められたから	22	4.5%	4	1.8%
パンフレットやポスターなどを見て	2	0.4%	5	2.2%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	60	12.4%	43	19.2%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	4	0.8%	5	2.2%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	4	0.8%	3	1.3%
その他	18	3.7%	6	2.7%
サンプル計	484	100.0%	224	100.0%

オ 乳がん検診（40歳以上の女性）

「定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）」が26.1%で最も高く、次いで「毎年受けているから・受けていたから」が22.7%となっている。

乳がん検診を受けた理由（複数回答）



(サンプル計：586人)

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）」が26.5%、就労なしは「毎年受けているから・受けていたから」が26.2%で最も高くなっている。

乳がん検診を受けた理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	67	18.0%	21	10.2%
定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	99	26.5%	53	25.7%
毎年受けているから・受けていたから	77	20.6%	54	26.2%
札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	70	18.8%	36	17.5%
年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	76	20.4%	41	19.9%
健康面で不安があったから・自覚症状があったから	28	7.5%	9	4.4%
身近な人や知人ががんにかかったから	27	7.2%	13	6.3%
医師に勧められたから	7	1.9%	4	1.9%
勤め先に勧められたから	4	1.1%	2	1.0%
家族や友人・知人に勧められたから	10	2.7%	4	1.9%
パンフレットやポスターなどを見て	2	0.5%	3	1.5%
以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	47	12.6%	39	18.9%
がんに関するマスコミ報道・記事を見て	4	1.1%	3	1.5%
がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	5	1.3%	2	1.0%
その他	3	0.8%	4	1.9%
サンプル計	373	100.0%	206	100.0%

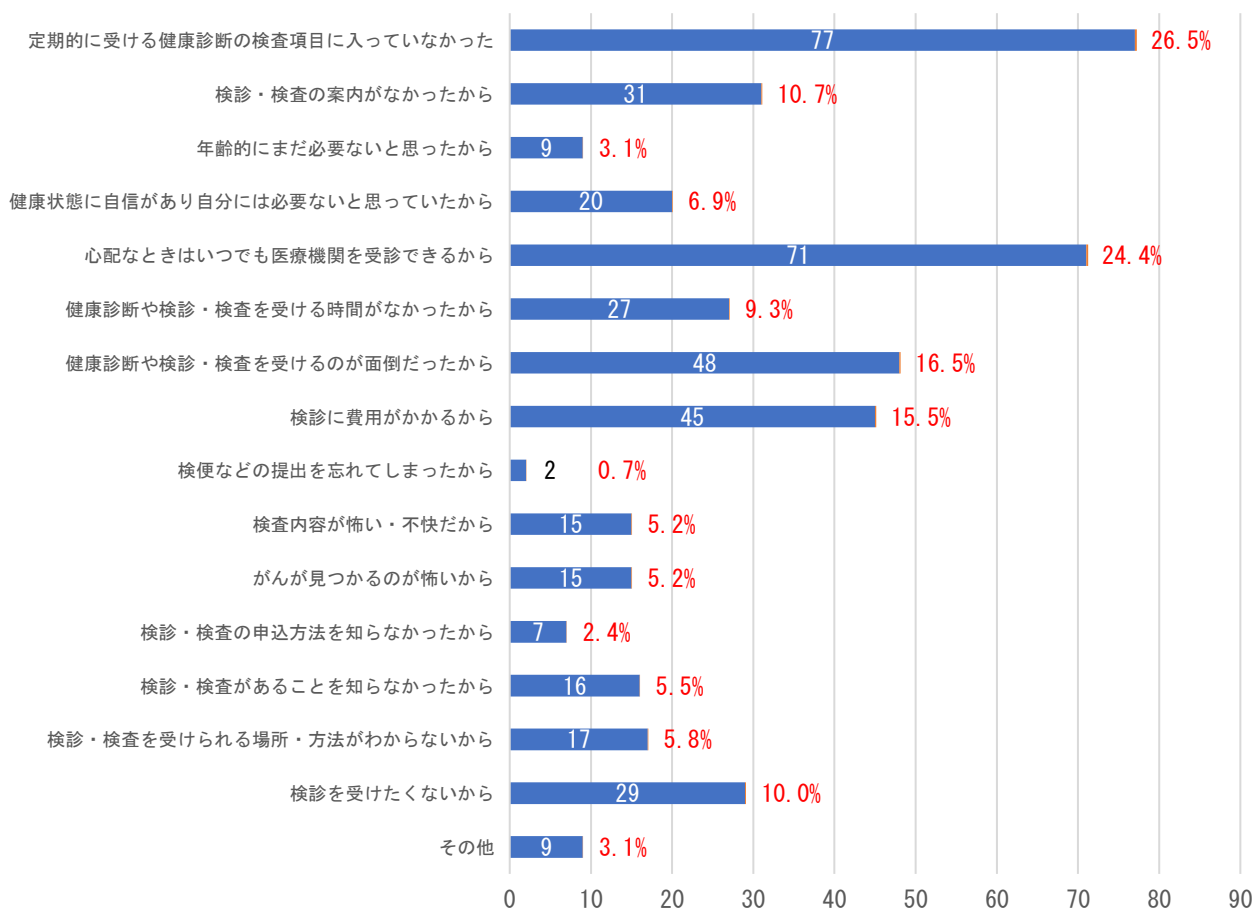
(7) 検診・検査を受診しない理由（複数回答）

問4(4)で「受診したことはない」「受診したかどうか覚えてない・不明」を選択した回答者に、検診・検査を受診しない理由について聞いた。なお、検診ごとに回答者の年代や性別が異なるため留意すること。

ア 肺がん検診（40歳以上の男女）

「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が26.5%で最も高く、次いで「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が24.4%となっている。

肺がん検診を受けていない理由（複数回答）



(サンプル計：291人)

性別に見ると、男性は「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が39.3%、女性は「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が27.9%で最も高くなっている。

肺がん検診を受けていない理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	44	39.3%	33	18.4%
検診・検査の案内がなかったから	17	15.2%	14	7.8%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	2	1.8%	7	3.9%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	4	3.6%	16	8.9%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	21	18.8%	50	27.9%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	9	8.0%	18	10.1%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	18	16.1%	30	16.8%
検診に費用がかかるから	17	15.2%	28	15.6%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	0.9%	1	0.6%
検査内容が怖い・不快だから	7	6.3%	8	4.5%
がんが見つかるのが怖いから	6	5.4%	9	5.0%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	5	4.5%	2	1.1%
検診・検査があることを知らなかったから	8	7.1%	8	4.5%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	11	9.8%	6	3.4%
検診を受けたくないから	12	10.7%	17	9.5%
その他	0	0.0%	9	5.0%
サンプル計	112	100.0%	179	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が37.0%、就労なしは「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が34.2%で最も高くなっている。

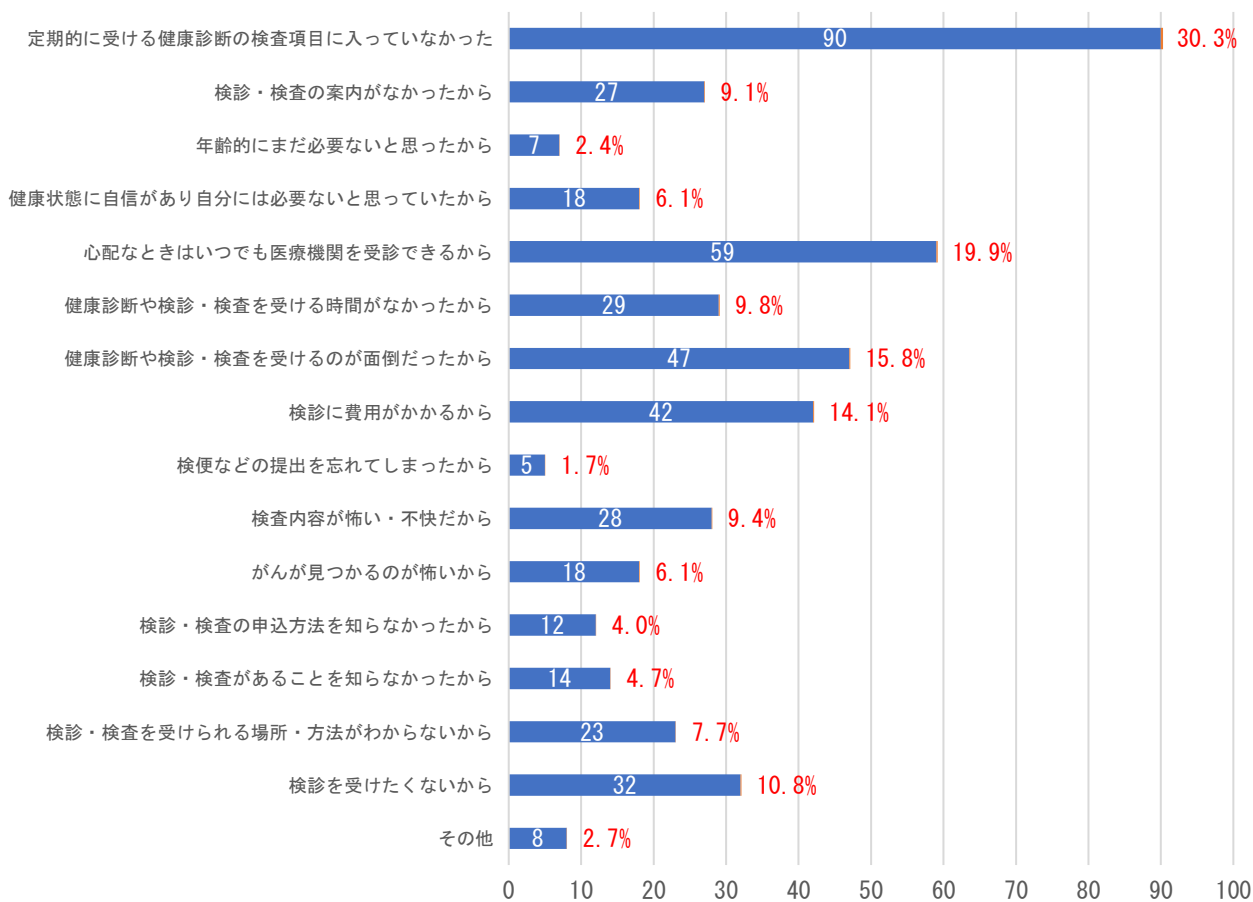
肺がん検診を受けていない理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	61	37.0%	14	11.7%
検診・検査の案内がなかったから	24	14.5%	7	5.8%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	5	3.0%	3	2.5%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	9	5.5%	10	8.3%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	29	17.6%	41	34.2%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	21	12.7%	5	4.2%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	22	13.3%	25	20.8%
検診に費用がかかるから	35	21.2%	9	7.5%
検便などの提出を忘れてしまったから	2	1.2%	0	0.0%
検査内容が怖い・不快だから	6	3.6%	9	7.5%
がんが見つかるのが怖いから	10	6.1%	5	4.2%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	4	2.4%	2	1.7%
検診・検査があることを知らなかったから	10	6.1%	6	5.0%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	10	6.1%	5	4.2%
検診を受けたくないから	11	6.7%	16	13.3%
その他	3	1.8%	6	5.0%
サンプル計	165	100.0%	120	100.0%

イ 大腸がん検診（40歳以上の男女）

「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が30.3%で最も高く、次いで「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」で19.9%となっている。

大腸がん検診を受けていない理由（複数回答）



(サンプル計：297人)

性別に見ると、男女共に「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が最も高く、男性は42.2%、女性は23.4%となっている。

大腸がん検診を受けていない理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	46	42.2%	44	23.4%
検診・検査の案内がなかったから	14	12.8%	13	6.9%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	1	0.9%	6	3.2%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	3	2.8%	15	8.0%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	16	14.7%	43	22.9%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	13	11.9%	16	8.5%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	18	16.5%	29	15.4%
検診に費用がかかるから	17	15.6%	25	13.3%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	0.9%	4	2.1%
検査内容が怖い・不快だから	5	4.6%	23	12.2%
がんが見つかるのが怖いから	4	3.7%	14	7.4%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	9	8.3%	3	1.6%
検診・検査があることを知らなかったから	8	7.3%	6	3.2%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	14	12.8%	9	4.8%
検診を受けたくないから	10	9.2%	22	11.7%
その他	1	0.9%	7	3.7%
サンプル計	109	100.0%	188	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が38.2%、就労なしは「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が27.4%で最も高くなっている。

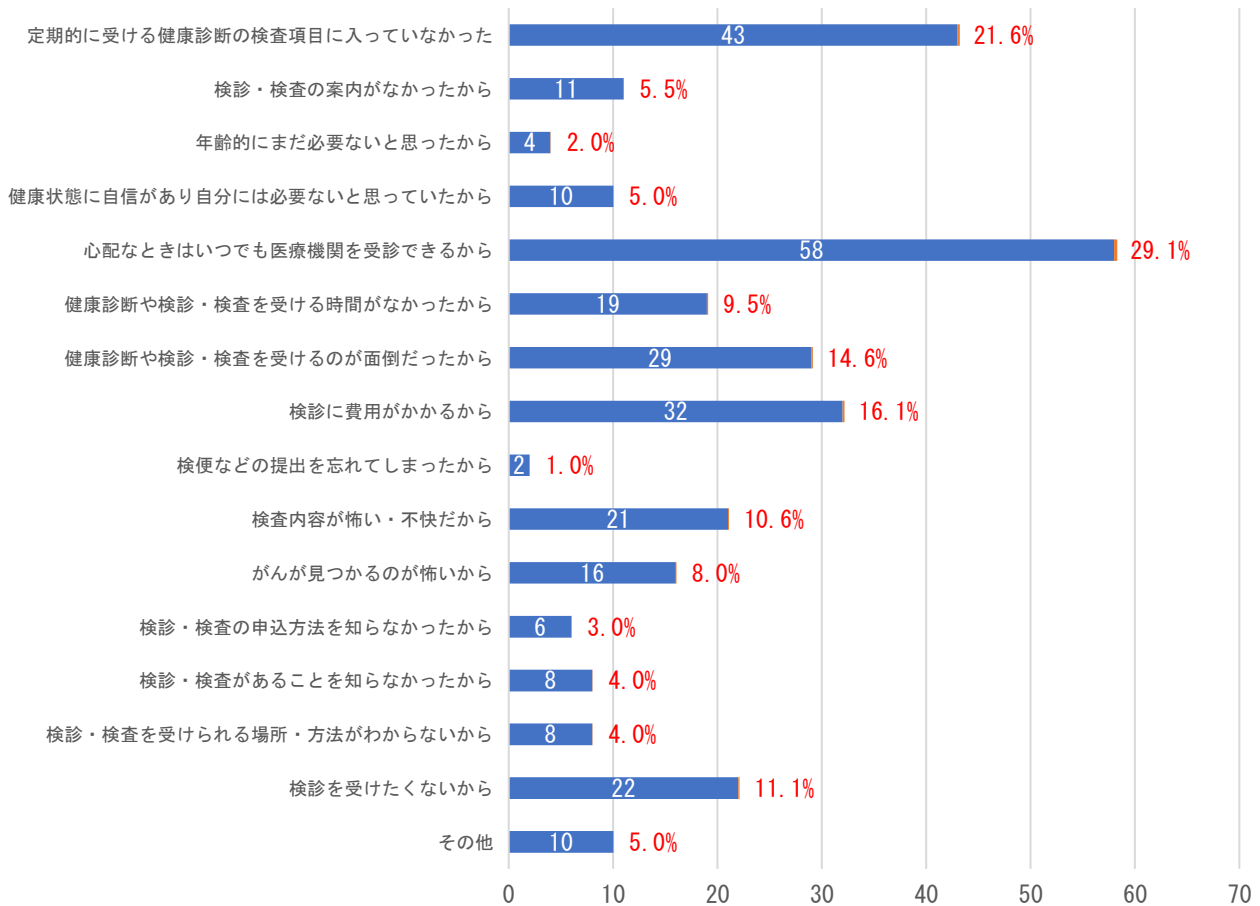
大腸がん検診を受けていない理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	68	38.2%	19	16.8%
検診・検査の案内がなかったから	22	12.4%	5	4.4%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	4	2.2%	3	2.7%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	9	5.1%	8	7.1%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	27	15.2%	31	27.4%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	27	15.2%	1	0.9%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	24	13.5%	21	18.6%
検診に費用がかかるから	31	17.4%	9	8.0%
検便などの提出を忘れてしまったから	4	2.2%	1	0.9%
検査内容が怖い・不快だから	13	7.3%	15	13.3%
がんが見つかるのが怖いから	12	6.7%	6	5.3%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	7	3.9%	3	2.7%
検診・検査があることを知らなかったから	8	4.5%	5	4.4%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	13	7.3%	7	6.2%
検診を受けたくないから	12	6.7%	19	16.8%
その他	3	1.7%	5	4.4%
サンプル計	178	100.0%	113	100.0%

ウ 胃がん検診（50歳以上の男女）

「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が29.1%で最も高く、次いで「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」の21.6%となっている。

胃がん検診を受けていない理由（複数回答）



（サンプル計：199人）

性別に見ると、男性は「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が29.5%、女性は「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が33.9%で最も高くなっている。

胃がん検診を受けていない理由（複数回答）

	男性		女性	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	23	29.5%	20	16.5%
検診・検査の案内がなかったから	8	10.3%	3	2.5%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	4	5.1%	0	0.0%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	4	5.1%	6	5.0%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	17	21.8%	41	33.9%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	6	7.7%	13	10.7%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	9	11.5%	20	16.5%
検診に費用がかかるから	13	16.7%	19	15.7%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	1.3%	1	0.8%
検査内容が怖い・不快だから	5	6.4%	16	13.2%
がんが見つかるのが怖いから	5	6.4%	11	9.1%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	5	6.4%	1	0.8%
検診・検査があることを知らなかったから	4	5.1%	4	3.3%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	6	7.7%	2	1.7%
検診を受けたくないから	8	10.3%	14	11.6%
その他	3	3.8%	7	5.8%
サンプル計	78	100.0%	121	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が35.1%、就労なしは「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が38.8%で最も高くなっている。

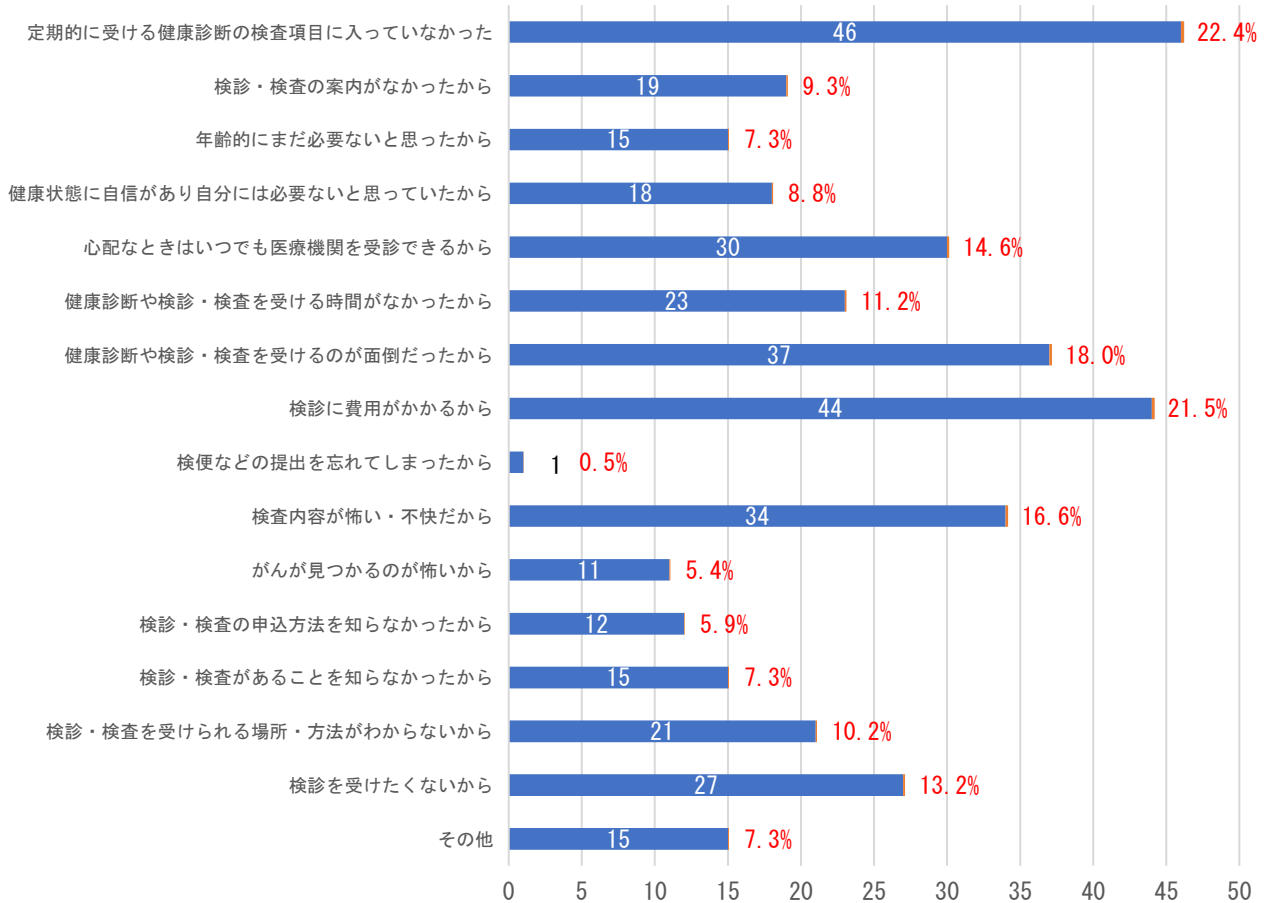
胃がん検診を受けていない理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	34	35.1%	9	9.2%
検診・検査の案内がなかったから	9	9.3%	2	2.0%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	2	2.1%	1	1.0%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	5	5.2%	5	5.1%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	19	19.6%	38	38.8%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	14	14.4%	5	5.1%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	11	11.3%	17	17.3%
検診に費用がかかるから	21	21.6%	11	11.2%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	1.0%	1	1.0%
検査内容が怖い・不快だから	9	9.3%	12	12.2%
がんが見つかるのが怖いから	9	9.3%	7	7.1%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	4	4.1%	2	2.0%
検診・検査があることを知らなかったから	5	5.2%	3	3.1%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	6	6.2%	1	1.0%
検診を受けたくないから	8	8.2%	14	14.3%
その他	4	4.1%	6	6.1%
サンプル計	97	100.0%	98	100.0%

エ 子宮（頸）がん検診（20歳以上の女性）

「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が22.4%で最も高く、次いで「検査に費用がかかるから」が21.5%となっている。

子宮（頸）がん検診を受けていない理由（複数回答）



（サンプル計：205人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が27.1%、就労なしは「健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから」が22.6%で最も高くなっている。

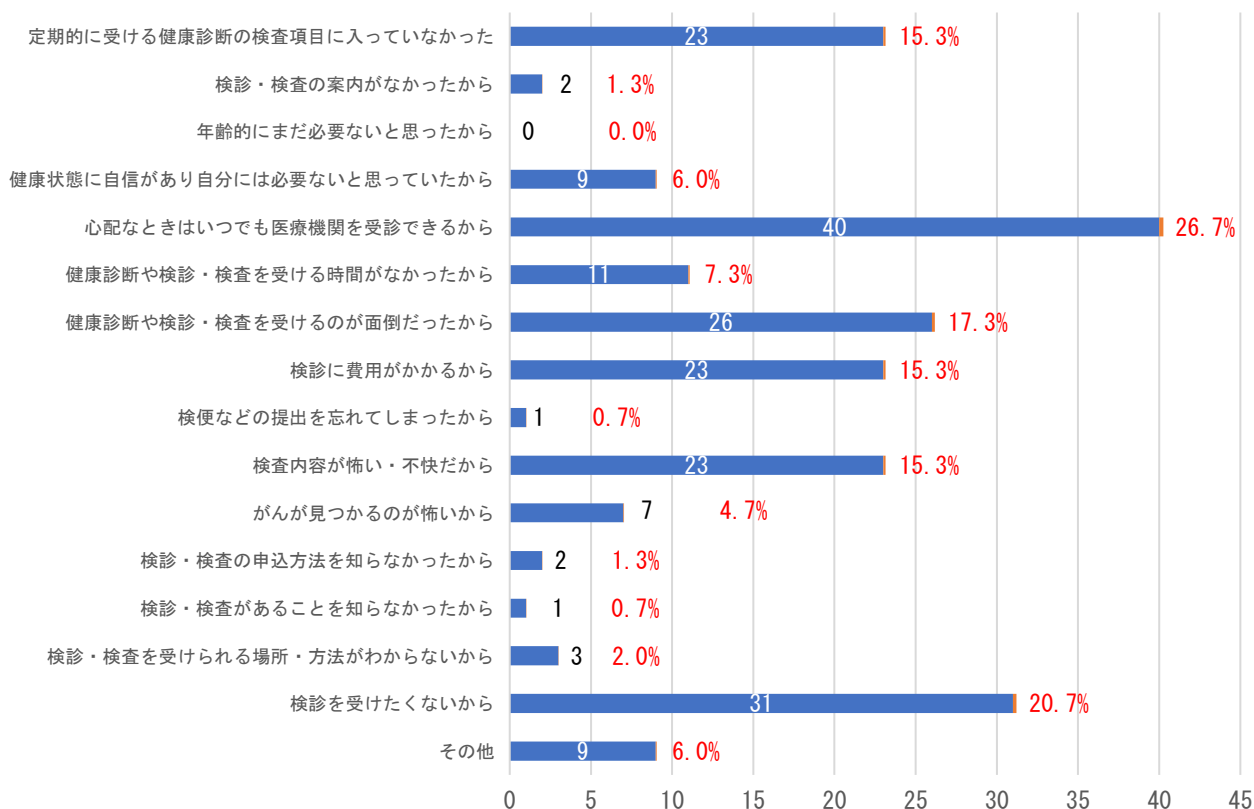
子宮（頸）がん検診を受けていない理由（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	32	27.1%	13	15.5%
検診・検査の案内がなかったから	10	8.5%	8	9.5%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	9	7.6%	6	7.1%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	11	9.3%	7	8.3%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	14	11.9%	16	19.0%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	18	15.3%	5	6.0%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	17	14.4%	19	22.6%
検診に費用がかかるから	28	23.7%	14	16.7%
検便などの提出を忘れてしまったから	1	0.8%	0	0.0%
検査内容が怖い・不快だから	21	17.8%	13	15.5%
がんが見つかるのが怖いから	9	7.6%	2	2.4%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	7	5.9%	5	6.0%
検診・検査があることを知らなかったから	8	6.8%	6	7.1%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	12	10.2%	8	9.5%
検診を受けたくないから	13	11.0%	14	16.7%
その他	7	5.9%	8	9.5%
サンプル計	118	100.0%	84	100.0%

オ 乳がん検診（40歳以上の女性）

「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が26.7%で最も高く、次いで「検診を受けたくないから」が20.7%となっている。

乳がん検診を受けていない理由（複数回答）



（サンプル計：150人）

※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

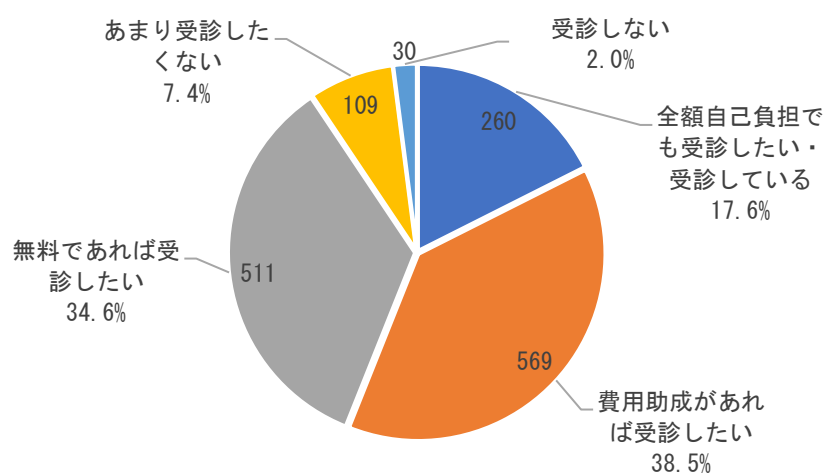
就労別に見ると、就労ありは「定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった」が25.0%、就労なしは「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」が36.6%で最も高くなっている。

乳がん検診を受けていない理由(複数回答)

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
定期的に受ける健康診断の検査項目に入っていなかった	19	25.0%	3	4.2%
検診・検査の案内がなかったから	2	2.6%	0	0.0%
年齢的にまだ必要ないと思ったから	0	0.0%	0	0.0%
健康状態に自信があり自分には必要ないと思っていたから	3	3.9%	6	8.5%
心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	14	18.4%	26	36.6%
健康診断や検診・検査を受ける時間がなかったから	10	13.2%	1	1.4%
健康診断や検診・検査を受けるのが面倒だったから	14	18.4%	12	16.9%
検診に費用がかかるから	16	21.1%	7	9.9%
検便などの提出を忘れてしまったから	0	0.0%	1	1.4%
検査内容が怖い・不快だから	11	14.5%	12	16.9%
がんが見つかるのが怖いから	4	5.3%	3	4.2%
検診・検査の申込方法を知らなかったから	2	2.6%	0	0.0%
検診・検査があることを知らなかったから	1	1.3%	0	0.0%
検診・検査を受けられる場所・方法がわからないから	2	2.6%	0	0.0%
検診を受けたくないから	14	18.4%	16	22.5%
その他	3	3.9%	6	8.5%
サンプル計	76	100.0%	71	100.0%

(8) がん検診の受診についての考え方（択一回答）

がん検診を定期的に受診したいか聞いたところ「費用助成があれば受診したい」が38.5%で最も高く、次いで、「無料であれば受診したい」が34.6%となっている。



（回答者数：1,479人）

性別に見ると、男性は「無料であれば受診したい」が36.6%、女性は「費用助成があれば受診したい」が40.5%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
全額自己負担でも受診したい・受診している	95	18.8%	165	17.0%	0	0.0%
費用助成があれば受診したい	176	34.9%	392	40.5%	0	0.0%
無料であれば受診したい	185	36.6%	322	33.3%	3	100.0%
あまり受診したくない	39	7.7%	70	7.2%	0	0.0%
受診しない	10	2.0%	19	2.0%	0	0.0%
回答数	505	100.0%	968	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「費用助成があれば受診したい」が最も高く、就労ありは40.5%、就労なしは35.8%となっている。

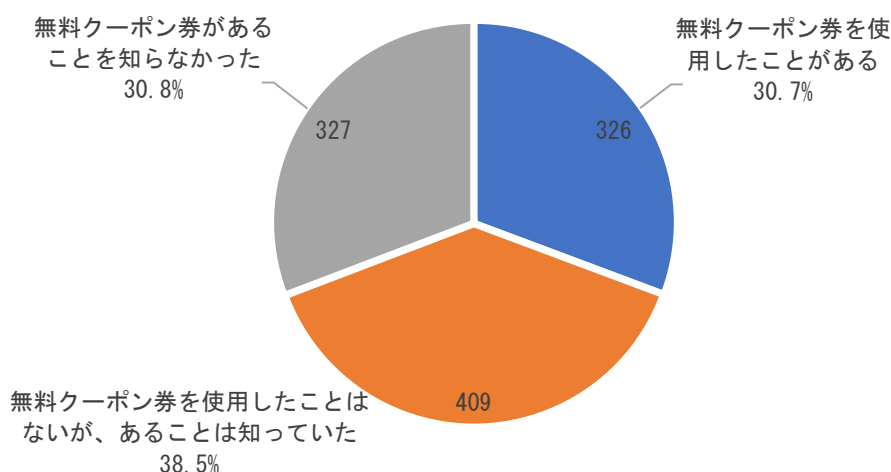
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
全額自己負担でも受診したい・受診している	162	17.1%	97	19.4%
費用助成があれば受診したい	384	40.5%	179	35.8%
無料であれば受診したい	344	36.3%	149	29.8%
あまり受診したくない	45	4.8%	59	11.8%
受診しない	12	1.3%	16	3.2%
回答数	947	100.0%	500	100.0%

(9) 「がん検診無料クーポン事業」について（択一回答）

女性の回答者に、札幌市が配布する【子宮頸がん検診無料クーポン券】及び【乳がん検診無料クーポン券】の利用経験について聞いた。

ア 子宮頸がん検診

「無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた」が 38.5%で最も高く、次いで「無料クーポン券があることを知らなかった」が 30.8%、「無料クーポン券を使用したことがある」が 30.7%となっている。



(回答者数：1,062人)

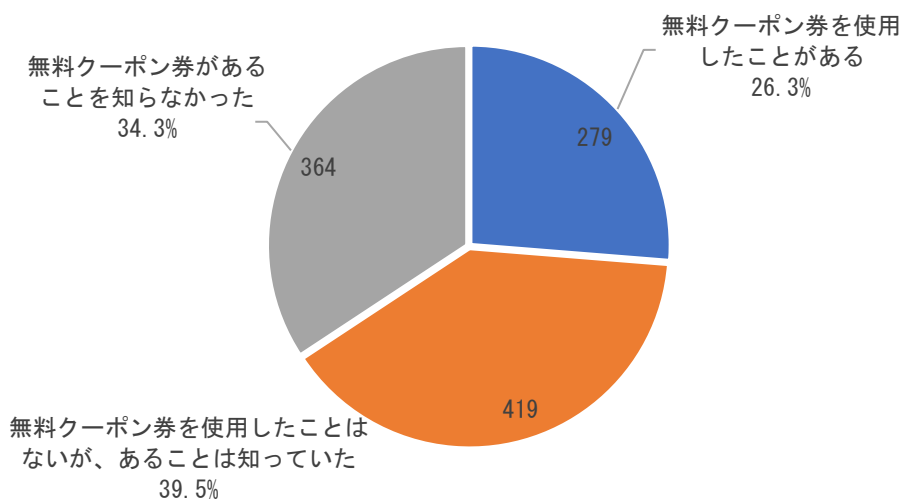
※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありなし共に「無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた」が最も高く、どちらも 38.7%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
無料クーポン券を使用したことがある	234	34.9%	89	23.6%
無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた	259	38.7%	146	38.7%
無料クーポン券があることを知らなかった	177	26.4%	142	37.7%
回答数	670	100.0%	377	100.0%

イ 乳がん検診について（択一回答）

「無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた」が39.5%で最も高く、次いで「無料クーポン券があることを知らなかった」が34.3%、「無料クーポン券を使用したことがある」が26.3%となっている。



（回答者数：1,062人）

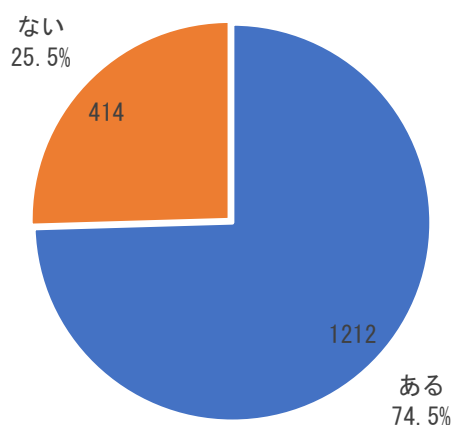
※性別によるクロス集計については、女性のみ回答のため、省略。

就労別に見ると、就労ありは「無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた」が41.4%、就労なしは「無料クーポン券があることを知らなかった」が39.7%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
無料クーポン券を使用したことがある	185	27.7%	90	23.7%
無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた	276	41.4%	139	36.6%
無料クーポン券があることを知らなかった	206	30.9%	151	39.7%
回答数	667	100.0%	380	100.0%

(10) がん検診の受診促進情報について（択一回答）

がん検診を勧める情報を見聞きした経験があるか聞いたところ、74.5%が「ある」と回答した。



(回答者数：1,626人)

性別に見ると、男女共に「ある」が最も高く、男性は63.4%、女性は80.4%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
ある	348	63.4%	859	80.4%	1	33.3%
ない	201	36.6%	210	19.6%	2	66.7%
回答数	549	100.0%	1069	100.0%	3	100.0%

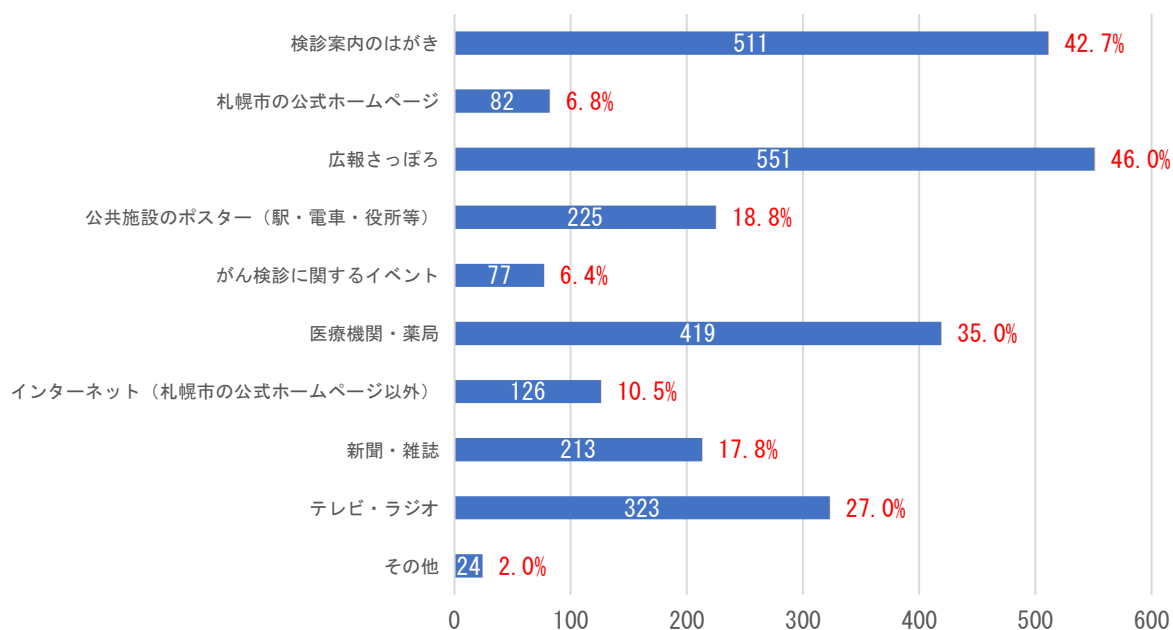
就労別に見ると、就労ありなし共に「ある」が最も高く、就労ありは72.7%、就労なしは78.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
ある	764	72.7%	424	78.5%
ない	287	27.3%	116	21.5%
回答数	1051	100.0%	540	100.0%

(11) がん検診の受診促進情報を得た媒体（複数回答）

問4(10)で「ある」を選択した回答者に、どの媒体から見聞きしたのか聞いたところ、「広報さっぽろ」が46.0%で最も高く、次いで「検診案内のはがき」が42.7%、「医療機関・薬局」が35.0%、「テレビ・ラジオ」が27.0%となっている。

がん検診の情報を得た媒体（複数回答）



（サンプル計：1,198人）

性別に見ると、男性は「広報さっぽろ」が47.8%、女性は「検診案内のはがき」が45.4%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
検診案内のはがき	123	35.9%	386	45.4%	0	0.0%
札幌市の公式ホームページ	29	8.5%	53	6.2%	0	0.0%
広報さっぽろ	164	47.8%	384	45.2%	0	0.0%
公共施設のポスター（駅・電車・役所等）	49	14.3%	174	20.5%	0	0.0%
がん検診に関するイベント	14	4.1%	63	7.4%	0	0.0%
医療機関・薬局	94	27.4%	324	38.1%	0	0.0%
インターネット（札幌市の公式ホームページ以外）	26	7.6%	99	11.6%	0	0.0%
新聞・雑誌	53	15.5%	159	18.7%	0	0.0%
テレビ・ラジオ	67	19.5%	253	29.8%	1	100.0%
その他	5	1.5%	19	2.2%	0	0.0%
サンプル計	343	100.0%	850	100.0%	1	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「広報さっぽろ」が最も高く、就労ありは43.1%、就労なしは50.8%となっている。

がん検診の情報を得た媒体（複数回答）

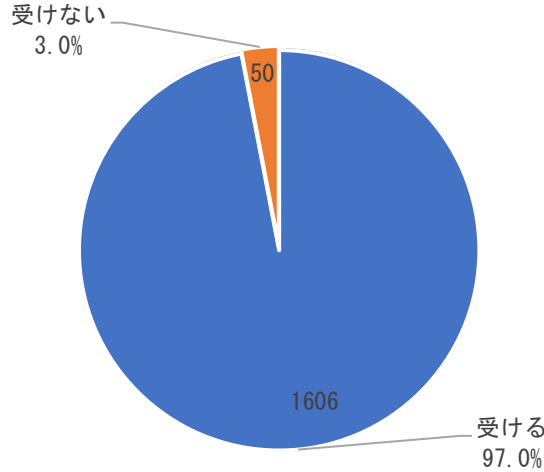
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
検診案内のはがき	306	40.5%	194	46.3%
札幌市の公式ホームページ	54	7.1%	27	6.4%
広報さっぽろ	326	43.1%	213	50.8%
公共施設のポスター（駅・電車・役所等）	159	21.0%	61	14.6%
がん検診に関するイベント	57	7.5%	18	4.3%
医療機関・薬局	276	36.5%	134	32.0%
インターネット（札幌市の公式ホームページ以外）	91	12.0%	33	7.9%
新聞・雑誌	124	16.4%	79	18.9%
テレビ・ラジオ	215	28.4%	99	23.6%
その他	14	1.9%	10	2.4%
サンプル計	756	100.0%	419	100.0%

問5 要精密検査となっている場合の精密検査受診についてお答えください。

(1) 精密検査の受診について（択一回答）

がん検診の結果が「要精密検査」になった場合、精密検査を受けるか聞いたところ、97.0%が「受ける」と回答した。

結果が「要精密検査」になった場合、精密検査を受けるか



(回答者数：1,656人)

性別に見ると、男女共に「受ける」が最も高く、男性は96.8%、女性は97.1%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
受ける	546	96.8%	1053	97.1%	3	100.0%
受けない	18	3.2%	31	2.9%	0	0.0%
回答数	564	100.0%	1084	100.0%	3	100.0%

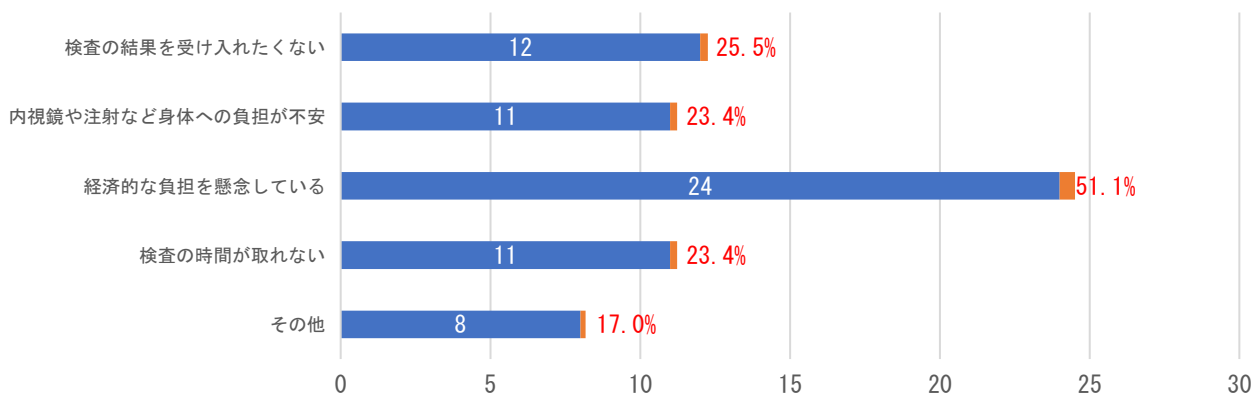
就労別に見ると、就労ありなし共に「受ける」が最も高く、就労ありは97.3%、就労なしは96.7%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
受ける	1044	97.3%	529	96.7%
受けない	29	2.7%	18	3.3%
回答数	1073	100.0%	547	100.0%

(2) 精密検査を受けない理由（複数回答）

問5(1)で「受けない」を選択した回答者に、精密検査を受けない理由を聞いたところ「経済的な負担を懸念している」が51.1%で最も高く、次いで「検査の結果を受け入れたくない」が25.5%となっている。

精密検査を受けない理由（複数回答）



(サンプル計：47人)

性別に見ると、男女共に「経済的な負担を懸念している」が最も高く、男性は52.9%、女性は48.3%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
検査の結果を受け入れたくない	4	23.5%	7	24.1%	0	0.0%
内視鏡や注射など身体への負担が不安	3	17.6%	8	27.6%	0	0.0%
経済的な負担を懸念している	9	52.9%	14	48.3%	0	0.0%
検査の時間が取れない	3	17.6%	8	27.6%	0	0.0%
その他	3	17.6%	5	17.2%	0	0.0%
サンプル計	17	100.0%	29	100.0%	0	0.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「経済的な負担を懸念している」が最も高く、就労ありは44.4%、就労なしは64.7%となっている。

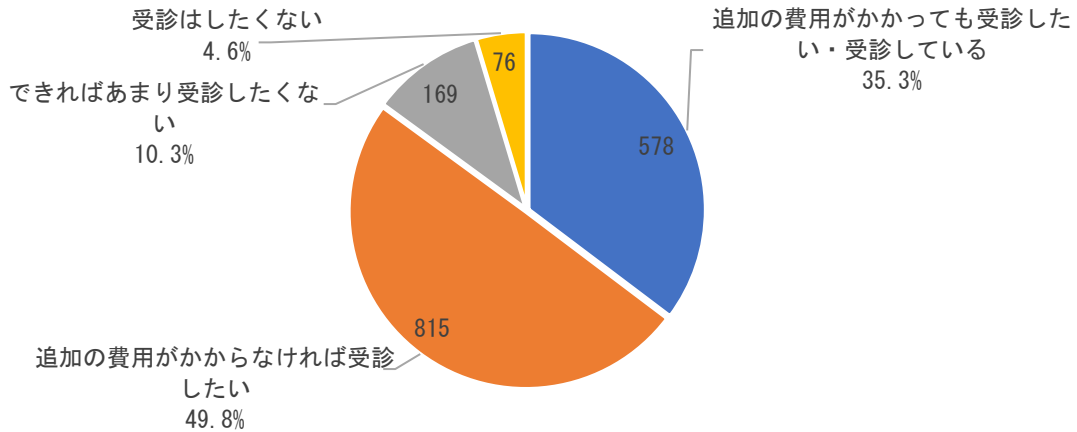
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
検査の結果を受け入れたくない	5	18.5%	6	35.3%
内視鏡や注射など身体への負担が不安	8	29.6%	3	17.6%
経済的な負担を懸念している	12	44.4%	11	64.7%
検査の時間が取れない	9	33.3%	2	11.8%
その他	4	14.8%	2	11.8%
サンプル計	27	100.0%	17	100.0%

問6 ピロリ菌検査・ピロリ菌除去に関するご意向についてお答えください。

(1) ピロリ菌有無の検査について（択一回答）

ピロリ菌の有無について調べる検査の受診を希望するか聞いたところ、「追加の費用がかからなければ受診したい」が49.8%で最も高く、次いで「追加の費用がかかっても受診したい・受診している」が35.3%、「できればあまり受診したくない」が10.3%となっている。

ピロリ菌の有無について調べる検査の受診を希望するか



(回答者数：1,638人)

性別に見ると、男女共に「追加の費用がかからなければ受診したい」が最も高く、男性は48.4%、女性は50.2%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
追加の費用がかかっても受診したい・受診している	200	35.8%	378	35.2%	0	0.0%
追加の費用がかからなければ受診したい	270	48.4%	539	50.2%	2	100.0%
できればあまり受診したくない	59	10.6%	110	10.3%	0	0.0%
受診はしたくない	29	5.2%	46	4.3%	0	0.0%
回答数	558	100.0%	1073	100.0%	2	100.0%

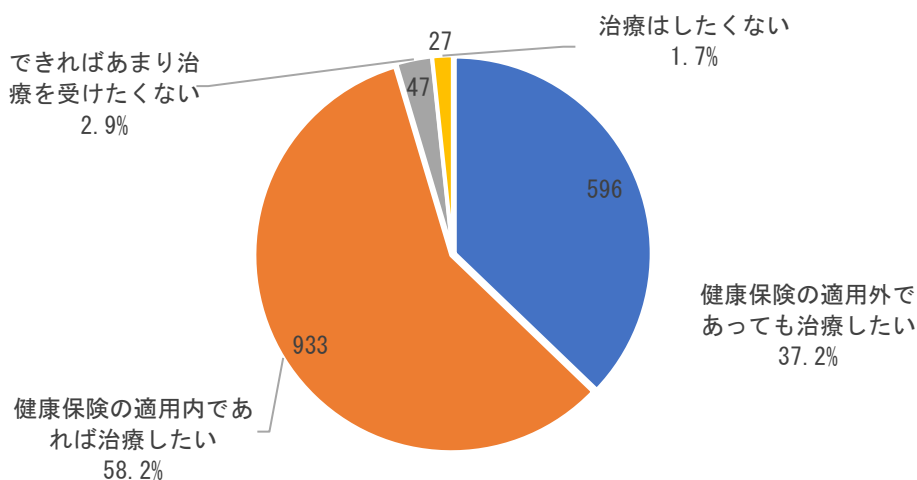
就労別に見ると、就労ありなし共に「追加の費用がかからなければ受診したい」が最も高く、就労ありは53.3%、就労なしは42.3%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
追加の費用がかかっても受診したい・受診している	365	34.3%	205	38.0%
追加の費用がかからなければ受診したい	568	53.3%	228	42.3%
できればあまり受診したくない	91	8.5%	74	13.7%
受診はしたくない	41	3.8%	32	5.9%
回答数	1065	100.0%	539	100.0%

(2) ピロリ菌除去について（択一回答）

ピロリ菌検査の結果が陽性だった場合、ピロリ菌除去の治療を希望するかと聞いたところ、「健康保険の適用内であれば治療したい」が58.2%で最も高く、次いで「健康保険の適用外であっても治療したい」の37.2%となっている。

検査の結果が陽性だった場合ピロリ菌除去の治療を希望するか



（回答者数：1,603人）

性別で見ると、男女共に「健康保険の適用内であれば治療したい」が最も高く、男性は60.0%、女性は57.2%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
健康保険の適用外であっても治療したい	190	35.2%	405	38.4%	1	33.3%
健康保険の適用内であれば治療したい	324	60.0%	603	57.2%	2	66.7%
できればあまり治療を受けたくない	15	2.8%	32	3.0%	0	0.0%
治療はしたくない	11	2.0%	15	1.4%	0	0.0%
回答数	540	100.0%	1055	100.0%	3	100.0%

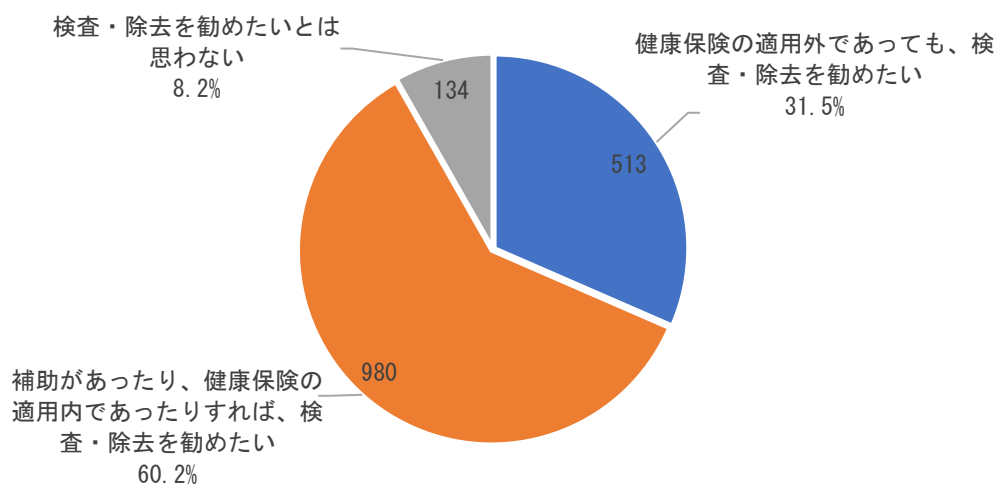
就労ありなし共に「健康保険の適用内であれば治療したい」が最も高く、就労ありは59.2%、就労なしは55.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
健康保険の適用外であっても治療したい	393	37.7%	194	36.8%
健康保険の適用内であれば治療したい	617	59.2%	294	55.8%
できればあまり治療を受けたくない	20	1.9%	26	4.9%
治療はしたくない	12	1.2%	13	2.5%
回答数	1042	100.0%	527	100.0%

(3) ピロリ菌の検査・除去を家族や友人に勧めるかについて（択一回答）

回答者の家族や友人に、ピロリ菌の検査や除去を勧めるか聞いたところ、「補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい」が60.2%で最も高く、次いで「健康保険の適用外であっても、検査・除去を勧めたい」が31.5%となっている。

ピロリ菌検査・除去を家族や友人に勧めるか



(回答者数：1,627人)

性別で見ると、男女共に「補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい」が最も高く、男性は59.5%、女性は60.5%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
健康保険の適用外であっても、検査・除去を勧めたい	165	29.7%	346	32.5%	2	66.7%
補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい	331	59.5%	643	60.5%	1	33.3%
検査・除去を勧めたいとは思わない	60	10.8%	74	7.0%	0	0.0%
回答数	556	100.0%	1063	100.0%	3	100.0%

就労ありなし共に「補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい」が最も高く、就労ありは61.0%、就労なしは57.7%となっている。

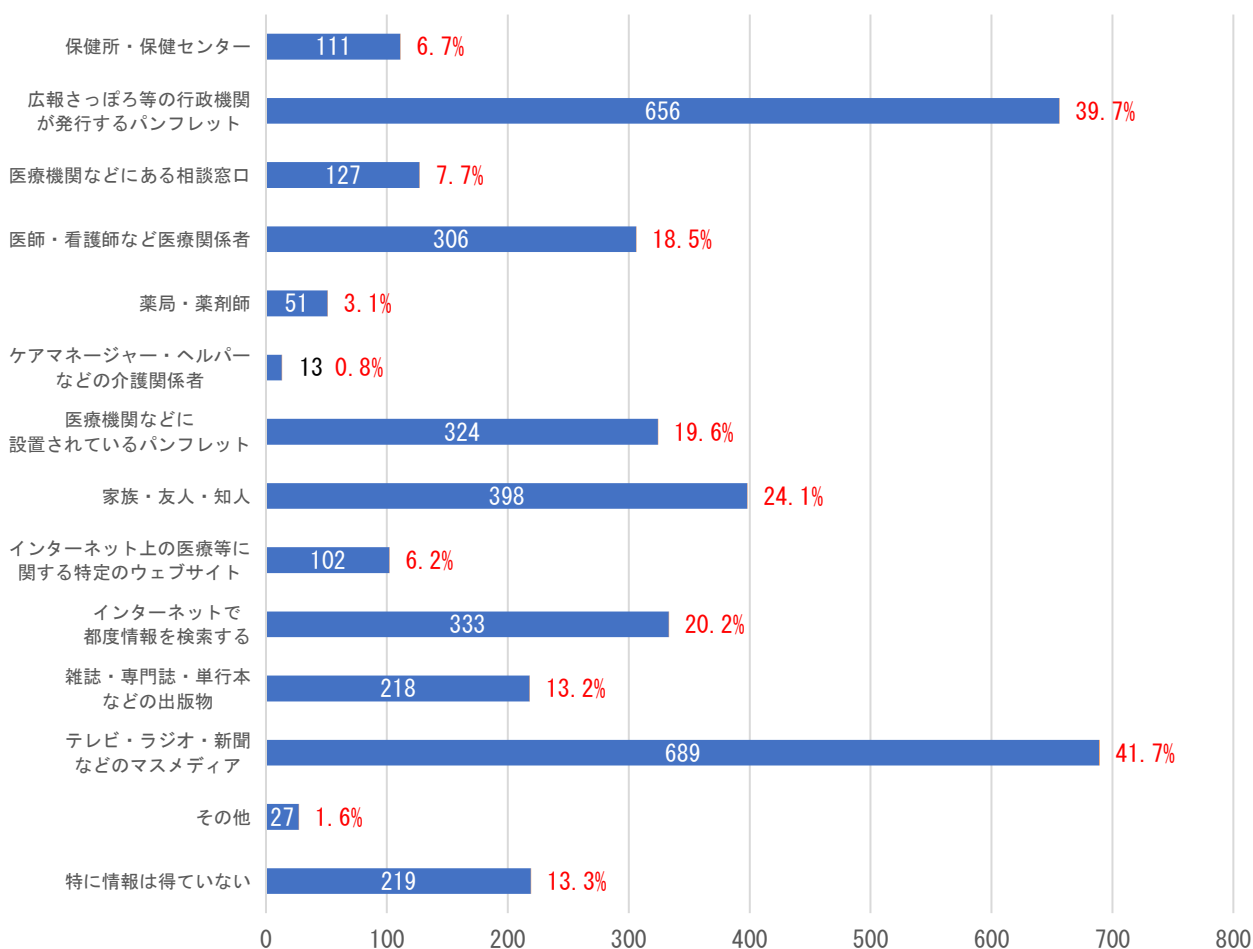
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
健康保険の適用外であっても、検査・除去を勧めたい	343	32.4%	163	30.6%
補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい	647	61.0%	307	57.7%
検査・除去を勧めたいとは思わない	70	6.6%	62	11.7%
回答数	1060	100.0%	532	100.0%

問7 がんに関する情報の入手について、お答えください。

(1) 情報の入手先（複数回答）

がんやがんの予防に関する情報をどの媒体から得ているのか聞いたところ、「テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア」が41.7%で最も高く、次いで「広報さっぽろや、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット」が39.7%となっている。

がんに関する情報の入手先について（複数回答）



(サンプル計：1,651人)

性別で見ると、男性は「広報さっぽろや、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット」が40.2%、女性は「テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア」が43.0%で最も高くなっている。

がんに関する情報の入手先について（複数回答）

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
保健所・保健センター	39	6.9%	72	6.7%	0	0.0%
「広報さっぽろ」や、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット	226	40.2%	428	39.6%	0	0.0%
医療機関などにある相談窓口	35	6.2%	91	8.4%	1	33.3%
医師・看護師など医療関係者	117	20.8%	189	17.5%	0	0.0%
薬局・薬剤師	15	2.7%	36	3.3%	0	0.0%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	5	0.9%	8	0.7%	0	0.0%
医療機関・介護施設・薬局などに設置されているパンフレット	89	15.8%	233	21.5%	1	33.3%
家族・友人・知人（上記以外）	97	17.3%	300	27.7%	0	0.0%
インターネット上の医療等に関する特定のウェブサイト	28	5.0%	73	6.7%	1	33.3%
インターネットで都度情報を検索する	100	17.8%	233	21.5%	0	0.0%
雑誌・専門誌・単行本などの出版物	70	12.5%	148	13.7%	0	0.0%
テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア	220	39.1%	465	43.0%	2	66.7%
その他	7	1.2%	20	1.8%	0	0.0%
特に情報は得ていない	91	16.2%	126	11.6%	1	33.3%
サンプル計	562	100.0%	1082	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア」が39.9%、就労なしは「広報さっぽろや、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット」が48.4%で最も高くなっている。

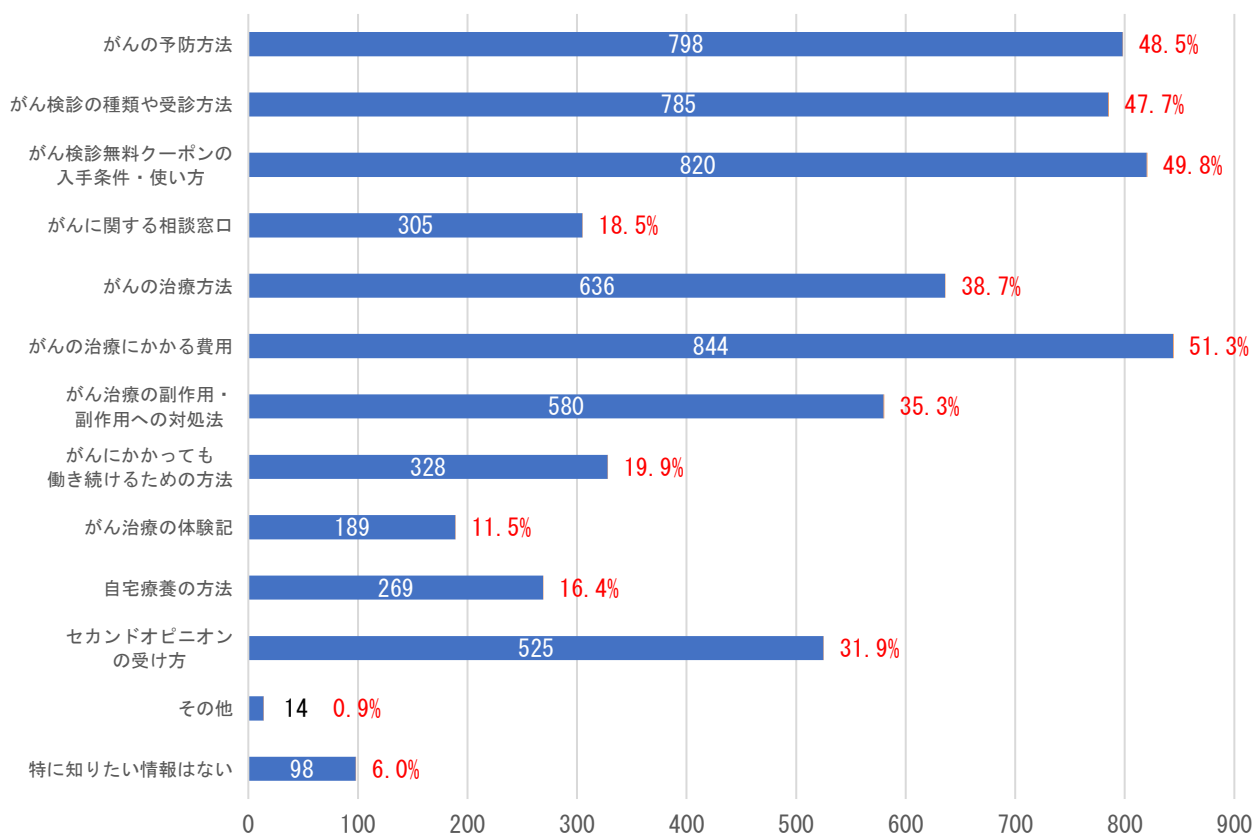
がんに関する情報の入手先について（複数回答）

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
保健所・保健センター	71	6.6%	38	6.9%
「広報さっぽろ」や、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット	375	35.1%	265	48.4%
医療機関などにある相談窓口	83	7.8%	41	7.5%
医師・看護師など医療関係者	197	18.4%	102	18.6%
薬局・薬剤師	36	3.4%	14	2.6%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	9	0.8%	3	0.5%
医療機関・介護施設・薬局などに設置されているパンフレット	206	19.3%	111	20.3%
家族・友人・知人（上記以外）	260	24.3%	128	23.4%
インターネット上の医療等に関する特定のウェブサイト	73	6.8%	27	4.9%
インターネットで都度情報を検索する	239	22.4%	90	16.5%
雑誌・専門誌・単行本などの出版物	132	12.3%	78	14.3%
テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア	426	39.9%	242	44.2%
その他	21	2.0%	5	0.9%
特に情報は得ていない	145	13.6%	69	12.6%
サンプル計	1,069	100.0%	547	100.0%

(2) 知りたい情報について（複数回答）

がんに関して、どのような情報が知りたいか聞いたところ、「がんの治療にかかる費用」が51.3%で最も高く、次いで「がん検診無料クーポンの入手条件・使い方」が49.8%、「がんの予防方法」が48.5%となっている。

がんに関して、どのような情報が知りたいか（複数回答）



(サンプル計：1,645人)

性別に見ると、男性は「がんの予防方法」が48.5%、女性は「がん検診無料クーポンの入手条件・使い方」が53.8%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
がんの予防方法	271	48.5%	521	48.3%	2	66.7%
がん検診の種類や受診方法	262	46.9%	520	48.2%	2	66.7%
がん検診無料クーポンの入手条件・使い方	235	42.0%	581	53.8%	2	66.7%
がんに関する相談窓口	85	15.2%	216	20.0%	3	100.0%
がんの治療方法	196	35.1%	436	40.4%	3	100.0%
がんの治療にかかる費用	261	46.7%	576	53.4%	3	100.0%
がん治療の副作用・副作用への対処法	171	30.6%	405	37.5%	3	100.0%
がんにかかっても働き続けるための方法	82	14.7%	243	22.5%	2	66.7%
がん治療の体験記	35	6.3%	152	14.1%	2	66.7%
自宅療養の方法	56	10.0%	212	19.6%	1	33.3%
セカンドオピニオンの受け方	122	21.8%	401	37.2%	2	66.7%
その他	4	0.7%	10	0.9%	0	0.0%
特に知りたい情報はない	51	9.1%	47	4.4%	0	0.0%
サンプル計	559	100.0%	1079	100.0%	3	100.0%

就労ありは「がん検診無料クーポンの入手条件・使い方」が53.8%、就労なしは「がんの治療にかかる費用」が49.4%で最も高くなっている。

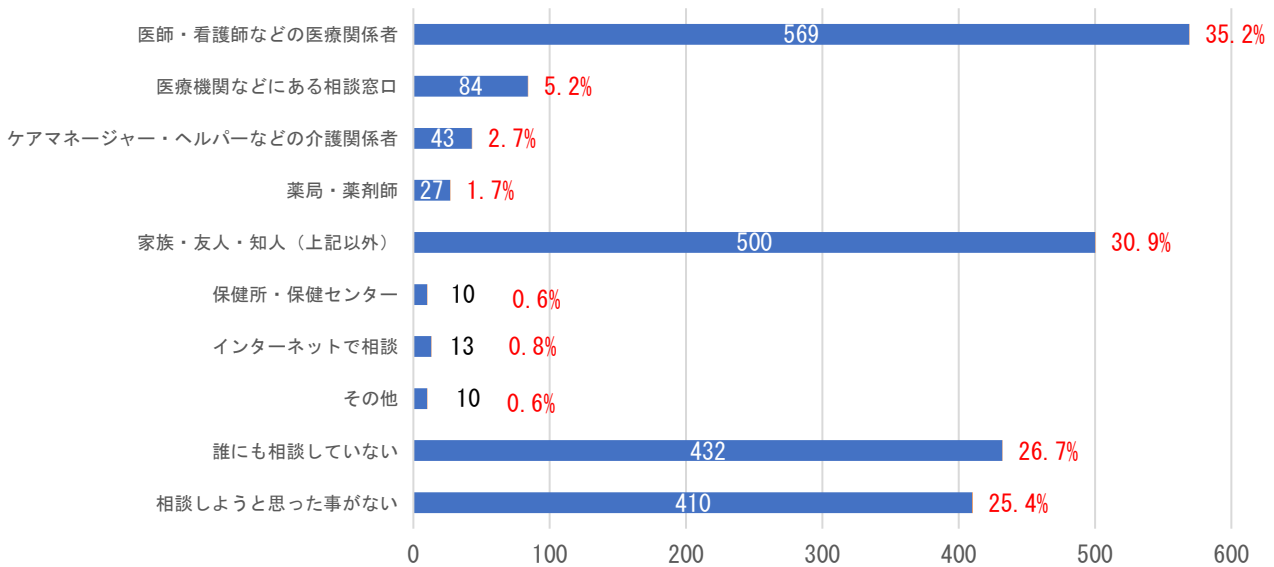
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
がんの予防方法	515	48.3%	267	49.1%
がん検診の種類や受診方法	518	48.5%	251	46.1%
がん検診無料クーポンの入手条件・使い方	574	53.8%	232	42.6%
がんに関する相談窓口	188	17.6%	111	20.4%
がんの治療方法	410	38.4%	210	38.6%
がんの治療にかかる費用	551	51.6%	269	49.4%
がん治療の副作用・副作用への対処法	388	36.4%	180	33.1%
がんにかかっても働き続けるための方法	300	28.1%	23	4.2%
がん治療の体験記	130	12.2%	54	9.9%
自宅療養の方法	163	15.3%	95	17.5%
セカンドオピニオンの受け方	330	30.9%	179	32.9%
その他	9	0.8%	4	0.7%
特に知りたい情報はない	58	5.4%	38	7.0%
サンプル計	1067	100.0%	544	100.0%

問8 がんに関する相談先についてお答えください。

(1) がんに関する相談の経験有無（複数回答）

がんやがんの恐れ、もしくはがんの予防や治療方法などについて誰かに相談した経験があるか聞いたところ、「医師・看護師などの医療関係者」が35.2%で最も高く、一方で「誰にも相談していない」の26.7%、「相談しようと思ったことがない」の25.4%を合わせると、半数以上の回答者が誰にも相談していない。

がんについて誰かに相談した経験があるか（複数回答）



（サンプル計：1,616人）

性別に見ると、男性は「誰にも相談していない」が36.8%、女性は「医師・看護師などの医療関係者」が35.9%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
医師・看護師などの医療関係者	189	34.1%	379	35.9%	0	0.0%
医療機関などにある相談窓口	32	5.8%	52	4.9%	0	0.0%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	13	2.3%	30	2.8%	0	0.0%
薬局・薬剤師	10	1.8%	17	1.6%	0	0.0%
家族・友人・知人（上記以外）	130	23.4%	369	35.0%	1	33.3%
保健所・保健センター	5	0.9%	5	0.5%	0	0.0%
インターネットで相談	3	0.5%	10	0.9%	0	0.0%
その他	4	0.7%	6	0.6%	0	0.0%
誰にも相談していない	204	36.8%	228	21.6%	0	0.0%
相談しようと思った事がない	133	24.0%	273	25.9%	2	66.7%
サンプル計	555	100.0%	1055	100.0%	3	100.0%

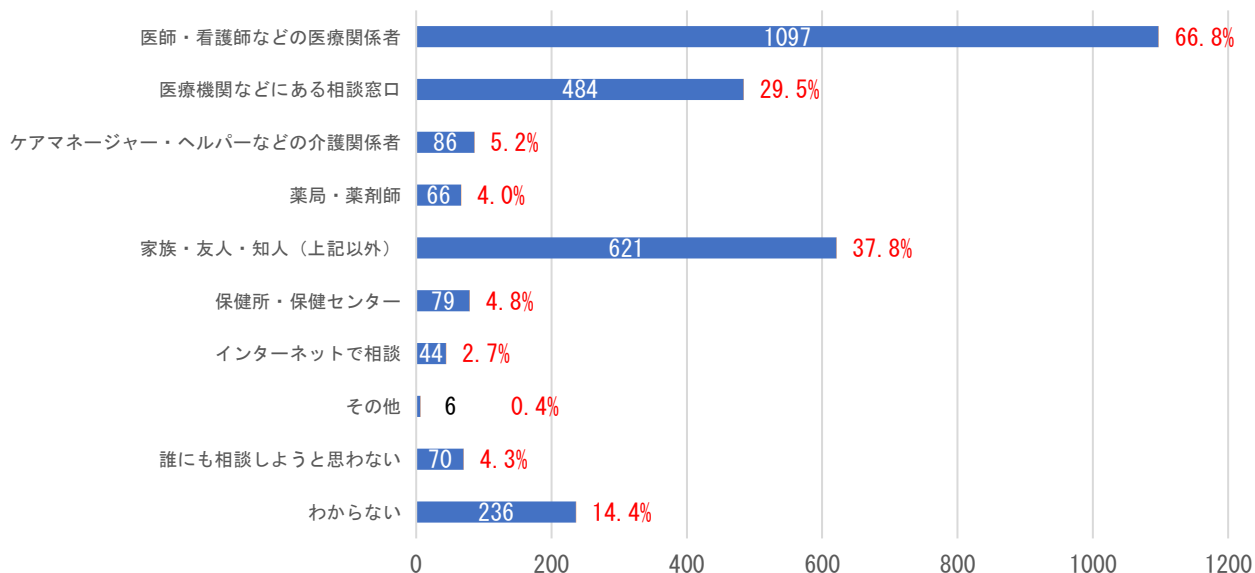
就労別に見ると、就労ありなし共に「医師・看護師などの医療関係者」が最も高く、就労ありは33.2%、就労なしは39.7%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
医師・看護師などの医療関係者	352	33.2%	208	39.7%
医療機関などにある相談窓口	57	5.4%	26	5.0%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	29	2.7%	14	2.7%
薬局・薬剤師	21	2.0%	6	1.1%
家族・友人・知人（上記以外）	342	32.3%	148	28.2%
保健所・保健センター	6	0.6%	3	0.6%
インターネットで相談	9	0.8%	4	0.8%
その他	7	0.7%	3	0.6%
誰にも相談していない	281	26.5%	143	27.3%
相談しようと思った事がない	261	24.6%	136	26.0%
サンプル計	1059	100.0%	524	100.0%

(2) がんについて希望する相談先（複数回答）

がんやがんの恐れ、がんの予防や治療方法について今後誰に相談したいか聞いたところ「医師・看護師などの医療関係者」の66.8%が最も高く、次いで「家族・友人・知人（医療関係者・介護関係者・薬剤師以外）」が37.8%となっている。

がんについて今後希望する相談先（複数回答）



（サンプル計：1,642人）

男女共に「医師・看護師などの医療関係者」が最も高く、男性は66.0%、女性は67.3%となっている。

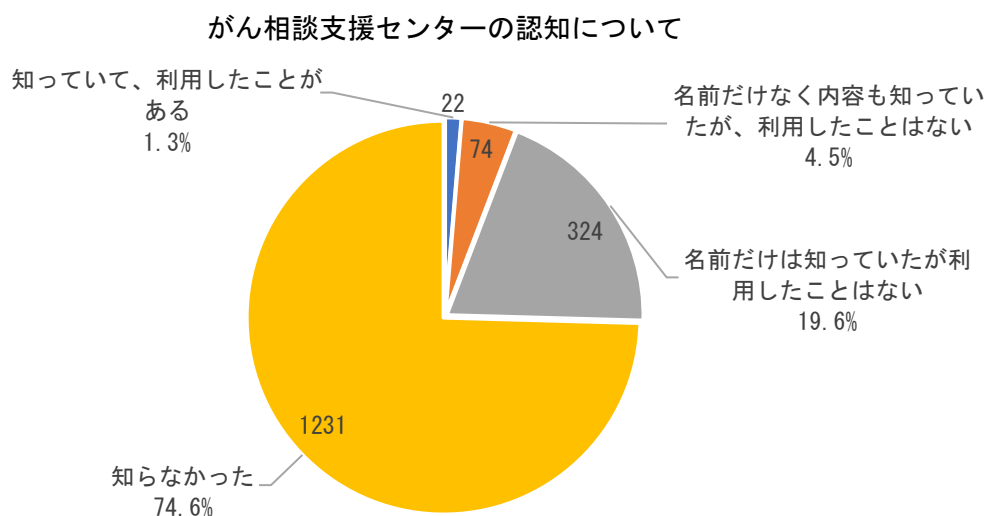
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
医師・看護師などの医療関係者	370	66.0%	724	67.3%	2	66.7%
医療機関などにある相談窓口	145	25.8%	336	31.3%	2	66.7%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	24	4.3%	62	5.8%	0	0.0%
薬局・薬剤師	19	3.4%	47	4.4%	0	0.0%
家族・友人・知人（上記以外）	152	27.1%	468	43.5%	1	33.3%
保健所・保健センター	24	4.3%	54	5.0%	1	33.3%
インターネットで相談	13	2.3%	31	2.9%	0	0.0%
その他	2	0.4%	4	0.4%	0	0.0%
誰にも相談しようと思わない	38	6.8%	31	2.9%	1	33.3%
わからない	89	15.9%	146	13.6%	0	0.0%
サンプル計	561	100.0%	1075	100.0%	3	100.0%

就労ありなし共に「医師・看護師などの医療関係者」が最も高く、就労ありは66.5%、就労なしは68.3%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
医師・看護師などの医療関係者	710	66.5%	370	68.3%
医療機関などにある相談窓口	317	29.7%	158	29.2%
ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	53	5.0%	30	5.5%
薬局・薬剤師	45	4.2%	21	3.9%
家族・友人・知人（上記以外）	402	37.6%	207	38.2%
保健所・保健センター	58	5.4%	19	3.5%
インターネットで相談	28	2.6%	15	2.8%
その他	5	0.5%	1	0.2%
誰にも相談しようと思わない	44	4.1%	25	4.6%
わからない	157	14.7%	72	13.3%
サンプル計	1068	100.0%	542	100.0%

(3) 「がん相談支援センター」の認知について（択一回答）

がん相談支援センターについてしているか聞いたところ「知らなかった」が74.6%で最も高く、次いで「名前だけは知っていたが利用したことはない」が19.6%となっている。



(回答者数：1,651人)

性別で見ると、男女共に「知らなかった」が最も高く、男性は73.7%、女性は74.9%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
知っている、利用したことがある	5	0.9%	17	1.6%	0	0.0%
名前だけでなく内容も知っていたが、利用したことはない	22	3.9%	52	4.8%	0	0.0%
名前だけは知っていたが利用したことはない	121	21.5%	203	18.8%	0	0.0%
知らなかった	415	73.7%	810	74.9%	3	100.0%
回答数	563	100.0%	1082	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「知らなかった」が最も高く、就労ありは75.4%、就労なしは73.2%となっている。

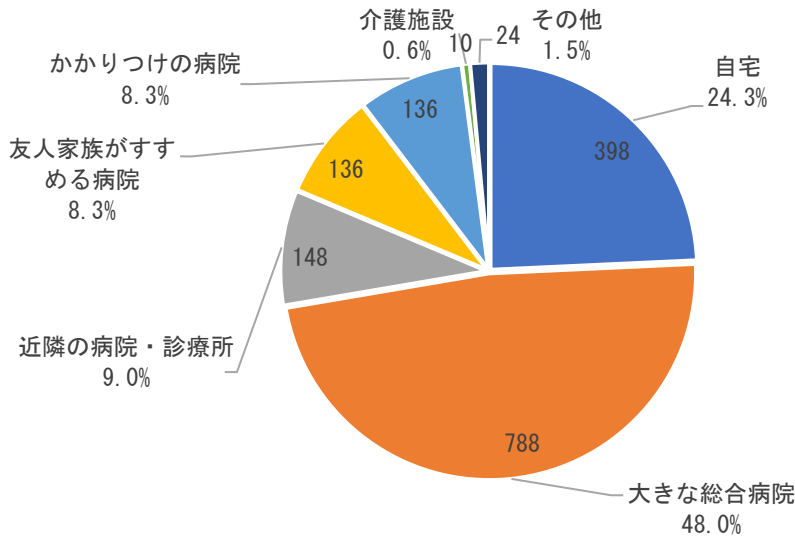
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
知っている、利用したことがある	13	1.2%	7	1.3%
名前だけでなく内容も知っていたが、利用したことはない	49	4.6%	23	4.2%
名前だけは知っていたが利用したことはない	201	18.8%	117	21.4%
知らなかった	807	75.4%	401	73.2%
回答数	1070	100.0%	548	100.0%

問9 がん入院治療後の療養についてお答えください。

(1) がんにかかった場合の療養先（択一回答）

回答者自身ががんにかかった場合、希望する療養先について聞いたところ、「大きな総合病院」が48.0%で最も高く、次いで「自宅」が24.3%となっている。

がんにかかった場合に希望する療養先



(回答者数：1,640人)

性別に見ると、男女共に「大きな総合病院」が最も高く、男性は50.5%、女性は46.8%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
自宅	125	22.2%	273	25.5%	0	0.0%
大きな総合病院	285	50.5%	500	46.8%	2	66.7%
近隣の病院・診療所	51	9.0%	95	8.9%	0	0.0%
友人家族がすすめる病院	39	6.9%	97	9.1%	0	0.0%
かかりつけの病院	51	9.0%	84	7.9%	0	0.0%
介護施設	3	0.5%	7	0.7%	0	0.0%
その他	10	1.8%	13	1.2%	1	33.3%
回答数	564	100.0%	1069	100.0%	3	100.0%

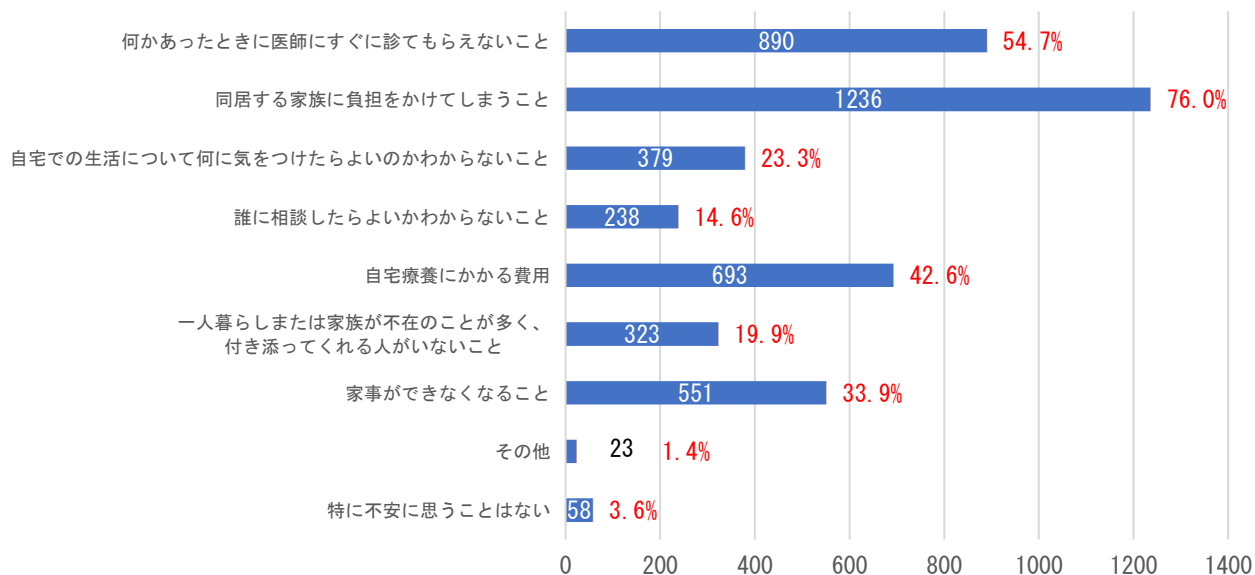
就労別に見ると、就労ありなし共に「大きな総合病院」が最も高く、就労ありは51.1%、就労なしは42.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
自宅	254	23.8%	135	25.1%
大きな総合病院	546	51.1%	228	42.5%
近隣の病院・診療所	91	8.5%	53	9.9%
友人家族がすすめる病院	88	8.2%	46	8.6%
かかりつけの病院	69	6.5%	64	11.9%
介護施設	4	0.4%	4	0.7%
その他	17	1.6%	7	1.3%
回答数	1069	100.0%	537	100.0%

(2) 自宅で療養する場合の不安点（複数回答）

回答者自身ががんになり自宅での療養をした場合の不安点について聞いたところ、「同居する家族に負担をかけてしまうこと」が76.0%で最も高く、次いで「何かあったときに医師にすぐ診てもらえないこと」が54.7%となっている。

自宅で療養する場合の不安点（複数回答）



（サンプル計：1,626人）

男女共に「同居する家族に負担をかけてしまうこと」が最も高く、男性は75.1%、女性は76.5%となっている。

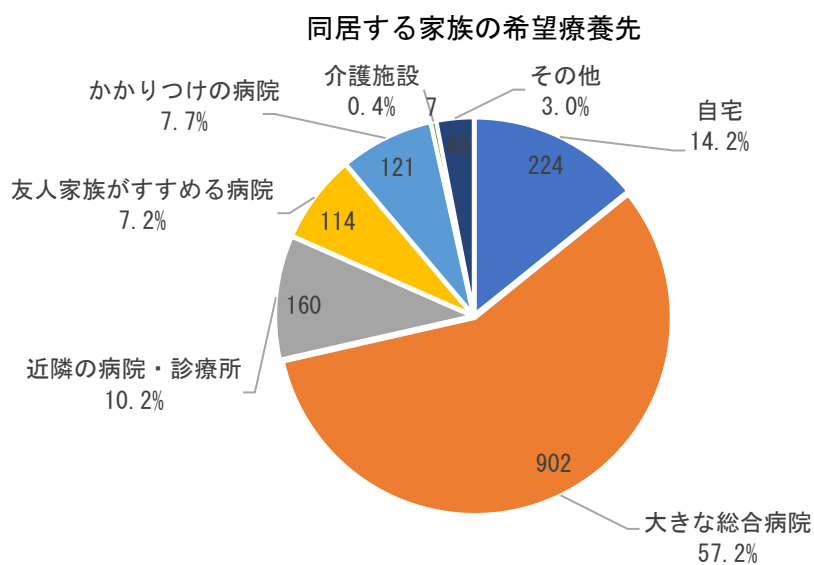
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	279	50.7%	607	56.8%	2	66.7%
同居する家族に負担をかけてしまうこと	413	75.1%	818	76.5%	2	66.7%
自宅での生活について何に気をつけたらよいかわからないこと	120	21.8%	255	23.9%	3	100.0%
誰に相談したらよいかわからないこと	76	13.8%	159	14.9%	2	66.7%
自宅療養にかかる費用	201	36.5%	487	45.6%	3	100.0%
一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	89	16.2%	232	21.7%	2	66.7%
家事ができなくなること	72	13.1%	474	44.3%	2	66.7%
その他	5	0.9%	18	1.7%	0	0.0%
特に不安に思うことはない	28	5.1%	30	2.8%	0	0.0%
サンプル計	550	100.0%	1069	100.0%	3	100.0%

就労ありなし共に「同居する家族に負担をかけてしまうこと」が最も高く、就労ありは76.0%、就労なしは76.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	559	52.7%	311	58.5%
同居する家族に負担をかけてしまうこと	806	76.0%	407	76.5%
自宅での生活について何に気をつけたらよいのかわからないこと	259	24.4%	113	21.2%
誰に相談したらよいかわからないこと	166	15.6%	68	12.8%
自宅療養にかかる費用	475	44.8%	201	37.8%
一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	207	19.5%	108	20.3%
家事ができなくなること	328	30.9%	208	39.1%
その他	18	1.7%	5	0.9%
特に不安に思うことはない	32	3.0%	25	4.7%
サンプル計	1061	100.0%	532	100.0%

(3) 同居する家族の療養先（択一回答）

回答者の家族ががんにかかった場合、希望する療養先を聞いたところ、「大きな総合病院」が57.2%で最も高く、次いで「自宅」が14.2%となっている。



(回答者数：1,576人)

性別に見ると、男女共に「大きな総合病院」が最も高く、男性は61.9%、女性は54.7%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
自宅	63	11.8%	161	15.6%	0	0.0%
大きな総合病院	332	61.9%	566	54.7%	2	66.7%
近隣の病院・診療所	51	9.5%	109	10.5%	0	0.0%
友人家族がすすめる病院	33	6.2%	81	7.8%	0	0.0%
かかりつけの病院	41	7.6%	80	7.7%	0	0.0%
介護施設	3	0.6%	4	0.4%	0	0.0%
その他	13	2.4%	34	3.3%	1	33.3%
回答数	536	100.0%	1035	100.0%	3	100.0%

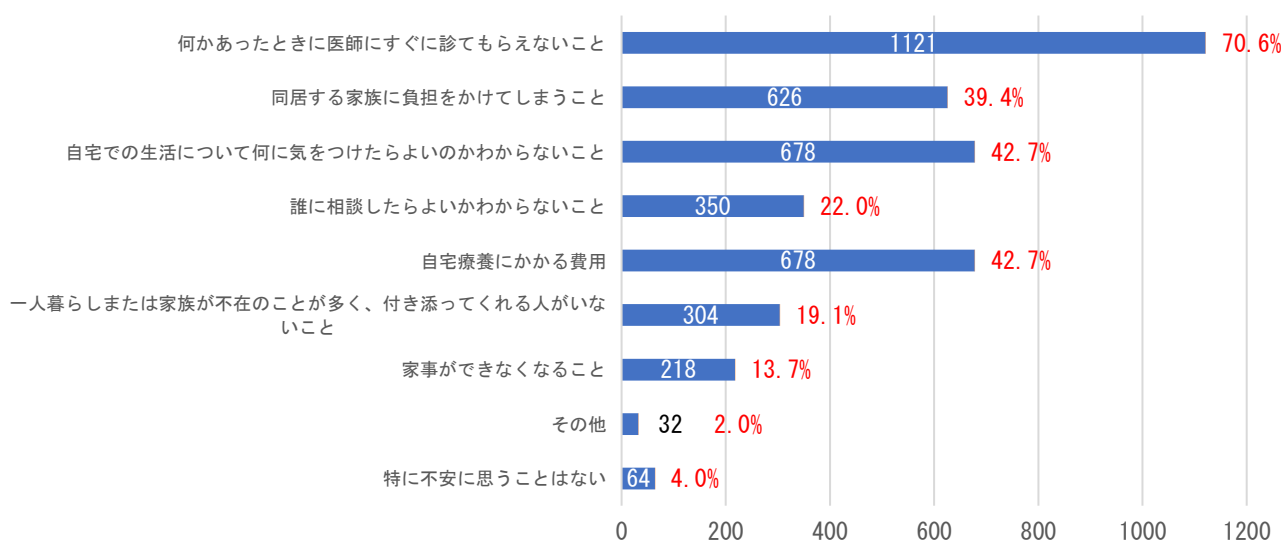
就労別に見ると、就労ありなし共に「大きな総合病院」が最も高く、就労ありは59.8%、就労なしは51.6%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
自宅	149	14.4%	73	14.3%
大きな総合病院	618	59.8%	264	51.6%
近隣の病院・診療所	101	9.8%	57	11.1%
友人家族がすすめる病院	68	6.6%	42	8.2%
かかりつけの病院	61	5.9%	58	11.3%
介護施設	6	0.6%	1	0.2%
その他	31	3.0%	17	3.3%
回答数	1034	100.0%	512	100.0%

(4) 家族が自宅で療養する場合の不安点（複数回答）

回答者の家族ががんの療養を自宅で行う場合、不安点について聞いたところ、「何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと」が70.6%で最も高く、次いで「自宅での生活について何に気をつけたらよいかかわからないこと」及び「自宅療養にかかる費用」が42.7%で同率となっている。

家族が自宅で療養する場合の不安点（複数回答）



(サンプル計：1,588人)

性別に見ると、男女共に「何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと」が最も高く、男性は65.6%、女性は73.1%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	351	65.6%	765	73.1%	2	66.7%
同居する家族に負担をかけてしまうこと	258	48.2%	367	35.1%	0	0.0%
自宅での生活について何に気をつけたらよいかかわからないこと	194	36.3%	480	45.8%	3	100.0%
誰に相談したらよいかかわからないこと	97	18.1%	249	23.8%	3	100.0%
自宅療養にかかる費用	198	37.0%	476	45.5%	2	66.7%
一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	90	16.8%	212	20.2%	1	33.3%
家事ができなくなること	81	15.1%	136	13.0%	1	33.3%
その他	6	1.1%	26	2.5%	0	0.0%
特に不安に思うことはない	26	4.9%	38	3.6%	0	0.0%
サンプル計	535	100.0%	1047	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと」が最も高く、就労ありは69.8%、就労なしは71.1%となっている。

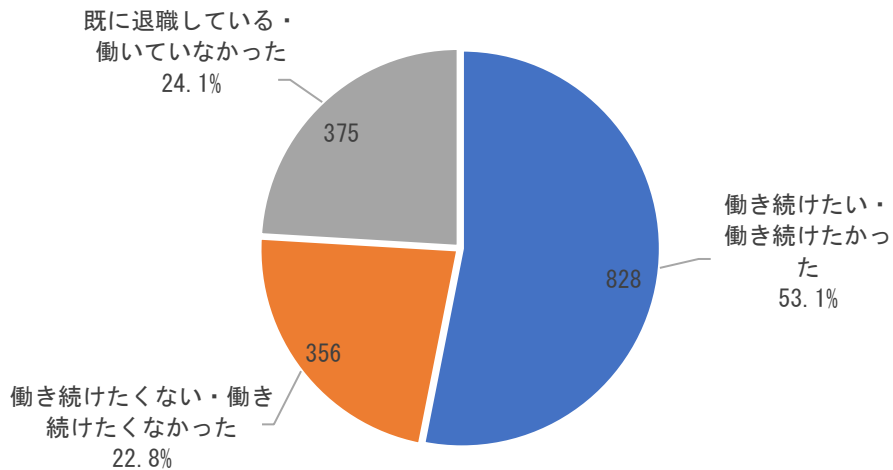
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	724	69.8%	369	71.1%
同居する家族に負担をかけてしまうこと	418	40.3%	195	37.6%
自宅での生活について何に気をつけたらよいのかわからないこと	438	42.2%	228	43.9%
誰に相談したらよいかわからないこと	241	23.2%	107	20.6%
自宅療養にかかる費用	458	44.2%	205	39.5%
一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	224	21.6%	72	13.9%
家事ができなくなること	141	13.6%	72	13.9%
その他	19	1.8%	13	2.5%
特に不安に思うことはない	41	4.0%	22	4.2%
サンプル計	1037	100.0%	519	100.0%

問 10 がんにかかった際の就労継続についてお答えください。

(1) がんにかかった際の就労継続意思（択一回答）

回答者ががんにかかった場合、働き続ける意志はあるか聞いたところ、「働き続けたい・働き続けたかった」が53.1%で最も高く、次いで、「既に退職している・働いていなかった」が24.1%、「働き続けたくない・働き続けなくなかった」が22.8%となっている。

がんにかかった際の就労継続意思



(回答者数：1,559人)

性別に見ると、男女共に「働き続けたい・働き続けたかった」が最も高く、男性は56.7%、女性は51.2%となっている。

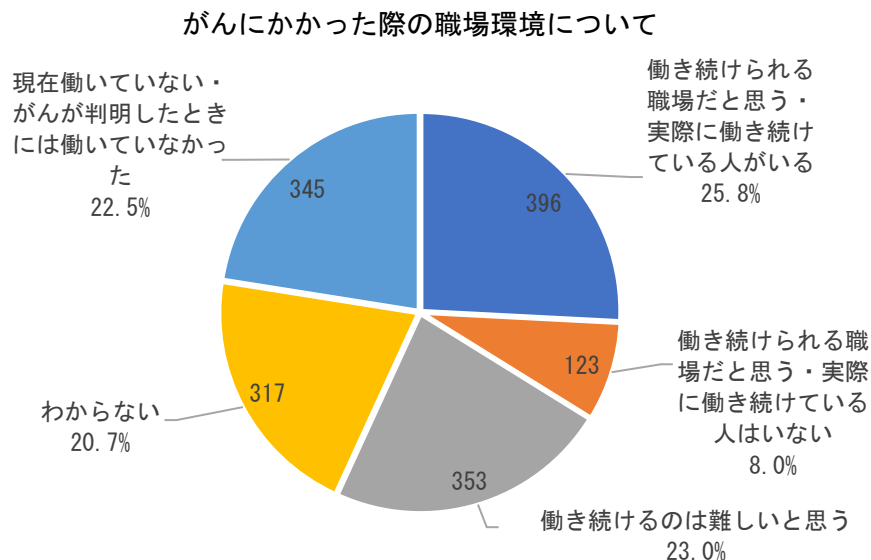
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
働き続けたい・働き続けたかった	309	56.7%	516	51.2%	1	33.3%
働き続けたくない・働き続けなくなかった	101	18.5%	253	25.1%	2	66.7%
既に退職している・働いていなかった	135	24.8%	239	23.7%	0	0.0%
回答数	545	100.0%	1008	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「働き続けたい・働き続けたかった」が69.4%、就労なしは「既に退職している・働いていなかった」が71.3%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
働き続けたい・働き続けたかった	730	69.4%	83	17.4%
働き続けたくない・働き続けなくなかった	294	27.9%	54	11.3%
既に退職している・働いていなかった	28	2.7%	340	71.3%
回答数	1052	100.0%	477	100.0%

(2) がんにかかった際の職場環境（択一回答）

回答者の職場について、がんにかかった場合でも働き続けられる職場かどうか聞いたところ、「働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる」が25.8%で最も高く、次いで「働き続けるのは難しいと思う」が23.0%となっている。



(回答者数：1,534人)

性別に見ると、男性は「働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる」が35.7%、女性は「現在働いていない・がんが判明したときには働いていなかった」が25.4%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる	189	35.7%	207	20.7%	0	0.0%
働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人はいない	48	9.1%	74	7.4%	1	33.3%
働き続けるのは難しいと思う	101	19.1%	251	25.2%	0	0.0%
わからない	100	18.9%	213	21.3%	2	66.7%
現在働いていない・がんが判明したときには働いていなかった	92	17.4%	253	25.4%	0	0.0%
回答数	530	100.0%	998	100.0%	3	100.0%

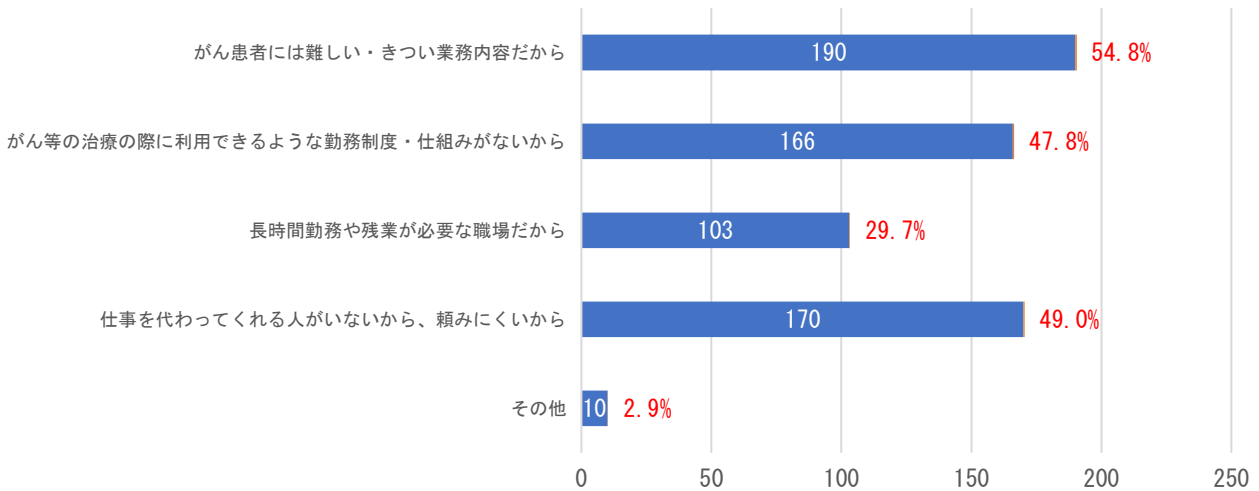
就労別に見ると、就労ありは「働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる」が34.0%、就労なしは「現在働いていない・がんが判明したときには働いていなかった」が70.9%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる	359	34.0%	33	7.3%
働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人はいない	120	11.4%	2	0.4%
働き続けるのは難しいと思う	306	29.0%	36	8.0%
わからない	248	23.5%	60	13.3%
現在働いていない・がんが判明したときには働いていなかった	23	2.2%	319	70.9%
回答数	1056	100.0%	450	100.0%

(3) 就労継続が難しい理由（複数回答）

問10(1)で、「働き続けるのは難しいと思う」を選択した回答者に理由を聞いたところ、「がん患者には難しい・きつい業務内容だから」の54.8%が最も高く、次いで「仕事を変わってくれる人がいないから、頼みにくいから」が49.0%、「がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから」が47.8%となっている。

就労継続が難しい理由（複数回答）



(サンプル計：347人)

性別に見ると、男性は「仕事を代わってくれる人がいないから、頼みにくいから」が51.5%、女性は「がん患者には難しい・きつい業務内容だから」が57.5%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
がん患者には難しい・きつい業務内容だから	48	48.5%	142	57.5%	0	0.0%
がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから	49	49.5%	117	47.4%	0	0.0%
長時間勤務や残業が必要な職場だから	31	31.3%	71	28.7%	0	0.0%
仕事を代わってくれる人がいないから、頼みにくいから	51	51.5%	118	47.8%	0	0.0%
その他	2	2.0%	8	3.2%	0	0.0%
サンプル計	99	100.0%	247	100.0%	0	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「がん患者には難しい・きつい業務内容だから」が56.0%、就労なしは「がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから」が68.6%で最も高くなっている。

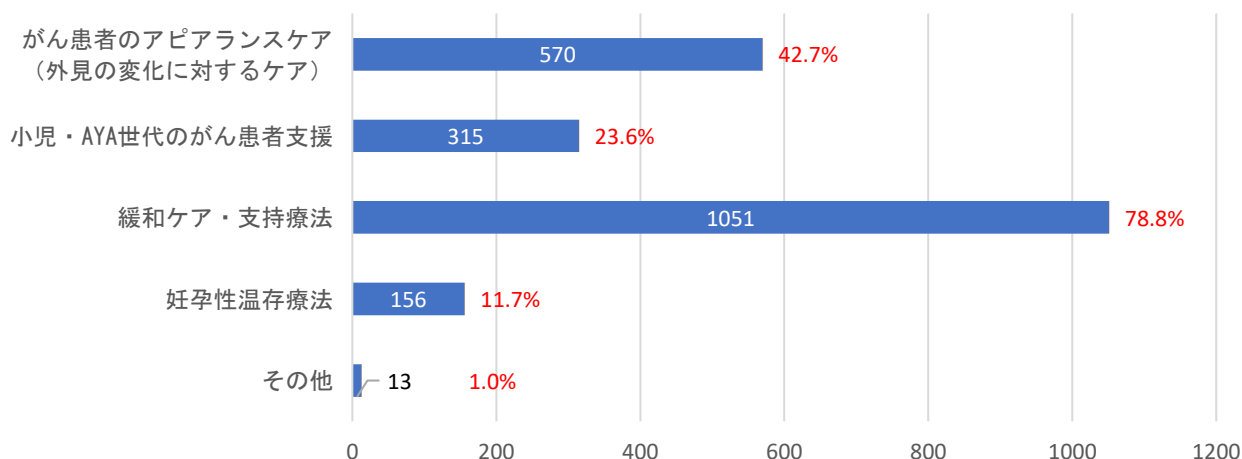
	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
がん患者には難しい・きつい業務内容だから	169	56.0%	16	45.7%
がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから	136	45.0%	24	68.6%
長時間勤務や残業が必要な職場だから	87	28.8%	12	34.3%
仕事を代わってくれる人がいないから、頼みにくいから	148	49.0%	18	51.4%
その他	7	2.3%	1	2.9%
サンプル計	302	100.0%	35	100.0%

問 11 がん治療中・治療後の日常生活、職場復帰についてお答えください。

(1) がん治療に関する関心（複数回答）

がん治療に関連した話題について関心があるものを聞いたところ、「緩和ケア・支持療法」が78.8%で最も高く、次いで「がん患者のアピアランスケア（外見の変化に対するケア）」が42.7%、「小児・AYA世代のがん患者支援」が23.6%となっている。

がん治療に関する関心（複数回答）



※1 AYA 世代：思春期や若年成人のことをいい、概ね15歳～39歳の方を指す。

※2 妊孕性温存療法：がん治療の前に卵子や精子、受精卵、卵巣の凍結を行い、治療後にこれらを用いて妊娠・出産を目指す治療法（サンプル計：1,334人）

性別に見ると、男女共に「緩和ケア・支持療法」が最も高く、男性は79.7%、女性は78.4%となっている。

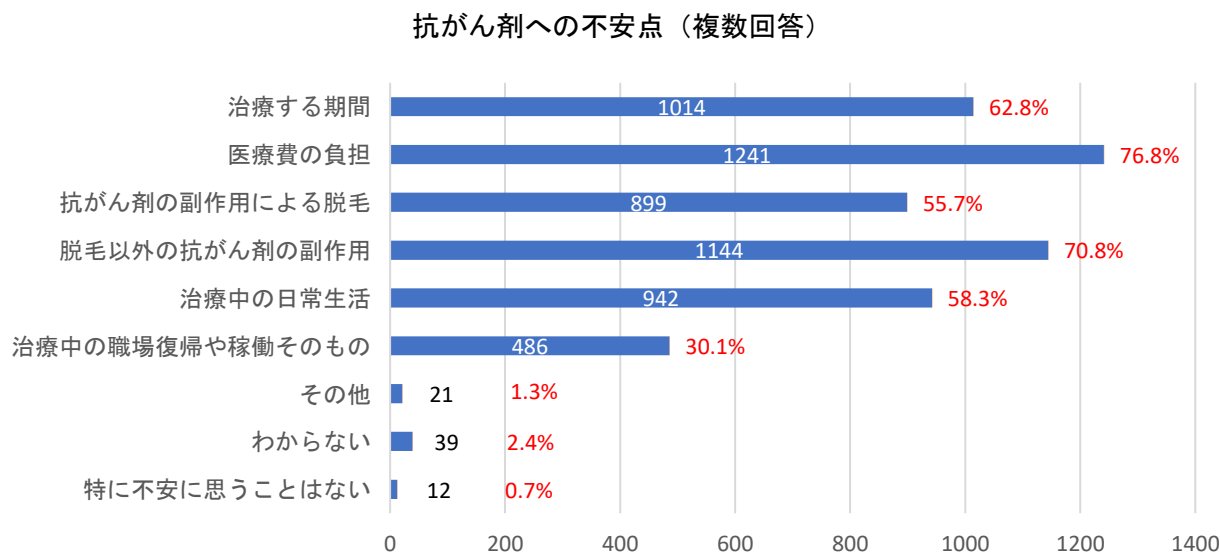
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
がん患者のアピアランスケア（外見の変化に対するケア）	152	36.4%	417	45.7%	1	33.3%
小児・AYA世代のがん患者支援	56	13.4%	258	28.3%	1	33.3%
緩和ケア・支持療法	333	79.7%	715	78.4%	2	66.7%
妊孕性温存療法	15	3.6%	141	15.5%	0	0.0%
その他	7	1.7%	5	0.5%	1	33.3%
回答数	418	100.0%	912	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「緩和ケア・支持療法」が最も高く、就労ありは76.2%、就労なしは84.0%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
がん患者のアピランスケア（外見の変化に対するケア）	391	43.9%	166	39.5%
小児・AYA世代のがん患者支援	223	25.1%	85	20.2%
緩和ケア・支持療法	678	76.2%	353	84.0%
妊孕性温存療法	121	13.6%	30	7.1%
その他	9	1.0%	4	1.0%
回答数	890	100.0%	420	100.0%

(2) 抗がん剤への不安点（複数回答）

抗がん剤治療を受けることになった場合の不安点を聞いたところ、「医療費の負担」が76.8%で最も高く、次いで「脱毛以外の抗がん剤の副作用」が70.8%、「治療する期間」が62.8%となっている。



（サンプル計：1,615人）

性別に見ると、男女共に「医療費の負担」が最も高く、男性は72.4%、女性は79.0%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
治療する期間	305	56.1%	705	66.1%	3	100.0%
医療費の負担	394	72.4%	843	79.0%	3	100.0%
抗がん剤の副作用による脱毛	224	41.2%	671	62.9%	3	100.0%
脱毛以外の抗がん剤の副作用	331	60.8%	810	75.9%	3	100.0%
治療中の日常生活	271	49.8%	668	62.6%	3	100.0%
治療中の職場復帰や稼働そのもの	147	27.0%	337	31.6%	2	66.7%
その他	5	0.9%	15	1.4%	1	33.3%
わからない	20	3.7%	19	1.8%	0	0.0%
特に不安に思うことはない	7	1.3%	5	0.5%	0	0.0%
回答数	544	100.0%	1067	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありなし共に「医療費の負担」が最も高く、就労ありは79.3%、就労なしは71.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
治療する期間	666	62.7%	330	63.2%
医療費の負担	843	79.3%	373	71.5%
抗がん剤の副作用による脱毛	605	56.9%	278	53.3%
脱毛以外の抗がん剤の副作用	767	72.2%	360	69.0%
治療中の日常生活	624	58.7%	305	58.4%
治療中の職場復帰や稼働そのもの	442	41.6%	34	6.5%
その他	12	1.1%	9	1.7%
わからない	19	1.8%	19	3.6%
特に不安に思うことはない	7	0.7%	5	1.0%
回答数	1063	100.0%	522	100.0%

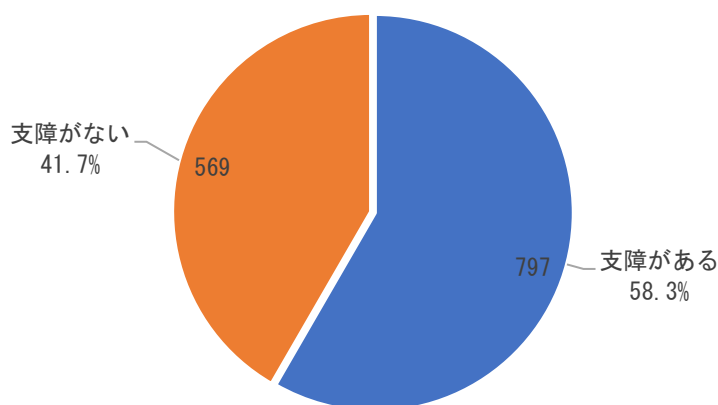
(3) 抗がん剤の副作用による脱毛の影響

問 11(2)で「抗がん剤の副作用による脱毛」「治療中の日常生活」「治療中の職場復帰や稼働そのもの」を選択した回答者に、抗がん剤の副作用による脱毛の影響について支障があるか聞いた。

ア 日常生活への影響（択一回答）

「支障がある」が 58.3%、「支障がない」が 41.7%となっている。

抗がん剤治療の「日常生活」への影響



(回答者数：1,366人)

性別に見ると、男性は「支障がない」が 59.1%、女性は「支障がある」が 66.7%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
支障がある	179	40.9%	616	66.7%	2	66.7%
支障がない	259	59.1%	308	33.3%	1	33.3%
回答数	438	100.0%	924	100.0%	3	100.0%

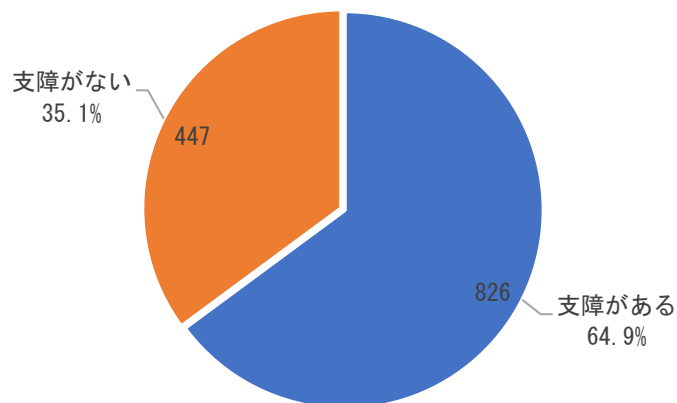
就労別に見ると、就労ありなし共に「支障がある」が最も高く、就労ありは 58.1%、就労なしは 59.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
支障がある	544	58.1%	242	59.5%
支障がない	392	41.9%	165	40.5%
回答数	936	100.0%	407	100.0%

イ 抗がん剤治療の働くことへの影響（択一回答）

「支障がある」が64.9%、「支障がない」が35.1%となっている。

抗がん剤治療の「働くこと」への影響



（回答者数：1,273人）

性別に見ると、男性は「支障がない」が53.8%、女性は「支障がある」が73.7%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
支障がある	190	46.2%	632	73.7%	3	100.0%
支障がない	221	53.8%	226	26.3%	0	0.0%
回答数	411	100.0%	858	100.0%	3	100.0%

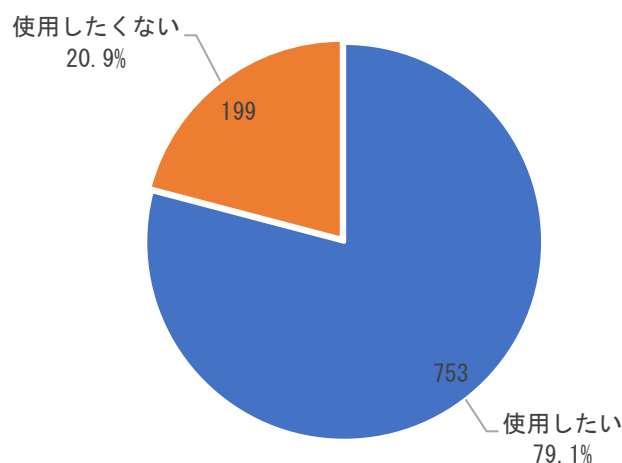
就労別に見ると、就労ありなし共に「支障がある」が最も高く、就労ありは69.2%、就労なしは52.4%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
支障がある	648	69.2%	166	52.4%
支障がない	288	30.8%	151	47.6%
回答数	936	100.0%	317	100.0%

(4) 医療用ウィッグの使用希望（択一回答）

問 11(3)で、「支障がある」を選択した回答者のうち、脱毛に対応した医療用ウィッグの使用を希望するか聞いたところ、「使用したい」が 79.1%、「使用したくない」が 20.9%となっている。

医療用ウィッグの使用希望



(回答者数：952人)

性別に見ると、男性は「使用したくない」が 61.9%、女性は「使用したい」が 90.7%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
使用したい	80	38.1%	669	90.7%	3	100.0%
使用したくない	130	61.9%	69	9.3%	0	0.0%
回答数	210	100.0%	738	100.0%	3	100.0%

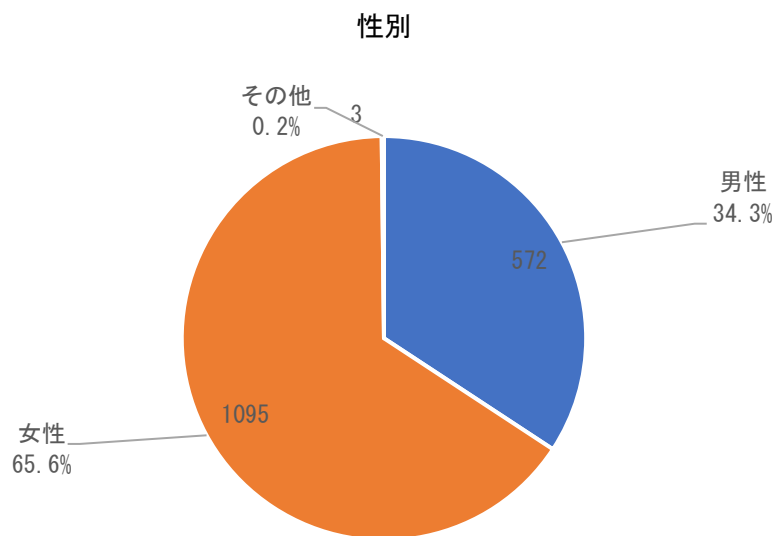
就労別に見ると、就労ありなし共に「支障がある」が最も高く、就労ありは 79.3%、就労なしは 79.1%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
使用したい	535	79.3%	208	79.1%
使用したくない	140	20.7%	55	20.9%
回答数	675	100.0%	263	100.0%

問 12 あなたご自身のことについてお答えください。

(1) 性別（択一回答）

回答者の性別は、女性が 65.6%、男性が 34.3%であった。



(回答者数 : 1,670 人)

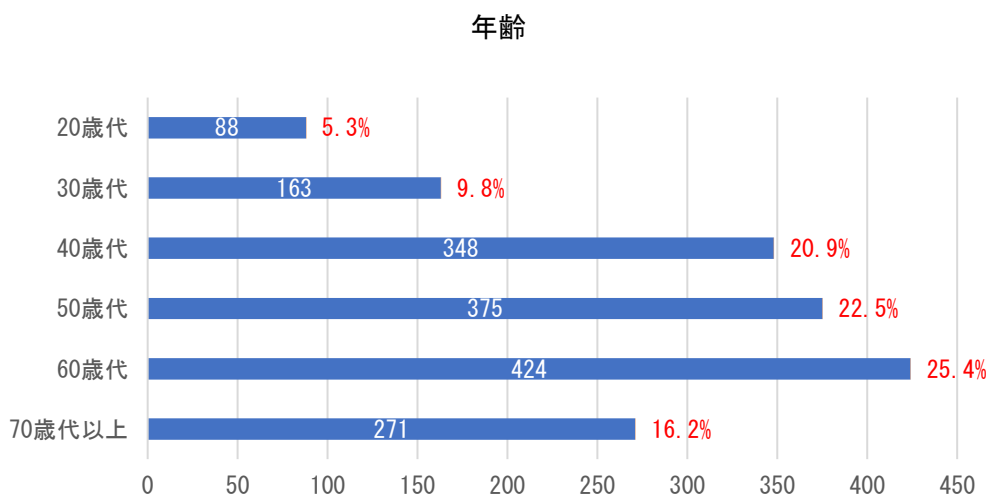
※性別によるクロス集計は省略。

就労別に見ると、就労ありなし共に「女性」が最も高く、就労ありは 63.6%、就労なしは 70.1%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
男性	392	36.2%	166	29.9%
女性	689	63.6%	389	70.1%
その他	3	0.3%	0	0.0%
回答数	1084	100.0%	555	100.0%

(2) 年齢（択一回答）

回答者の年齢は「60歳代」が25.4%で最も高く、次いで「50歳代」が22.5%、「40歳代」が20.9%となっている。



※ 20歳代及び30代は女性のみ。

（回答者数：1,669人）

性別に見ると、男女共に「60歳代」が最も高く、男性は、30.8%、女性は22.7%となっている。

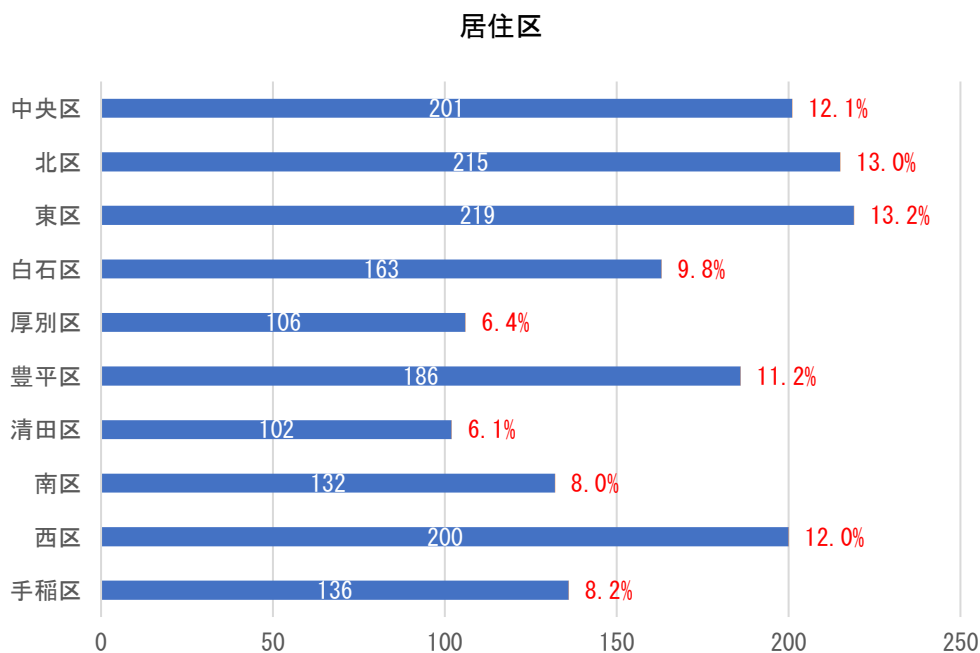
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
20歳代	-	-	87	8.0%	1	33.3%
30歳代	-	-	162	14.8%	1	33.3%
40歳代	119	20.8%	229	20.9%	0	0.0%
50歳代	142	24.8%	232	21.2%	1	33.3%
60歳代	176	30.8%	248	22.7%	0	0.0%
70歳代以上	135	23.6%	136	12.4%	0	0.0%
回答数	572	100.0%	1094	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「50歳代」が28.5%、就労なしは「60歳代」が35.4%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
20歳代	62	5.7%	25	4.5%
30歳代	133	12.3%	29	5.2%
40歳代	291	26.8%	50	9.0%
50歳代	309	28.5%	61	11.0%
60歳代	217	20.0%	196	35.4%
70歳代以上	72	6.6%	193	34.8%
回答数	1084	100.0%	554	100.0%

(3) 居住区（択一回答）

回答者の居住区は、「東区」が13.2%で最も高く、次いで「北区」が13.0%、「中央区」が12.1%、「西区」が12.0%となっている。



(回答者数：1,660人)

性別に見ると、男性は「北区」が13.2%、女性は「東区」が13.9%で最も高くなっている。

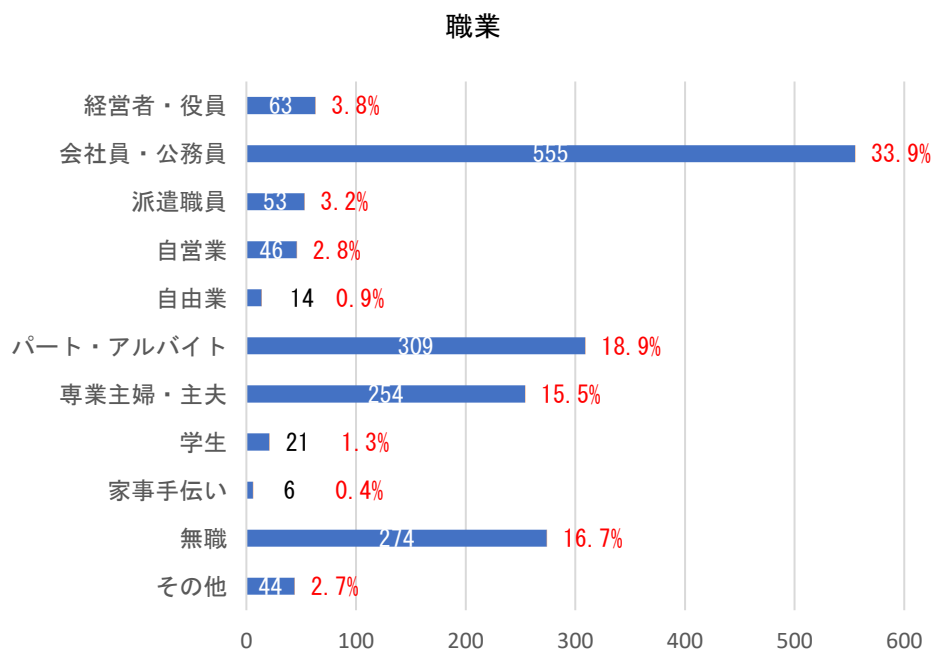
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
中央区	72	12.7%	129	11.8%	0	0.0%
北区	75	13.2%	139	12.8%	1	33.3%
東区	66	11.6%	152	13.9%	1	33.3%
白石区	50	8.8%	113	10.4%	0	0.0%
厚別区	37	6.5%	69	6.3%	0	0.0%
豊平区	63	11.1%	123	11.3%	0	0.0%
清田区	34	6.0%	68	6.2%	0	0.0%
南区	50	8.8%	82	7.5%	0	0.0%
西区	70	12.3%	129	11.8%	1	33.3%
手稲区	50	8.8%	86	7.9%	0	0.0%
回答数	567	100.0%	1090	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「西区」が13.9%、就労なしは「北区」が15.8%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
中央区	138	12.8%	63	11.4%
北区	123	11.4%	87	15.8%
東区	138	12.8%	75	13.6%
白石区	115	10.7%	44	8.0%
厚別区	63	5.8%	43	7.8%
豊平区	128	11.9%	53	9.6%
清田区	51	4.7%	49	8.9%
南区	86	8.0%	44	8.0%
西区	150	13.9%	47	8.5%
手稲区	87	8.1%	46	8.3%
回答数	1079	100.0%	551	100.0%

(4) 職業（択一回答）

回答者の職業は、「会社員・公務員」が最も高く 33.9%、次いで「パート・アルバイト」が 18.9%、「無職」が 16.7%、「専業主婦・主夫」が 15.5%となっている。



(回答者数：1,639人)

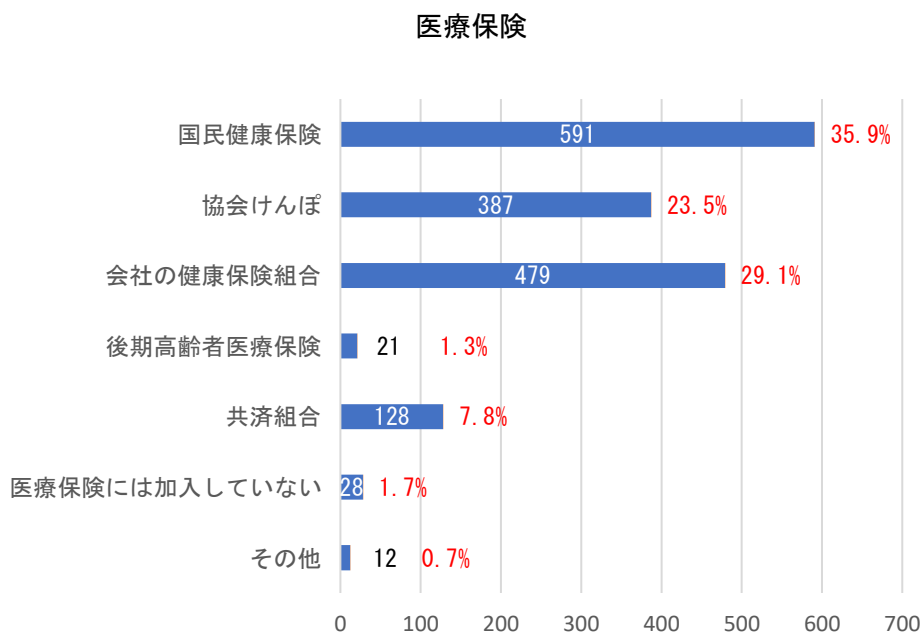
性別で見ると、男女共に「会社員・公務員（正社員）」が最も高く、男性は 45.3%、女性は 28.0%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
経営者・役員	40	7.2%	23	2.1%	0	0.0%
会社員・公務員（正社員）	253	45.3%	302	28.0%	0	0.0%
派遣職員	14	2.5%	39	3.6%	0	0.0%
自営業	24	4.3%	22	2.0%	0	0.0%
自由業	3	0.5%	11	1.0%	0	0.0%
パート・アルバイト	43	7.7%	263	24.4%	3	100.0%
専業主婦・主夫	5	0.9%	249	23.1%	0	0.0%
学生	0	0.0%	21	1.9%	0	0.0%
家事手伝い	0	0.0%	6	0.6%	0	0.0%
無職	161	28.9%	113	10.5%	0	0.0%
その他	15	2.7%	29	2.7%	0	0.0%
回答数	558	100.0%	1078	100.0%	3	100.0%

※就労状況によるクロス集計は省略。

(5) 医療保険（択一回答）

回答者の医療保険は、「国民健康保険」が35.9%で最も高く、次いで「会社の健康保険組合」が29.1%、「協会けんぽ」が23.5%となっている。



（回答者数：1,646人）

性別に見ると、男女共に「国民健康保険」が最も高く、男性は37.7%、女性は34.9%となっている。

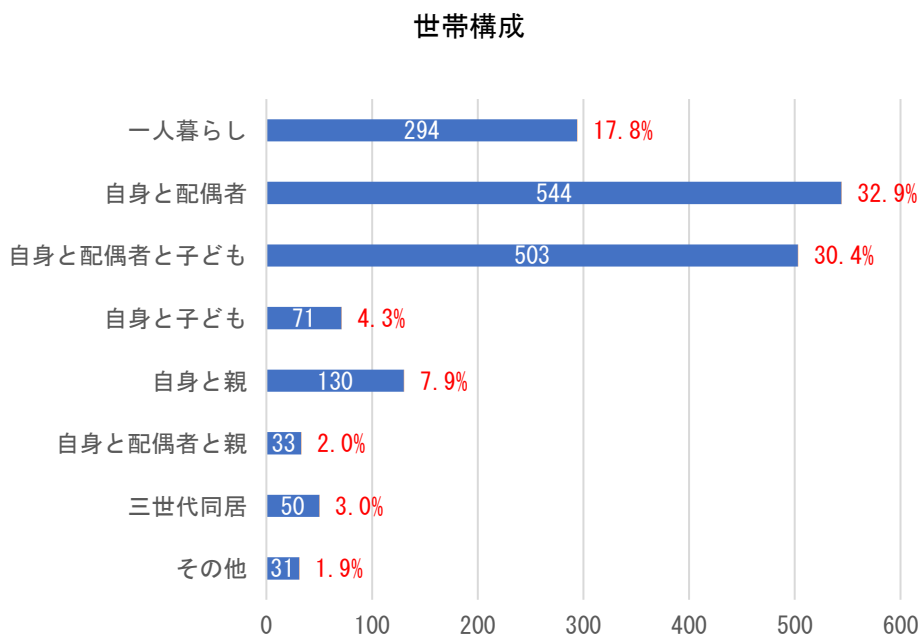
	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
国民健康保険	212	37.7%	377	34.9%	2	66.7%
協会けんぽ（全国健康保険協会〇〇支部など。旧政府管掌健康保険）	131	23.3%	256	23.7%	0	0.0%
会社の健康保険組合（「〇〇健康保険組合」など。組管掌健康保険）	143	25.4%	335	31.0%	1	33.3%
後期高齢者医療保険	10	1.8%	11	1.0%	0	0.0%
共済組合	50	8.9%	78	7.2%	0	0.0%
医療保険には加入していない	12	2.1%	16	1.5%	0	0.0%
その他	4	0.7%	8	0.7%	0	0.0%
回答数	562	100.0%	1081	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「会社の健康保険組合」が35.6%、就労なしは「国民健康保険」が60.7%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
国民健康保険	253	23.5%	328	60.7%
協会けんぽ（全国健康保険協会〇〇支部など。旧政府管掌健康保険）	325	30.1%	57	10.6%
会社の健康保険組合（「〇〇健康保険組合」など。組合管掌健康保険）	384	35.6%	83	15.4%
後期高齢者医療保険	2	0.2%	18	3.3%
共済組合	109	10.1%	19	3.5%
医療保険には加入していない	4	0.4%	24	4.4%
その他	1	0.1%	11	2.0%
回答数	1078	100.0%	540	100.0%

(6) 世帯構成（択一回答）

回答者の世帯構成は、「自身と配偶者」が32.9%で最も高く、次いで「自身と配偶者と子ども」が30.4%、「一人暮らし」が17.8%となっている。



(回答者数 : 1,656 人)

性別で見ると、男性は「自身と配偶者（夫婦のみ）」が41.7%、女性は「自身と配偶者と子ども（夫婦と子）」が31.1%で最も高くなっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
一人暮らし	91	15.9%	202	18.7%	1	33.3%
自身と配偶者（夫婦のみ）	238	41.7%	305	28.2%	1	33.3%
自身と配偶者と子ども（夫婦と子）	167	29.2%	336	31.1%	0	0.0%
自身と子ども（ひとり親家庭）	7	1.2%	64	5.9%	0	0.0%
自身と親（親と同居）	32	5.6%	97	9.0%	1	33.3%
自身と配偶者と親（夫婦が親と同居）	17	3.0%	16	1.5%	0	0.0%
三世代同居	13	2.3%	37	3.4%	0	0.0%
その他	6	1.1%	25	2.3%	0	0.0%
回答数	571	100.0%	1082	100.0%	3	100.0%

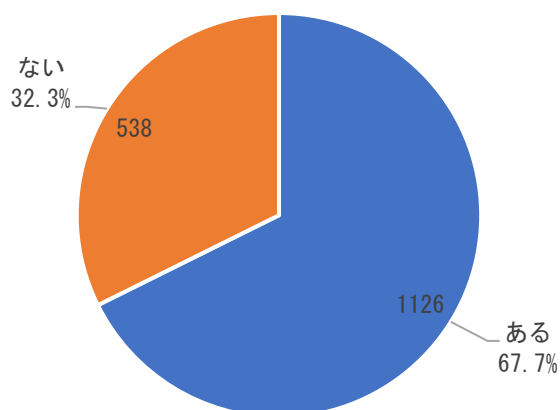
就労別に見ると、就労ありは「自身と配偶者と子ども（夫婦と子）」が32.5%、就労なしは「自身と配偶者（夫婦のみ）」が42.7%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
一人暮らし	201	18.6%	84	15.3%
自身と配偶者（夫婦のみ）	305	28.3%	234	42.7%
自身と配偶者と子ども（夫婦と子）	351	32.5%	148	27.0%
自身と子ども（ひとり親家庭）	54	5.0%	16	2.9%
自身と親（親と同居）	94	8.7%	32	5.8%
自身と配偶者と親（夫婦が親と同居）	29	2.7%	3	0.5%
三世帯同居	27	2.5%	19	3.5%
その他	18	1.7%	12	2.2%
回答数	1079	100.0%	548	100.0%

(7) 入院経験の有無（択一回答）

回答者の入院経験は、「ある」が67.7%で、「ない」が32.3%となっている。

入院経験の有無



（回答者数：1,664人）

性別に見ると、男女共に「ある」が最も高く、男性は74.1%、女性は64.3%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
ある	421	74.1%	700	64.3%	1	33.3%
ない	147	25.9%	389	35.7%	2	66.7%
回答数	568	100.0%	1089	100.0%	3	100.0%

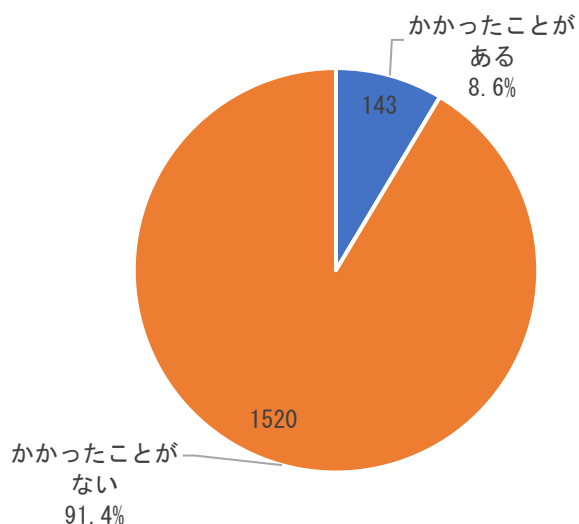
就労別に見ると、就労ありなし共に「ある」が最も高く、就労ありは63.2%、就労なしは75.5%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
ある	683	63.2%	414	75.5%
ない	398	36.8%	134	24.5%
回答数	1081	100.0%	548	100.0%

(8) がんの罹患経験（択一回答）

回答者にこれまでにがんにかかった経験があるか聞いたところ、「かかったことがない」が91.4%で、「かかったことがある」が8.6%となっている。

がんの罹患経験の有無



(回答者数：1,663人)

性別に見ると、男女共に「かかったことがない」が最も高く、男性は91.0%、女性は91.6%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
かかったことがある	51	9.0%	91	8.4%	0	0.0%
かかったことがない	516	91.0%	998	91.6%	3	100.0%
回答数	567	100.0%	1089	100.0%	3	100.0%

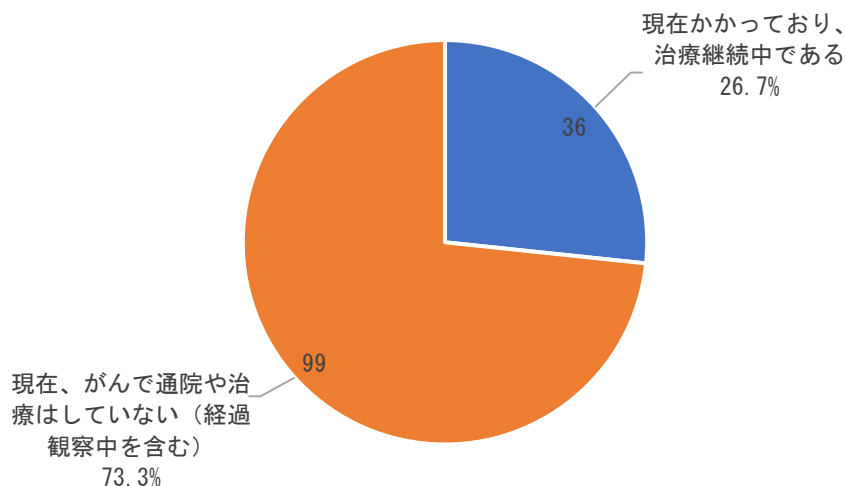
就労別に見ると、就労ありなし共に「かかったことがない」が最も高く、就労ありは93.4%、就労なしは87.6%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
かかったことがある	71	6.6%	68	12.4%
かかったことがない	1009	93.4%	480	87.6%
回答数	1080	100.0%	548	100.0%

(9) 現在のがんの状況（択一回答）

問 12(8)で、「かかった事がある」を選択した回答者に、現在のがんの状況について聞いたところ、「現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）」が73.3%となっている。

現在のがんの状況について



(回答者数：135人)

性別に見ると、男女共に「現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）」が最も高く、男性は70.2%、女性は75.9%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
現在かかっており、治療継続中である	14	29.8%	21	24.1%	0	0.0%
現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）	33	70.2%	66	75.9%	0	0.0%
回答数	47	100.0%	87	100.0%	0	100.0%

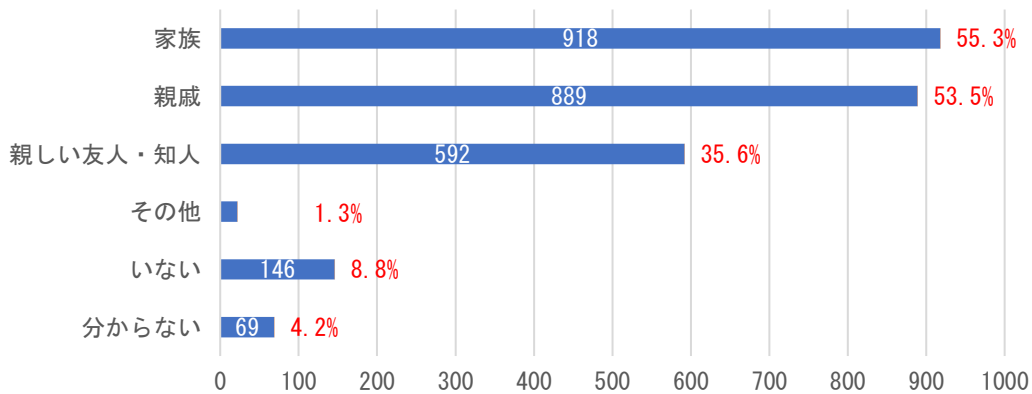
就労別に見ると、就労ありなし共に「現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）」が最も高く、就労ありは77.9%、就労なしは69.8%となっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
現在かかっており、治療継続中である	15	22.1%	19	30.2%
現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）	53	77.9%	44	69.8%
回答数	68	100.0%	63	100.0%

(10) 周囲のがんの罹患状況(複数回答)

回答者の親しい人でがんにかかった人はいるか聞いたところ、「家族」が55.3%で最も高く、次いで「親戚」が53.5%、「親しい友人・知人」が35.6%となっている。

周囲のがんの罹患状況（複数回答）



(サンプル計：1,661人)

性別に見ると、男女共に「家族」が最も高く、男性は53.2%、女性は56.3%となっている。

	男性		女性		その他	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
家族	301	53.2%	613	56.3%	2	66.7%
親戚	292	51.6%	592	54.4%	2	66.7%
親しい友人・知人	198	35.0%	392	36.0%	0	0.0%
その他	4	0.7%	18	1.7%	0	0.0%
いない	56	9.9%	90	8.3%	0	0.0%
分からない	31	5.5%	38	3.5%	0	0.0%
サンプル計	566	100.0%	1088	100.0%	3	100.0%

就労別に見ると、就労ありは「家族」が56.2%、就労なしは「親戚」が55.6%で最も高くなっている。

	就労あり		就労なし	
	実数	構成比	実数	構成比
家族	605	56.2%	296	53.9%
親戚	565	52.5%	305	55.6%
親しい友人・知人	372	34.5%	206	37.5%
その他	17	1.6%	4	0.7%
いない	102	9.5%	42	7.7%
分からない	33	3.1%	33	6.0%
サンプル計	1077	100.0%	549	100.0%

2 事業所向け意識調査

(1) 対象者

札幌市内に事業所を有する 1,500 社・団体を無作為抽出により選定し、アンケート調査を実施した。

(2) 調査方法と回収率

アンケート調査は、郵送と web の 2 種類の方法で行った。郵送では、アンケートを対象者に調査票と返信用封筒を同封して発送し、郵送によって回収した。Web では、google フォームにより専用ページを作成し、回答を受け付けた。

本調査は令和 4 年 9 月に実施し、全体で 1,500 件を発送した。そのうち全体で 537 件の回答（回収率 約 35.8%）を得た。（うち web 回答 107 件）。

	実数	構成比
アンケート発送数	1,500	100.0%
回収数	537	35.8%
（うち WEB 回答）	(107)	(19.9%)
		※回収数 537 での比率

※端数処理により、比率の合計が 100%とならない場合がある。

集計結果

問1 貴事業所のことについてお聞きします。

(1) 業種（択一回答）

業種について聞いたところ、「建設業関係(設計、建築、土木)」が49.9%と最も高く、次いで「その他」が20.5%となっている。

業種について

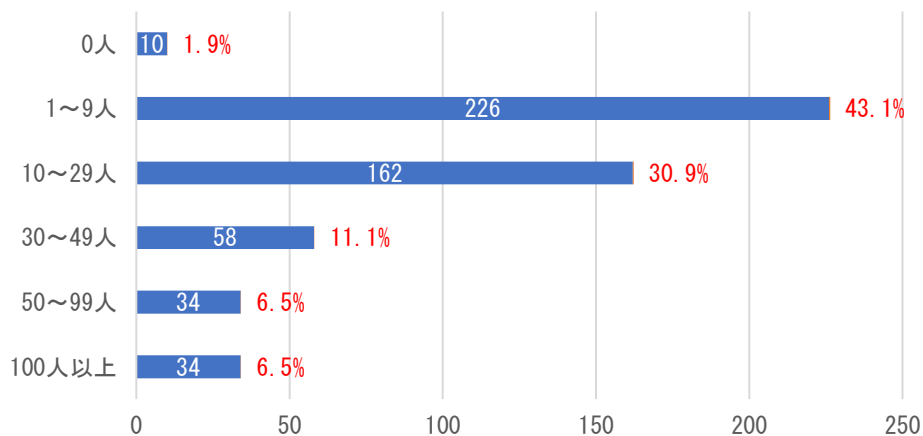
		実数	構成比
1	農林漁業	2	0.4%
2	建設業関係(設計、建築、土木)	260	49.9%
3	製造業(工業系)	29	5.6%
4	製造業(食品系)	2	0.4%
5	電力・ガス・水道関係	10	1.9%
6	コンピュータ・情報通信関係	26	5.0%
7	マスコミ・出版関係	2	0.4%
8	交通・運輸関係	10	1.9%
9	商業・販売関係	53	10.2%
10	金融・保険関係	0	0.0%
11	学術・研究関係	1	0.2%
12	宿泊・ホテル関係	0	0.0%
13	飲食業関係	1	0.2%
14	理容・美容関係	0	0.0%
15	旅行関係	1	0.2%
16	スポーツ関係	3	0.6%
17	教育・保育関係	2	0.4%
18	医療・福祉関係	12	2.3%
19	その他	107	20.5%
	合計	521	100.0%

(2) 従業員数（数値回答）

ア 正規雇用

正規雇用の従業員数について聞いたところ、「1～9人」が43.1%で最も高く、次いで「10～29人」が30.9%となっている。

正規雇用の従業員数（数値回答）

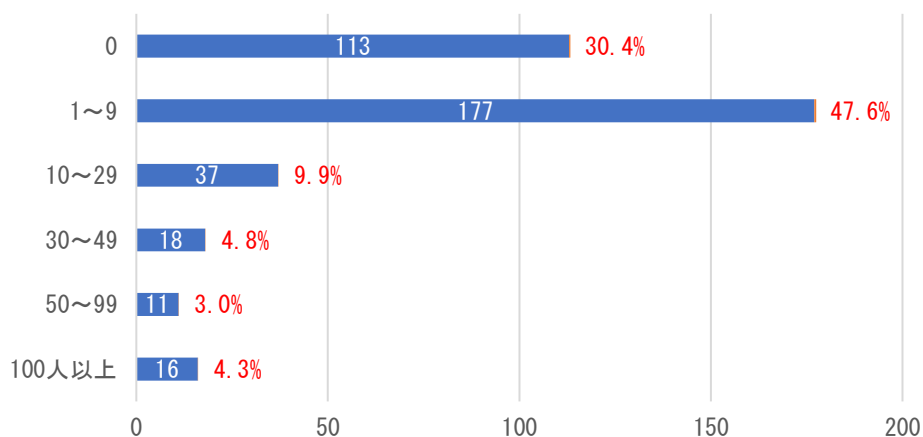


(回答数 : 524)

イ 非正規雇用

非正規雇用の従業員数について聞いたところ、「1～9人」が47.6%で最も高く、次いで「0人」が30.4%となっている。

非正規雇用の従業員数（数値回答）



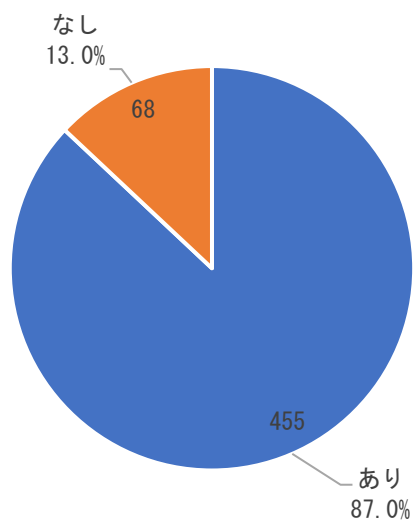
(回答数 : 372)

(3) 女性従業員の雇用の有無（択一回答）

ア 正規雇用

正規雇用による女性従業員の有無について聞いたところ、「あり」が87.0%となっている。

女性従業員（正規雇用）の有無

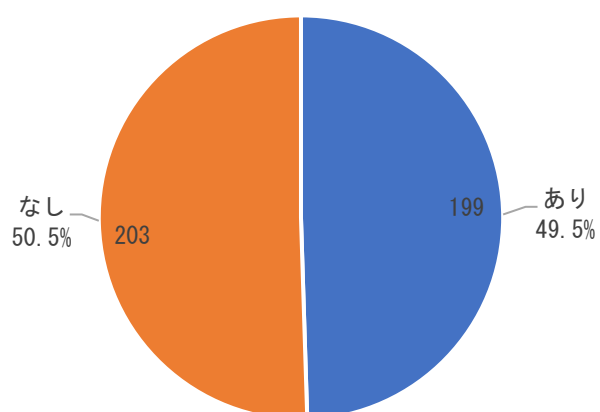


(回答数：523)

イ 非正規雇用

非正規雇用による女性従業員の有無について聞いたところ、「なし」が50.6%となっている。

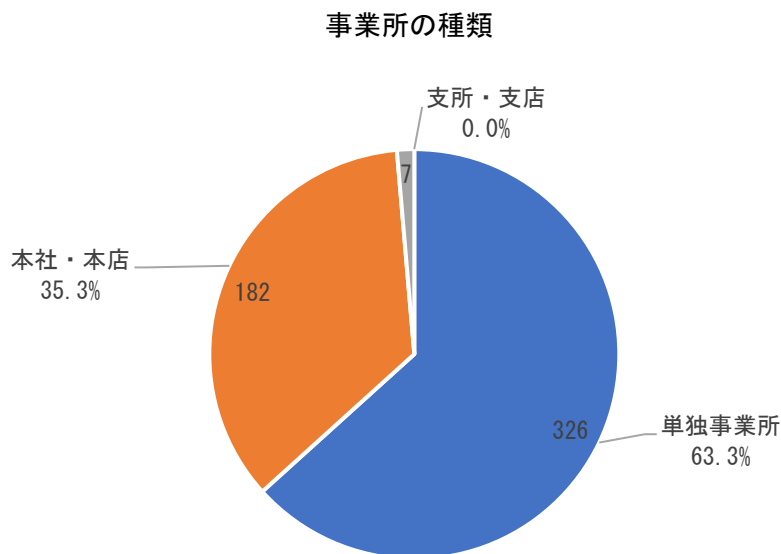
女性従業員（非正規雇用）の有無



(回答数：402)

(4) 事業所の種類 (択一回答)

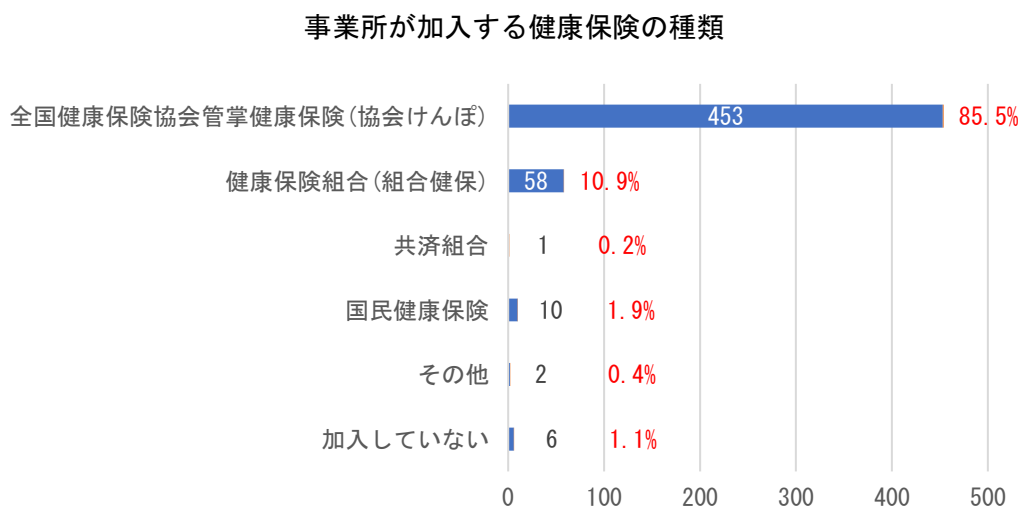
事業所の種類について聞いたところ、「単独事業所」が63.3%で最も高くなっている。



(回答数 : 515)

(5) 加入している健康保険の種類 (択一回答)

加入している健康保険の種類について聞いたところ、「全国健康保険協会管掌健康保険(協会けんぽ)」が85.5%で最も高く、次いで「健康保険組合(組合健保)」が10.9%となっている。



(回答数 : 530)

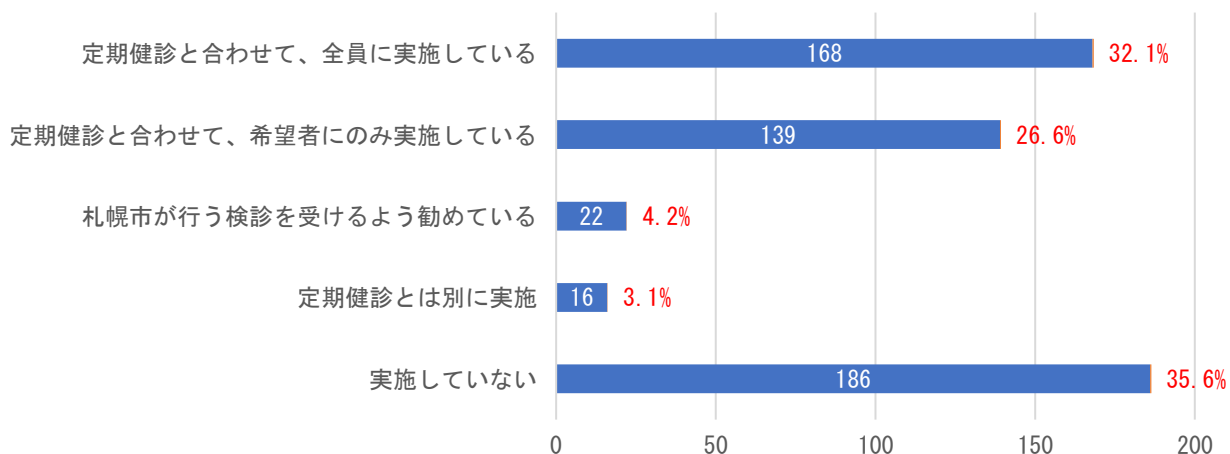
問2 正規雇用の従業員のがん検診をどのような形で実施していますか。(複数回答)

正規雇用のがん検診をどのような形で実施しているか、がん検診の種類ごとに聞いた。

(1) 大腸がん検診

「定期健診と合わせて、全員に実施している」が32.1%、「実施していない」が35.6%となっている。

大腸がん検診の実施方法について(複数回答)

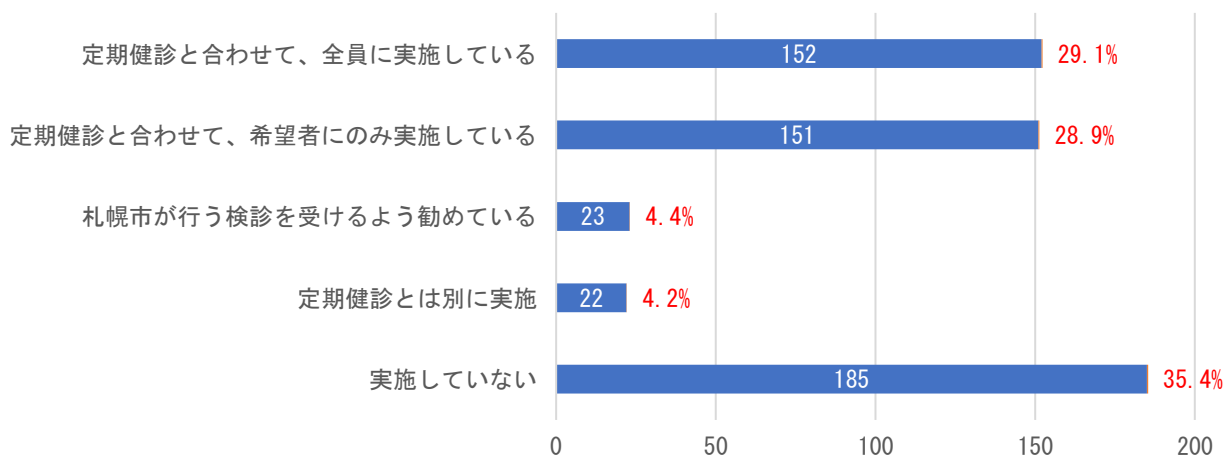


(サンプル計 : 523)

(2) 胃がん検診

「定期健診と合わせて、全員に実施している」が29.1%、「実施していない」が35.4%となっている。

胃がん検診の実施方法について(複数回答)

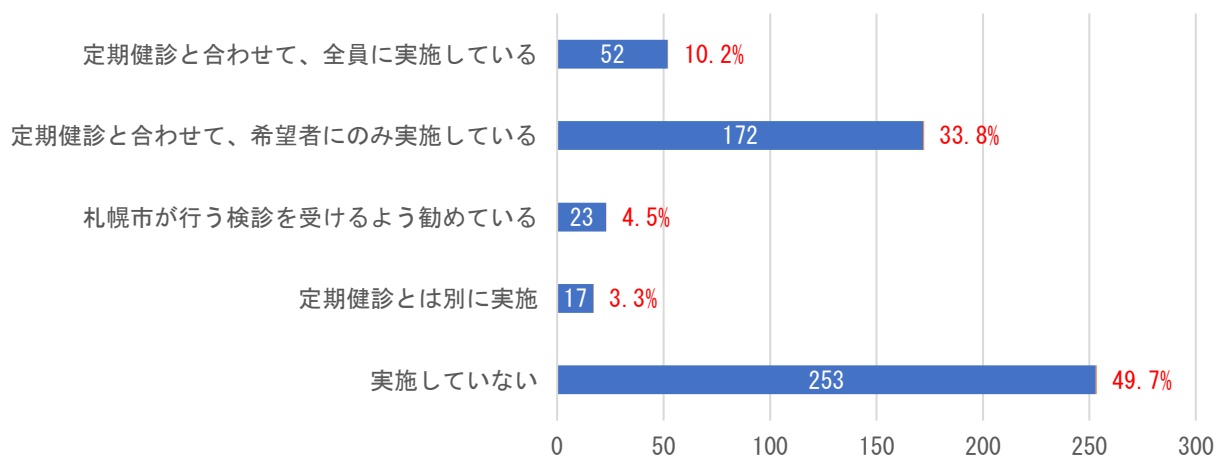


(サンプル計 : 523)

(3) 胃に関する検査

「定期健診と合わせて、希望者にのみ実施している」が33.8%、「実施していない」が49.7%となっている。

胃に関する検査の実施方法について(複数回答)

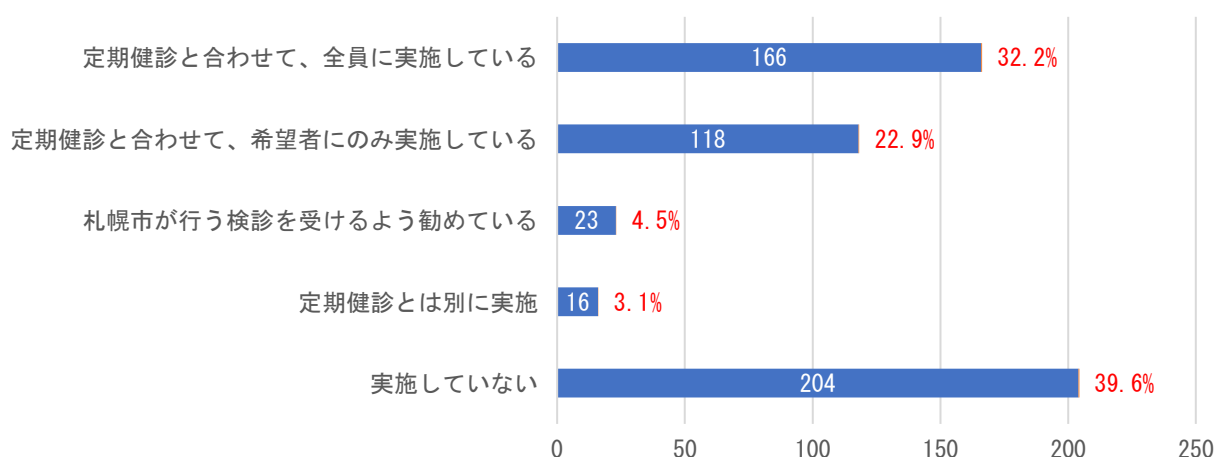


(サンプル計 : 509)

(4) 肺がん検診

「定期健診と合わせて、全員に実施している」が32.2%、「実施していない」が39.6%となっている。

肺がん検診の実施方法について(複数回答)

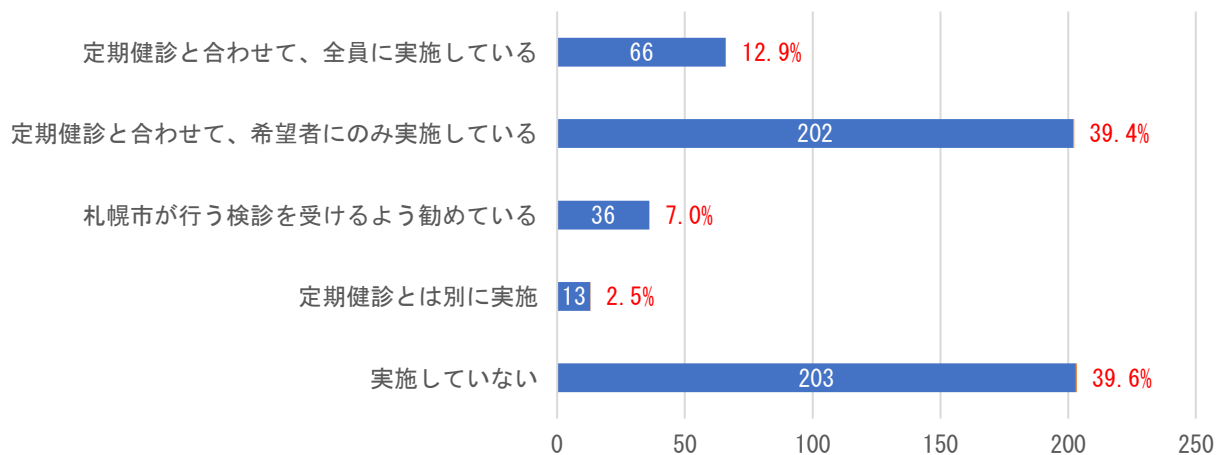


(サンプル計 : 515)

(5) 子宮頸がん検診

「定期健診と合わせて、希望者にのみ実施している」が39.4%、「実施していない」が39.6%となっている。

子宮頸がん検診の実施方法について(複数回答)

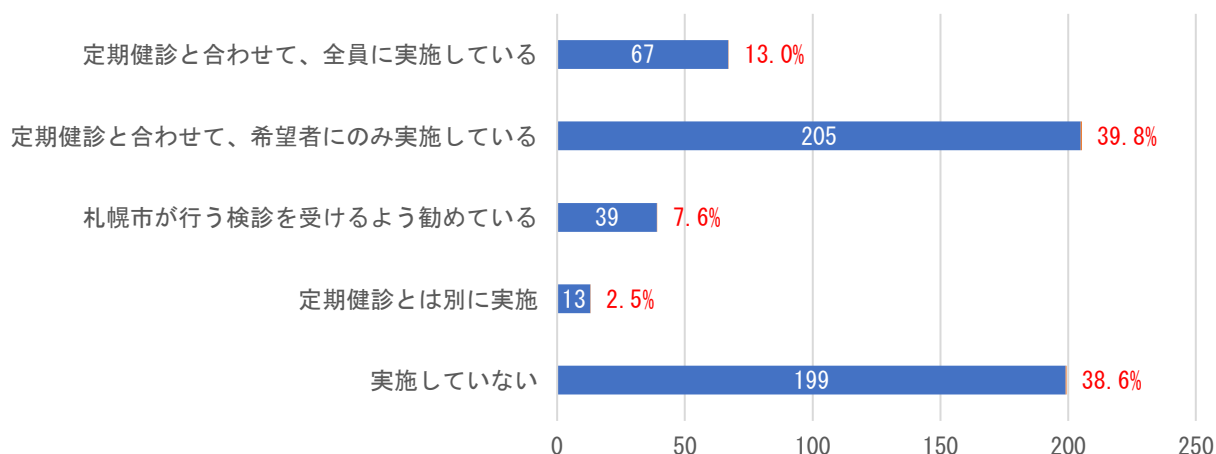


(サンプル計 : 513)

(6) 乳がん検診

「定期健診と合わせて、希望者にのみ実施している」が39.8%、「実施していない」が38.6%となっている。

乳がん検診の実施方法について(複数回答)



(サンプル計 : 515)

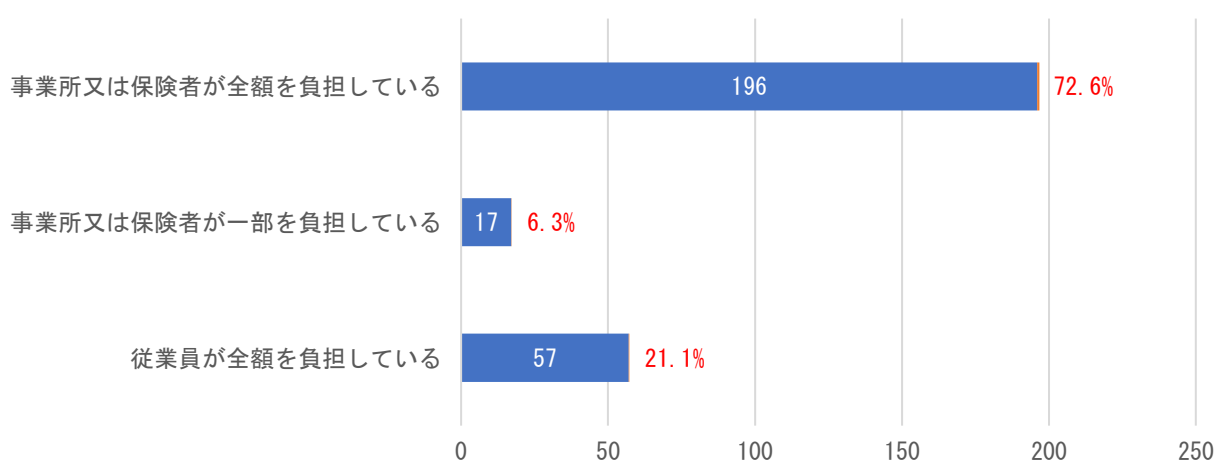
問3 がん検診にかかる追加の費用はどのように負担されていますか。(択一回答)

問2で「実施していない」以外を選択した回答者に、がん検診にかかる追加の費用負担について聞いた。

(1) 大腸がん検診

「事業所又は保険者が全額を負担している」が72.6%、「従業員が全額を負担している」が21.1%となっている。

大腸がん検診にかかる追加費用の負担

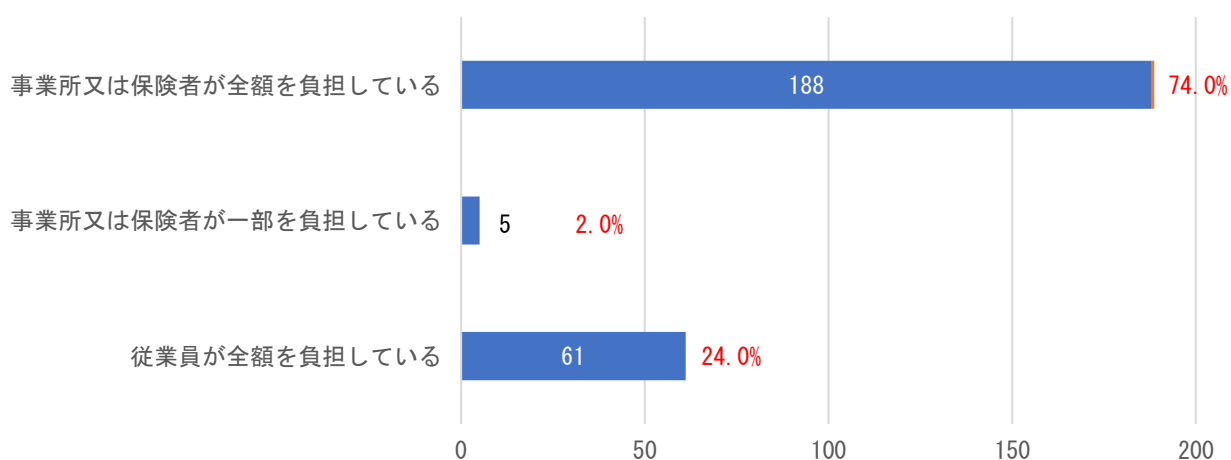


(回答数 : 270)

(2) 胃がん検診

「事業所又は保険者が全額を負担している」が74.0%、「従業員が全額を負担している」が24.0%となっている。

胃がん検診にかかる追加費用の負担

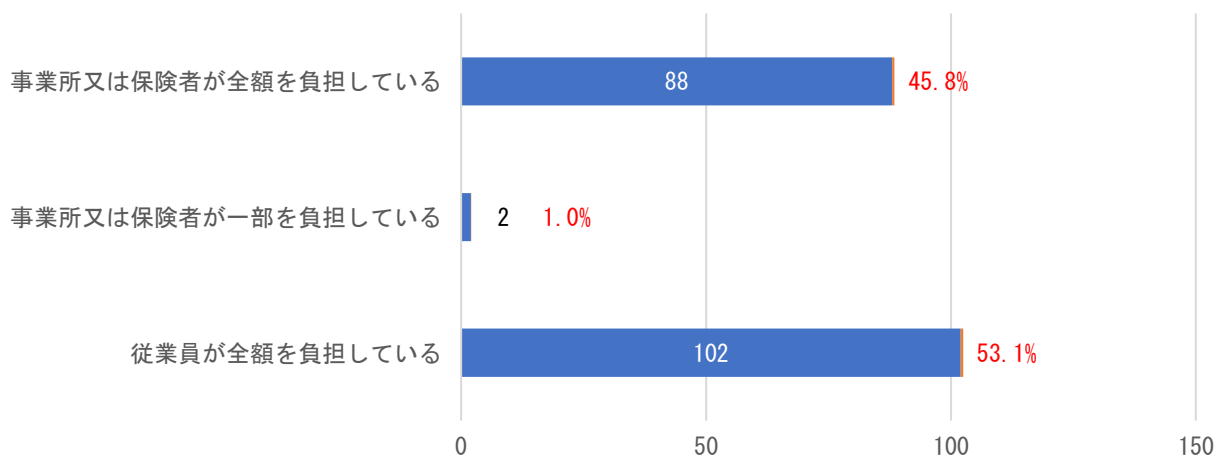


(回答数 : 254)

(3) 胃に関する検査

「事業所又は保険者が全額を負担している」が45.8%、「従業員が全額を負担している」が53.1%となっている。

胃に関する検査にかかる追加費用の負担

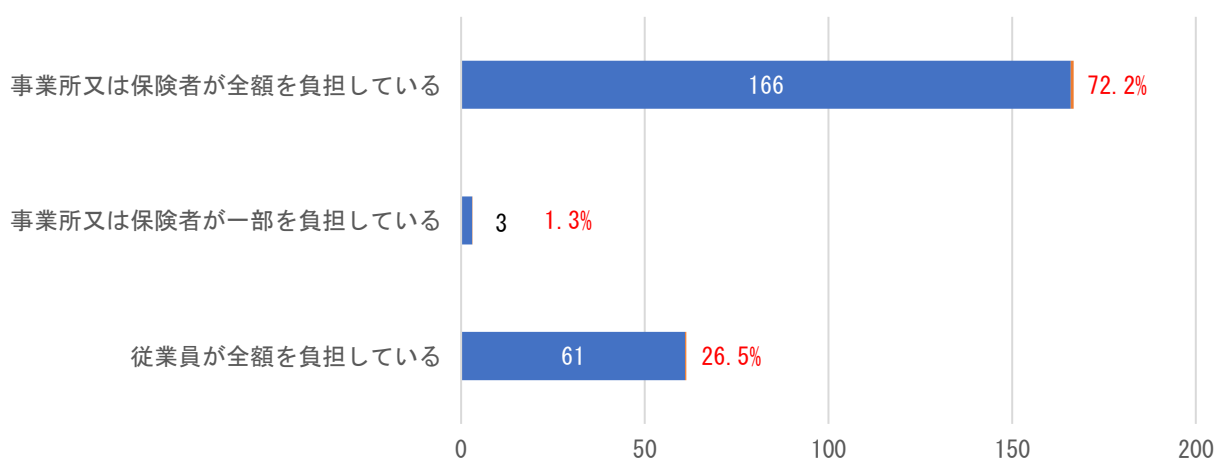


(回答数 : 192)

(4) 肺がん検診

「事業所又は保険者が全額を負担している」が72.2%、「従業員が全額を負担している」が26.5%となっている。

肺がん検診にかかる追加費用の負担

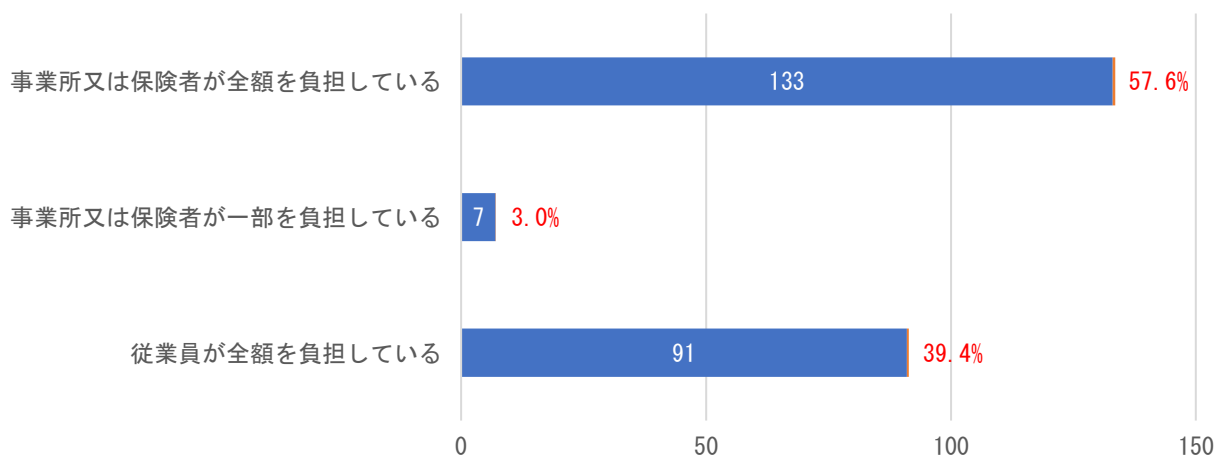


(回答数 : 230)

(5) 子宮頸がん検診

「事業所又は保険者が全額を負担している」が 57.6%、「従業員が全額を負担している」が 39.4%となっている。

子宮頸がん検診にかかる追加費用の負担

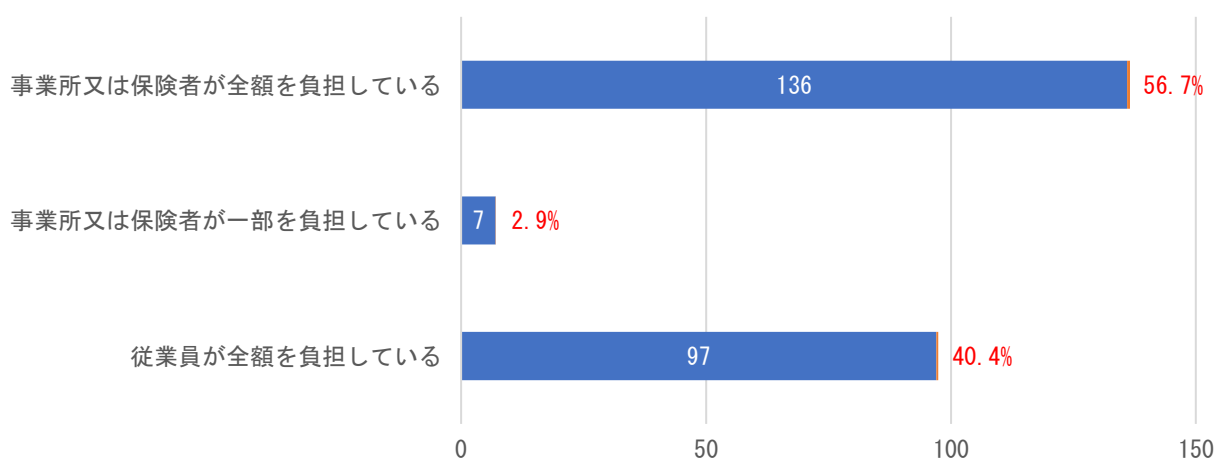


(回答数 : 231)

(6) 乳がん検診

「事業所又は保険者が全額を負担している」が 56.7%、「従業員が全額を負担している」は 40.4%となっている。

乳がん検診にかかる追加費用の負担



(回答数 : 240)

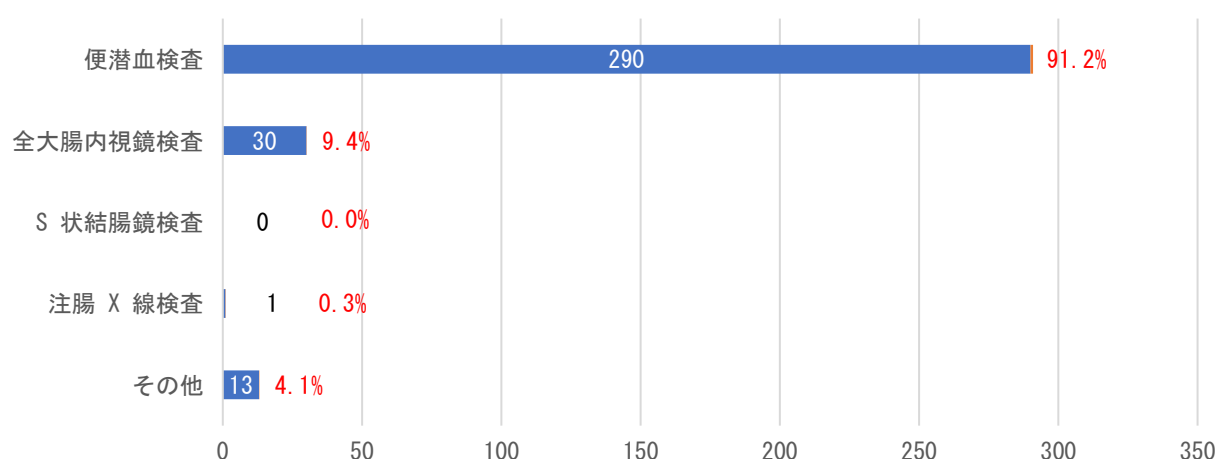
問4 がん検診の方法（内容）はどのようなものですか。（複数回答）

問2で「実施していない」以外を選択した回答者に、がん検診の方法（内容）をがん検診の種類ごとに聞いた。

(1) 大腸がん検診

「便潜血検査」が91.2%で最も高くなっている。一方で「S状結腸鏡検査」は回答数0となっている。

大腸がん検診の実施方法（内容）（複数回答）

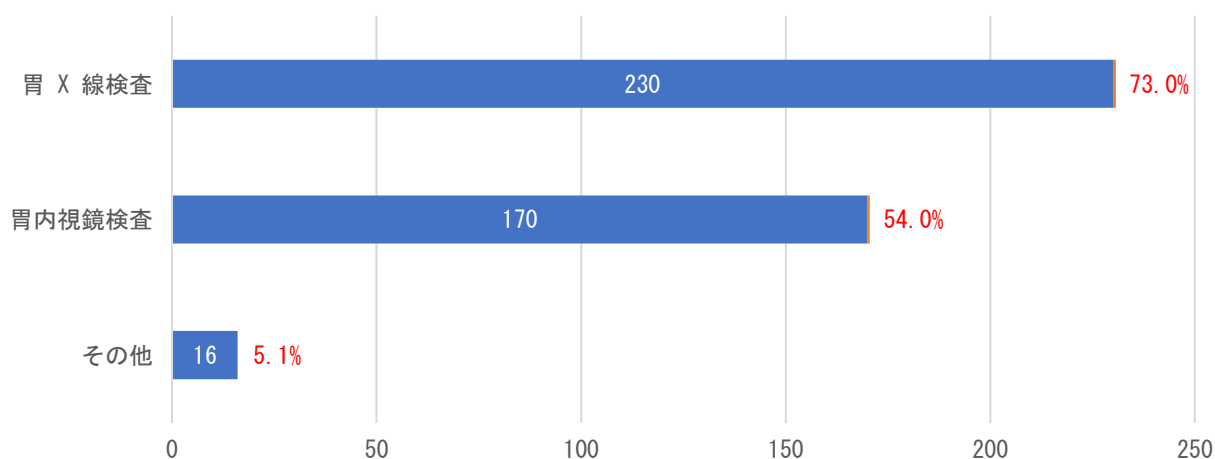


(サンプル計：318)

(2) 胃がん検診

「胃X線検査」が73.0%で最も高く、次いで「胃内視鏡検査」が54.0%となっている。

胃がん検診での実施方法（内容）（複数回答）

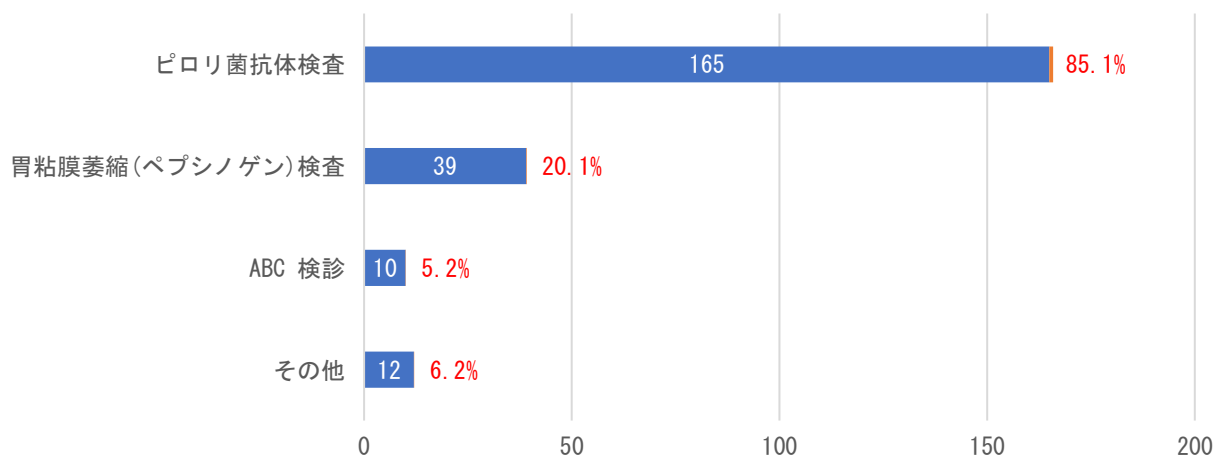


(サンプル計：315)

(3) 胃に関する検査

「ピロリ菌抗体検査」が85.1%で最も高く、次いで「胃粘膜萎縮(ペプシノゲン)検査」が20.1%となっている。

胃に関する検査での実施方法（内容）（複数回答）

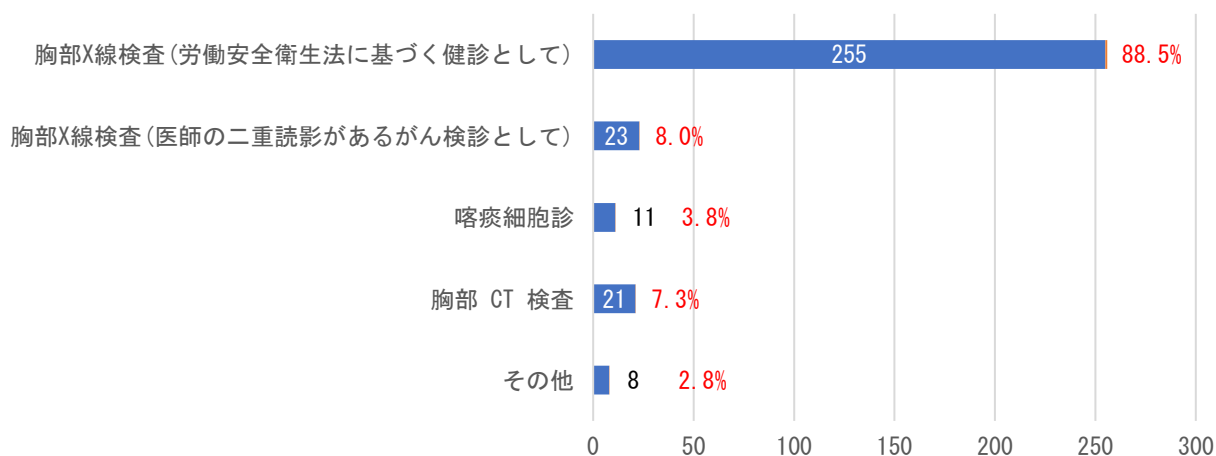


(サンプル計 : 194)

(4) 肺がん検診

「胸部X線検査(労働安全衛生法に基づく健診として)」が88.5%で最も高く、次いで「胸部X線検査(医師の二重読影があるがん検診として)」が8.0%となっている。

肺がん検診での実施方法（内容）（複数回答）

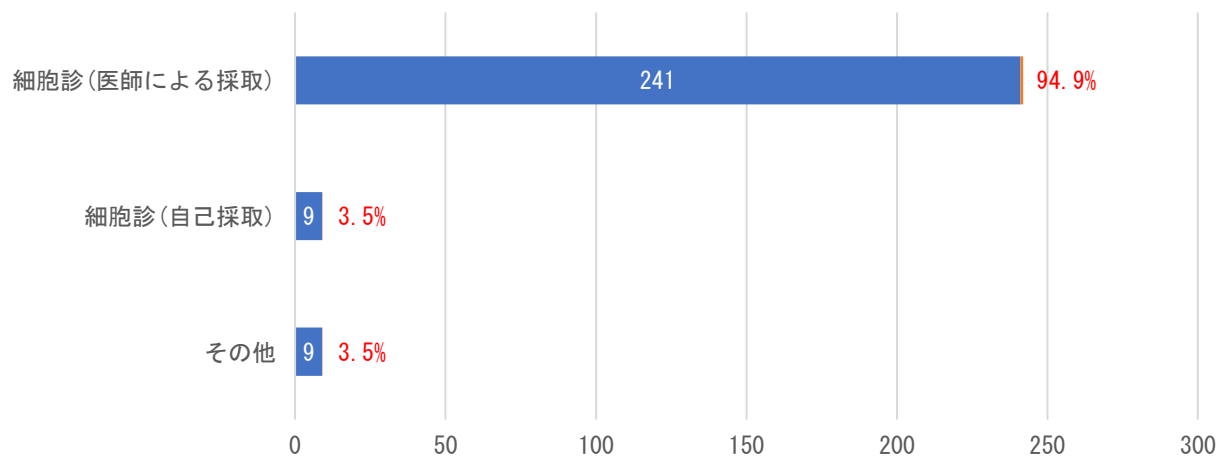


(サンプル計 : 288)

(5) 子宮頸がん検診

「細胞診(医師による採取)」が94.9%となっている。

子宮頸がん検診での実施方法（内容）（複数回答）

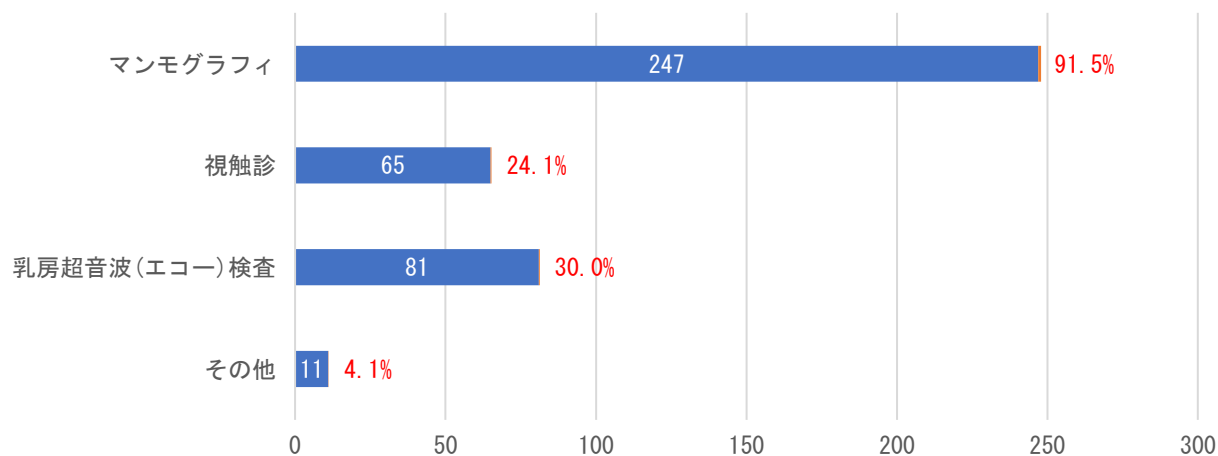


(サンプル計：254)

(6) 乳がん検診

「マンモグラフィ」が91.5%で最も高く、次いで「乳房超音波(エコー)検査」が30.0%となっている。

乳がん検診での実施方法（内容）（複数回答）



(サンプル計：270)

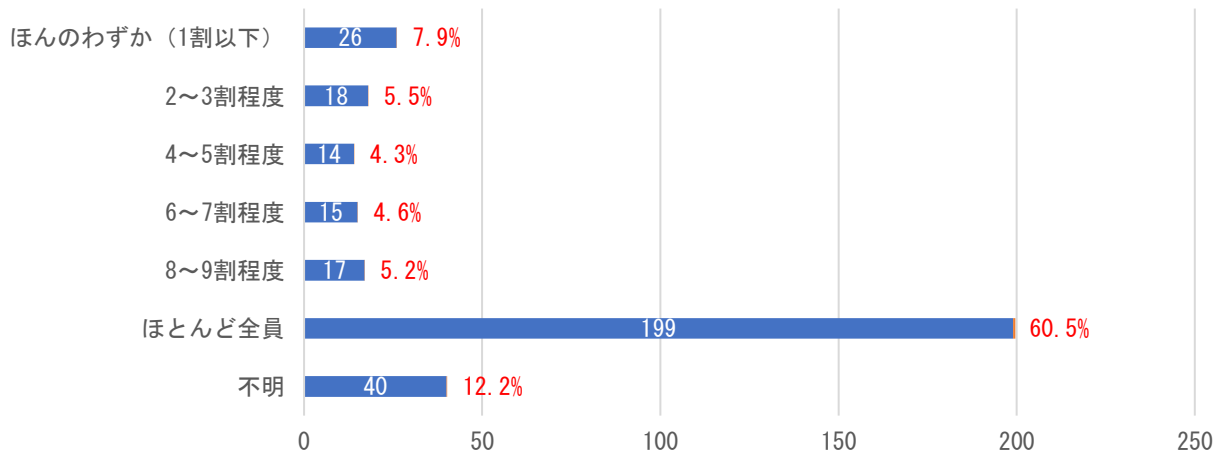
問5 正規雇用の従業員のがん検診受診率はおおよそどの程度ですか。（択一回答）

問2で「実施していない」以外を選択した回答者に、正規雇用の従業員のがん検診受診率を、がん検診の種類ごとに聞いた。

(1) 大腸がん検診（40歳以上）

「ほとんど全員」が60.5%で最も高くなっている。

大腸がん検診の正規雇用従業員受診率

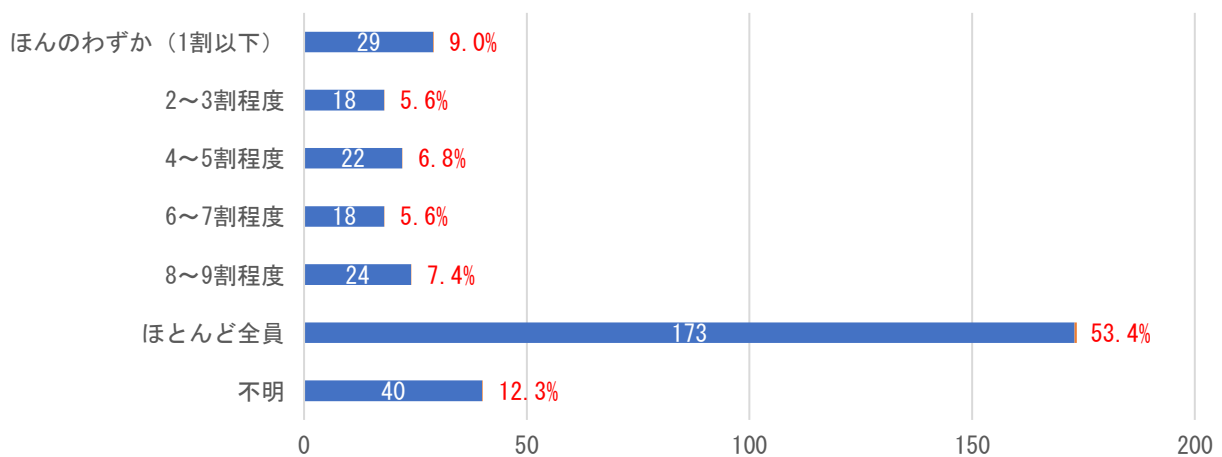


（サンプル計：329）

(2) がん検診（50歳以上）

「ほとんど全員」が53.4%で最も高くなっている。

胃がん検診の正規雇用従業員受診率

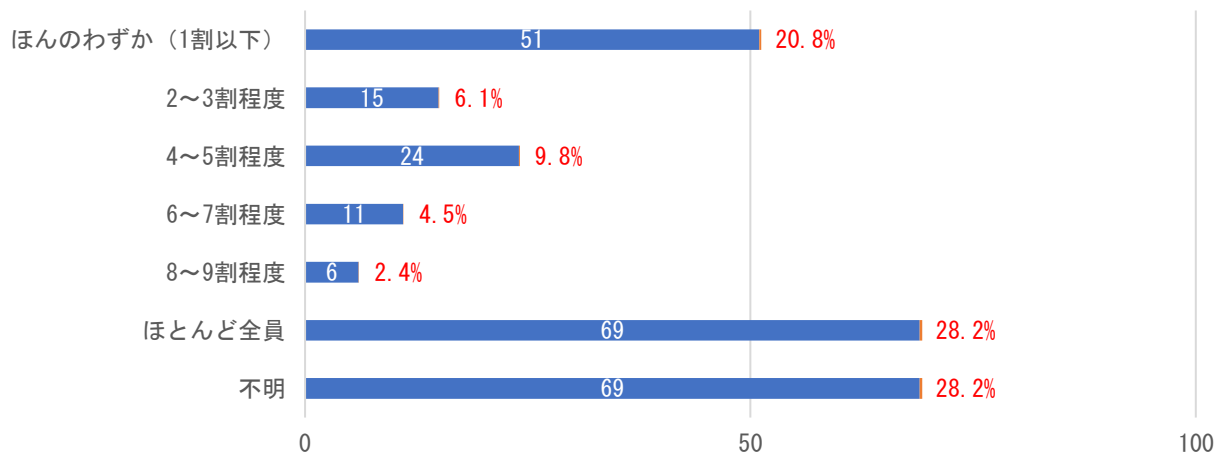


（サンプル計：324）

(3) 胃に関する検査 (40 歳以上)

「ほとんど全員」及び「不明」が 28.2%で最も高くなっている。

胃に関する検査の正規雇用従業員受診率

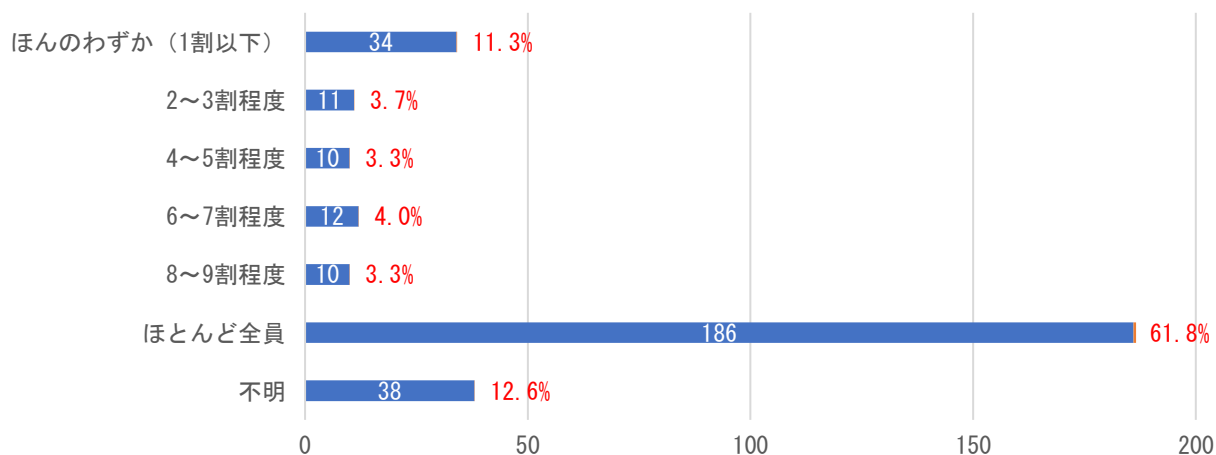


(サンプル計 : 245)

(4) 肺がん検診 (40 歳以上)

「ほとんど全員」が 61.8%で半数以上となっている。

肺がん検診の正規雇用従業員受診率

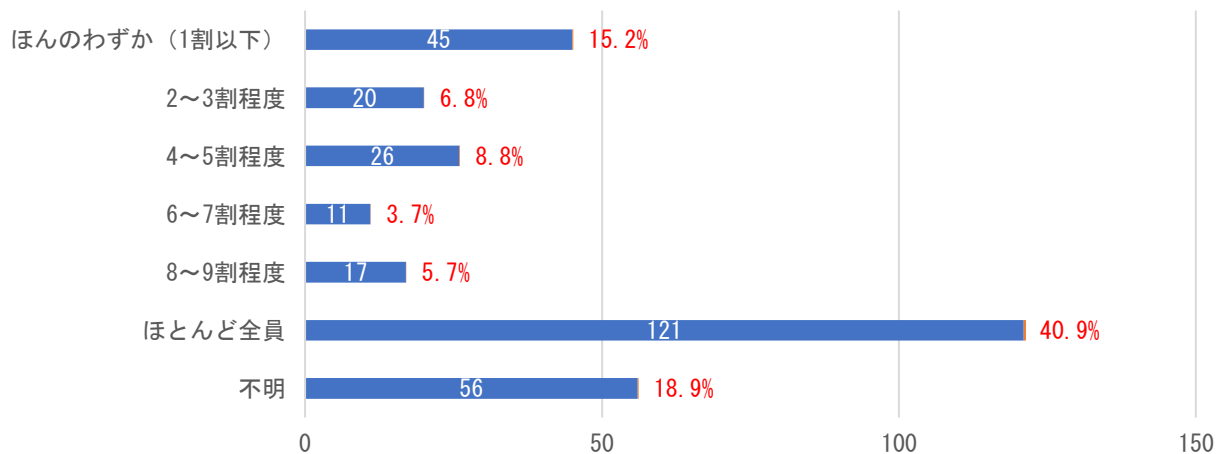


(サンプル計 : 301)

(5) 子宮頸がん検診（20歳以上）

「ほとんど全員」が40.9%で最も高くなっている。

子宮頸がん検診の正規雇用従業員受診率

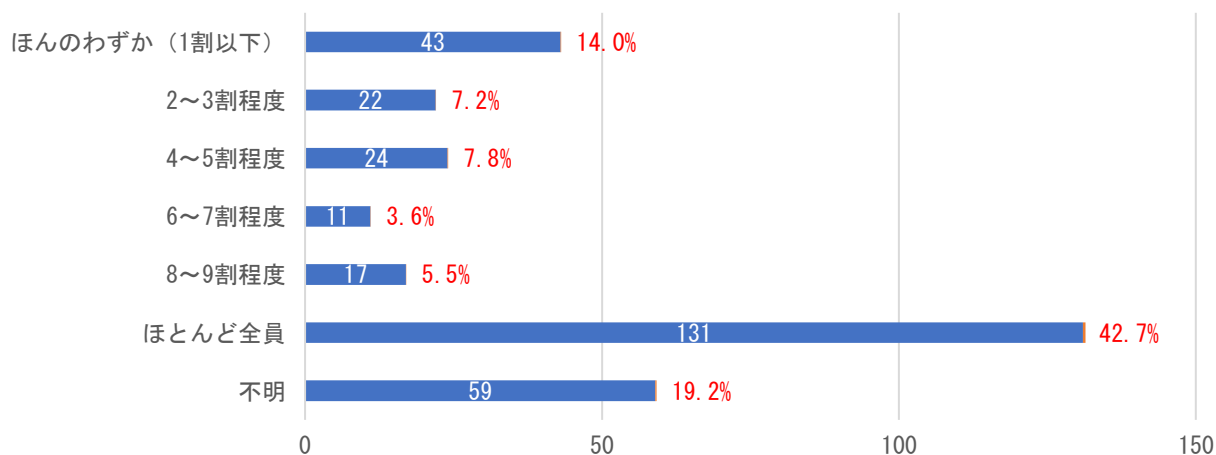


(サンプル計：296)

(6) 乳がん検診（40歳以上）

「ほとんど全員」が42.7%で最も高くなっている。

乳がん検診の正規雇用従業員受診率



(サンプル計：307)

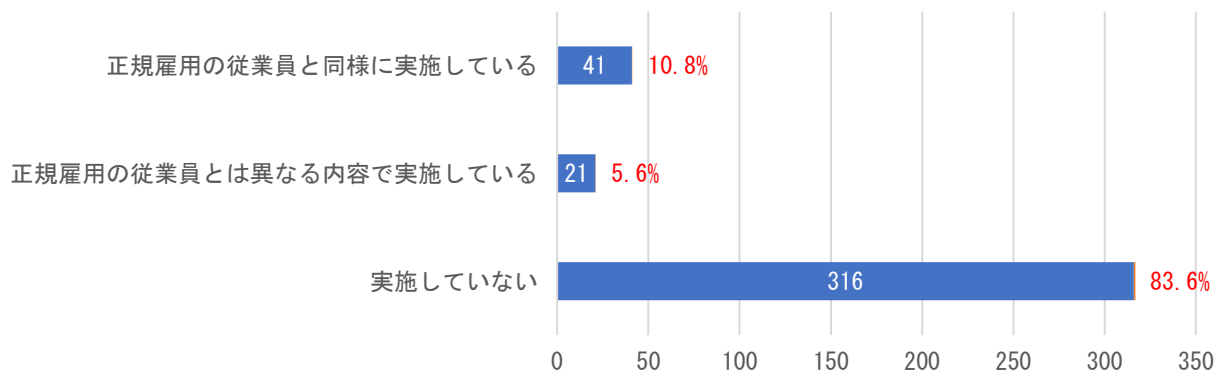
問6 正規従業員の家族及び非正規従業員のがん検診はどのように取り組んでいますか。(択一回答)

問2で「実施していない」以外を選択した回答者に、正規雇用の従業員の家族及び非正規雇用の従業員のがん検診についてどのように取り組んでいるか聞いた。

(1) 正規雇用の従業員の家族について

「実施していない」が83.6%で最も高くなっている。

正規雇用従業員の家族のがん検診について

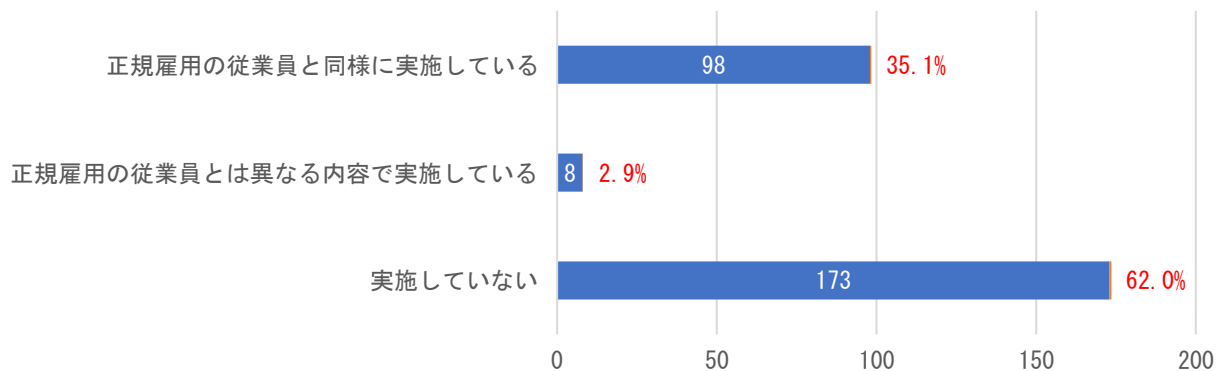


(回答数 : 378)

(2) 非正規雇用の従業員について

「実施していない」が62.0%で最も高くなっている。

非正規雇用従業員のがん検診について

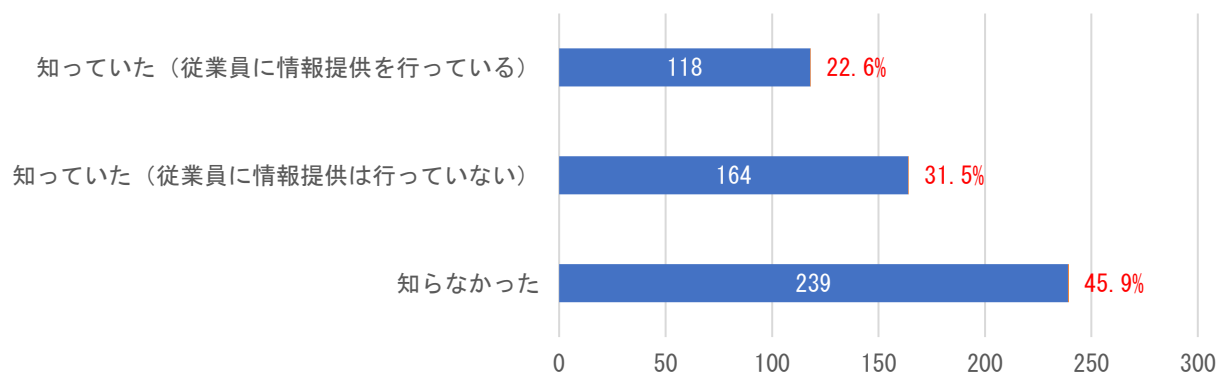


(回答数 : 279)

問7 札幌市がん検診クーポン券をご存じですか。従業員に情報提供を行っていますか。(択一回答)

がん検診クーポン券について知っているか、また従業員への情報提供を実施しているか聞いたところ、「知らなかった」が45.9%で多数となり、次いで「知っていた（従業員に情報提供は行っていない）」が31.5%となっている。

がん検診クーポン券事業の認知度



(回答数 : 521)

問8 従業員が、がんなどの病気になった時の規定・制度を導入していますか。（複数回答）

(1) 導入している制度

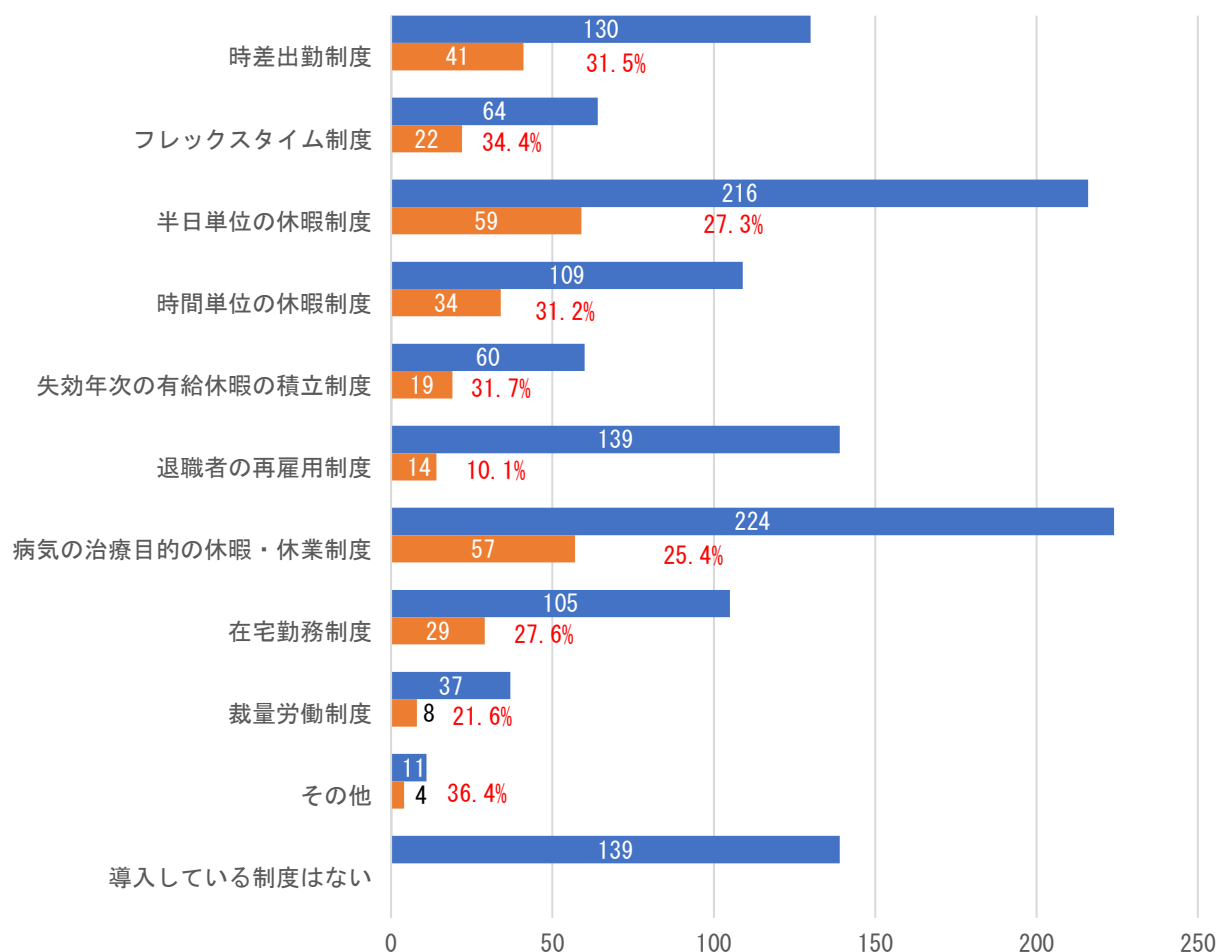
休暇等の規定・制度を導入しているか聞いたところ、「病気の治療目的の休暇・休業制度」最も高く、次いで「半日単位の休暇制度」となっている。

(2) 病気になった時に使利用できる制度

問8(1)で「導入している制度がある」と回答したものについて、病気になった時に利用できるか聞いたところ、「半日単位の休暇制度」の総数が最も高く、次いで「病気の治療目的の休暇・休業制度」となっている。

なお、下表のパーセンテージは、制度を導入している事業所のうち、病気になった時にも制度を利用できる事業所の割合である。

導入している制度（青）・病気になった時に利用できる制度（橙）（複数回答）

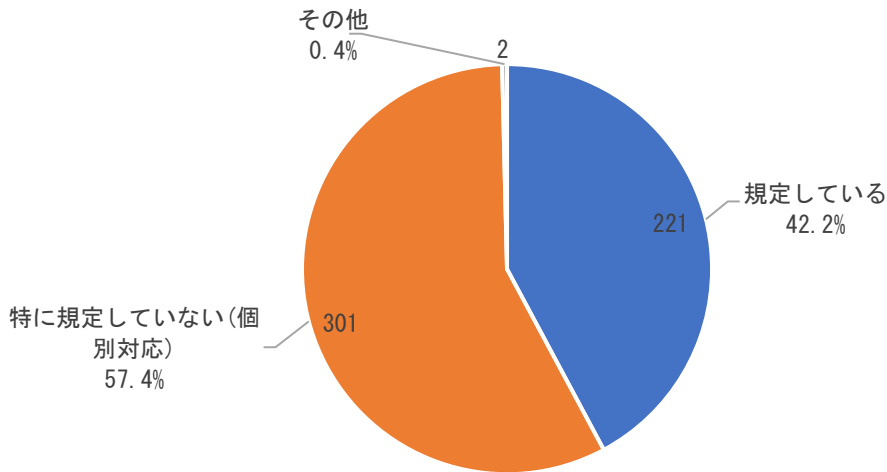


(サンプル計 : 515)

問9 従業員が病気等になった際の休暇等について就業規則等で既定していますか。（択一回答）

従業員が、病気や怪我などをした際に休暇・休職・勤務形態等を就業規則などで規定しているか聞いたところ、「特に規定していない（個別対応）」が57.4%となっている。

休暇・休職・勤務形態等の就業規則の規定

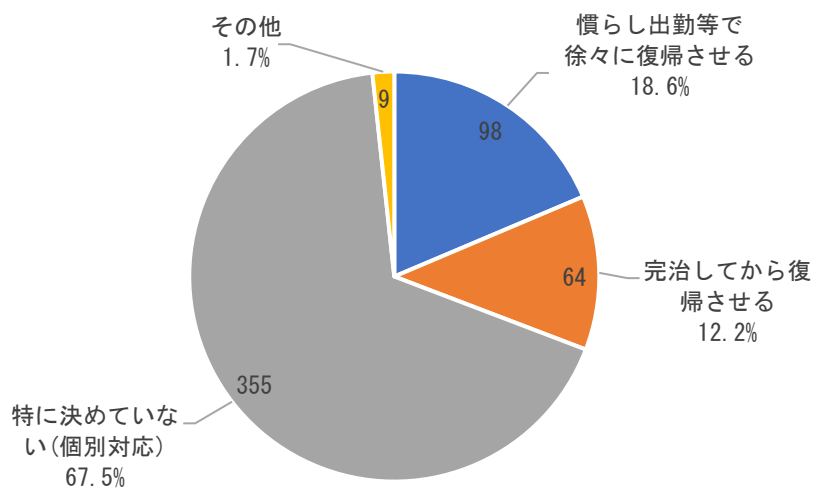


(回答数 : 524)

問10 病気や怪我で長期休職した従業員の復職に関する方針をお答えください。（択一回答）

従業員が、病気や怪我での長期休職後、復職する際の方針を聞いたところ、「特に決めていない（個別対応）」が67.5%で最も高く、次いで「慣らし出勤等で徐々に復帰させる」が18.6%となっている。

復職に関する方針

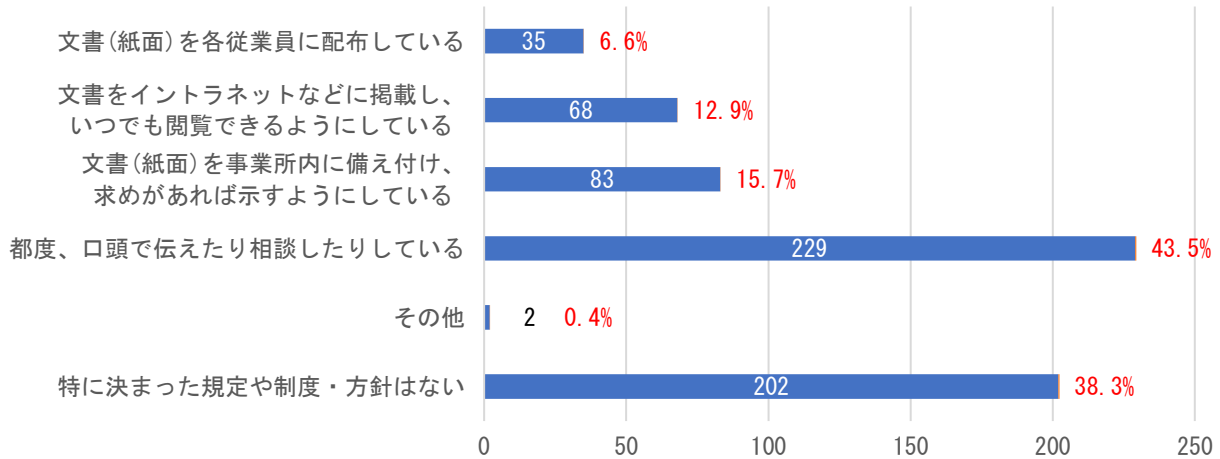


(回答数 : 526)

問 11 従業員が病気等になった際の規定等の周知をどのようにしていますか。(複数回答)

従業員が、病気や怪我での長期休職後、復職する際の規定等を従業員にどのように周知しているのか聞いたところ、「都度、口頭で伝えたり相談したりしている」が43.5%で最も高く、次いで「特に決まった規定や制度・方針はない」が38.3%となっている。

制度・方針の周知度 (複数回答)

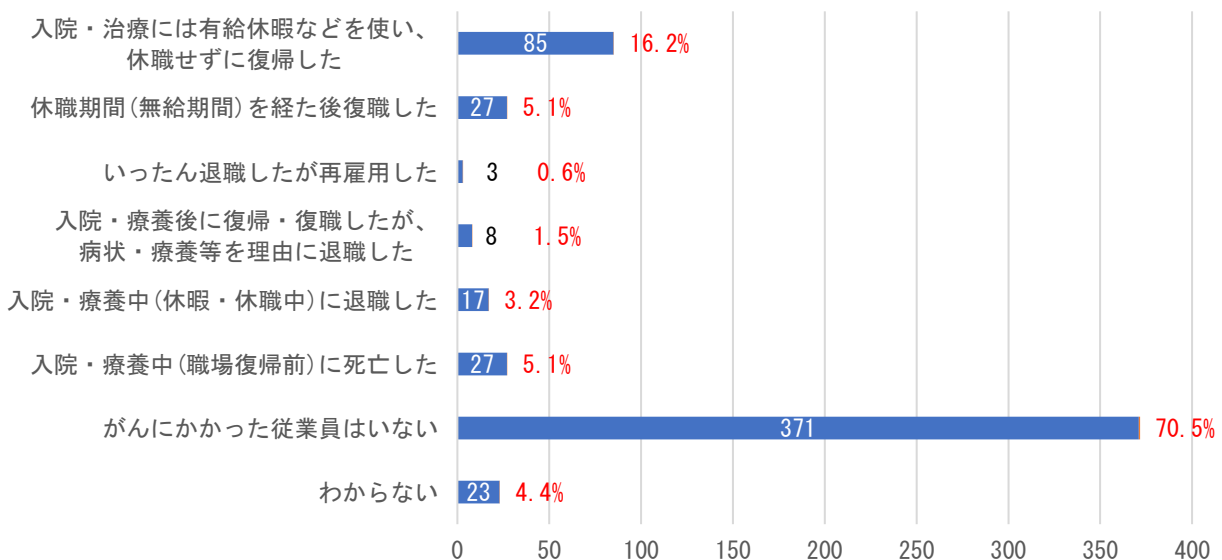


(サンプル計 : 527)

問 12 ここ3年間でがんにかかった従業員はいますか。その従業員はどうなりましたか。(複数回答)

ここ3年で従業員ががんにかかったか、かかっていた場合はどのようになったか聞いたところ、「がんにかかった従業員はいない」が70.5%で最も高く、次いで「入院・治療には有給休暇などを使い、休職せずに復帰した」の16.2%となっている。

従業員のがんの罹患状況 (複数回答)

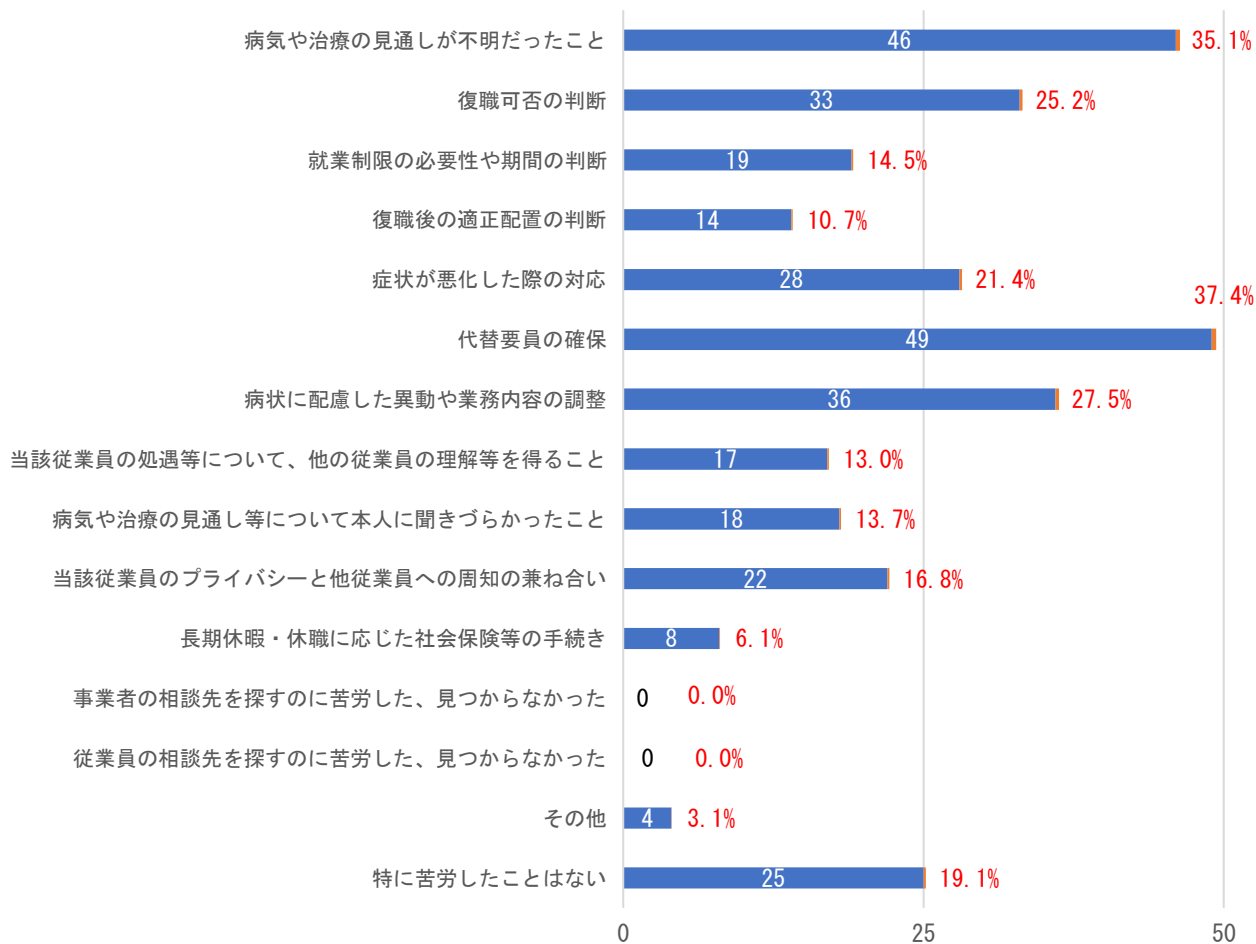


(サンプル計 : 526)

問 13 従業員ががんにかかった際、対応に苦勞することはありましたか。(複数回答)

問 12 で「がんにかかった従業員がいた」と回答したものについて、その対応で苦勞した点があったか聞いたところ、「代替要員の確保」が 37.4%で最も高く、次いで「病気や治療の見通しが不明だったこと」の 35.1%、「病状に配慮した異動や業務内容の調整」の 27.5%となっている。

がんにかかった際の苦勞した点の割合 (複数回答)

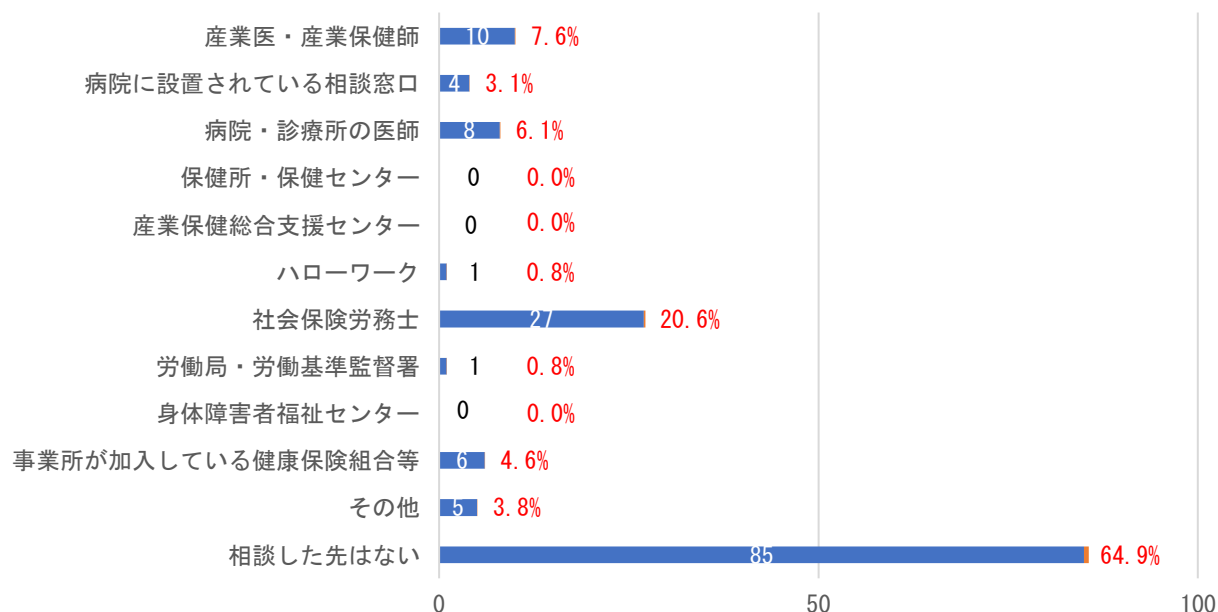


(サンプル計 : 131)

問 14 従業員のがん関連での相談先はどこですか。(複数回答)

問 12 で「がんにかかった従業員がいた」と回答したものについて、従業員のがんに関連した相談先を聞いたところ、「相談した先はない」が 64.9%で最も高く、次いで「社会保険労務士」が 20.6%となっている。

がんに関連した相談先（複数回答）

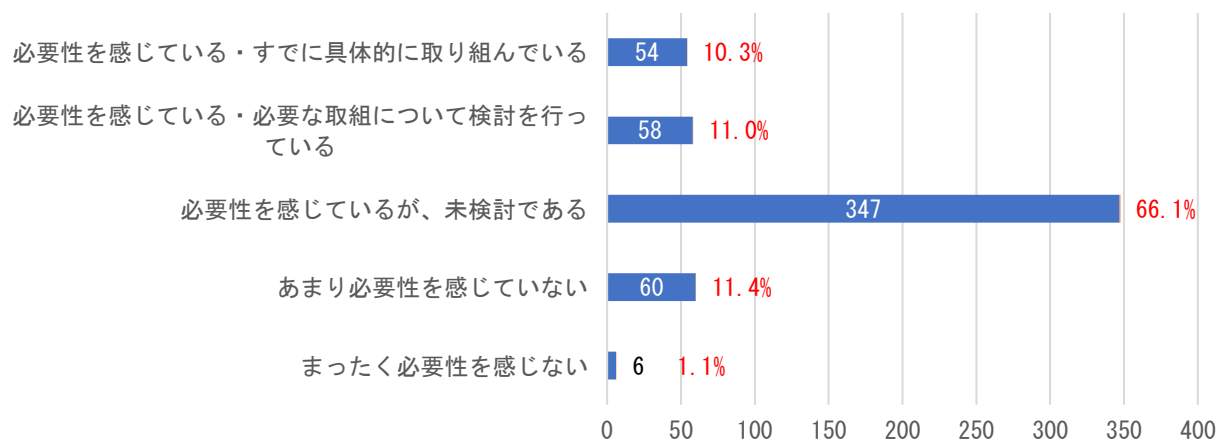


(サンプル計 : 131)

問 15 仕事と治療の両立ができる職場づくりについて、どのようにお考えですか。(択一回答)

従業員のがんをはじめ、病気や怪我をした際の仕事と治療が両立できる職場づくりについて、どのように考えているか聞いたところ、「必要性を感じているが、未検討である」が 66.1%で最も高かった。

職場づくりの現場の割合

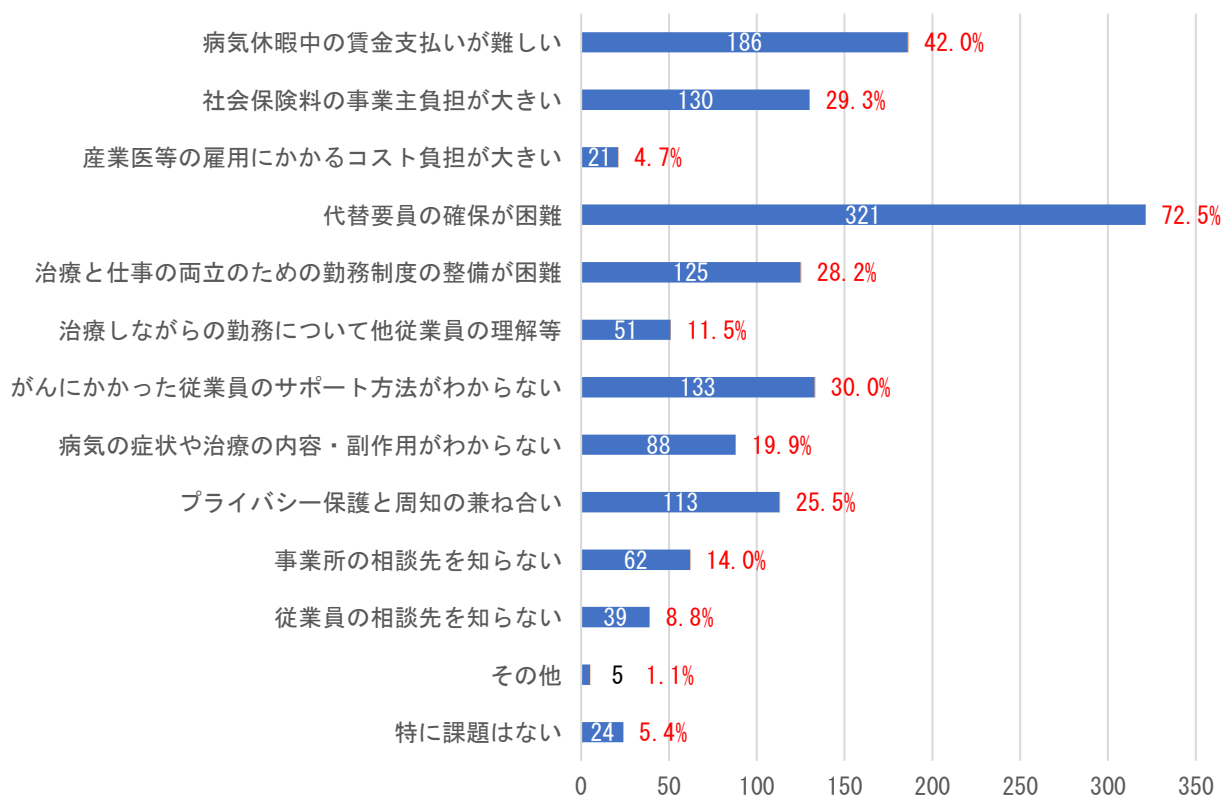


(回答数 : 525)

問 16 仕事と治療の両立ができる職場づくりを進める際の課題は。(複数回答)

問 15 で「必要性を感じている」と回答した事業者に、仕事と治療を両立ができる職場づくりを進める際の課題は何か聞いたところ、「代替要員の確保が困難なこと」が 72.5%で最も高く、次いで「病気休暇中の賃金支払いが難しいこと」が 42.0%、「がんにかかった従業員をどうサポートすれば良いのかわからないこと」が 30.0%となっている。

職場づくりの課題の割合 (複数回答)

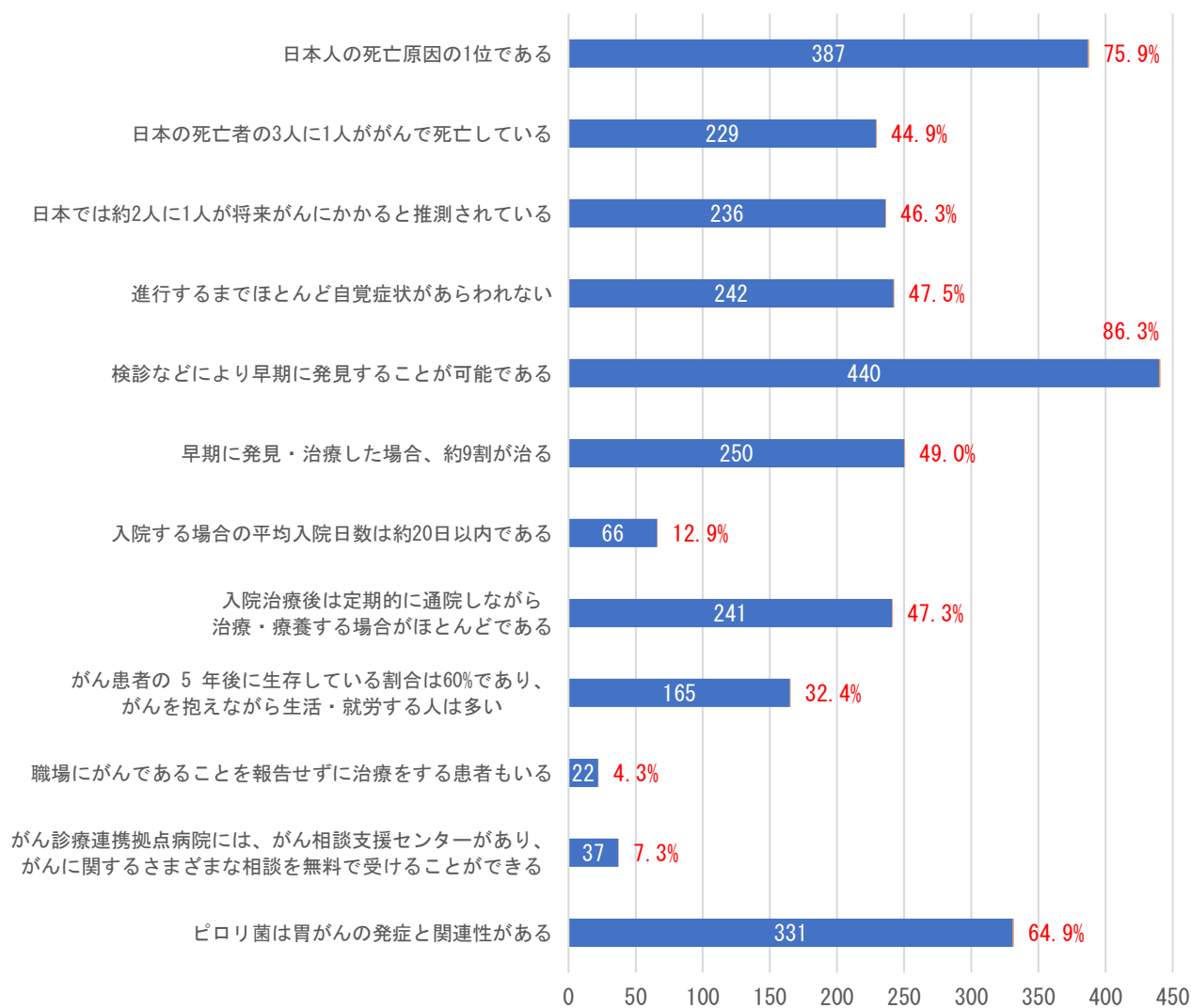


(サンプル計 : 443)

問 17 がんについて知っていることはありますか。(複数回答)

がんについて知っていることを聞いたところ、「がんは検診などにより早期に発見することが可能である」が 86.3%で最も高く、次いで「がんは日本人の死亡原因の1位である」が 75.9%、「ピロリ菌は胃がんの発症と関連性がある」が 64.9%となっている

がんについて知っていること (複数回答)

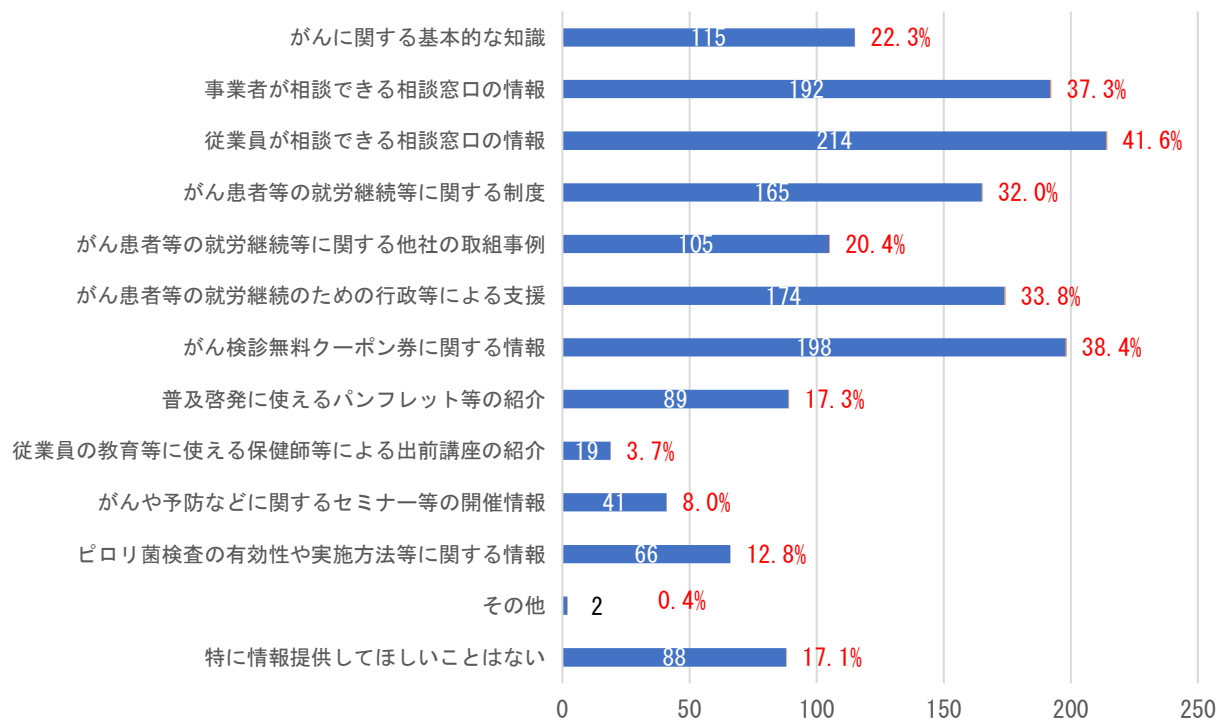


(サンプル計 : 510)

問 18 がんに関して札幌市から情報提供があれば良いと思うことはありますか。（複数回答）

がんに関して、札幌市からどんな情報を提供してほしいか聞いたところ、「従業員が相談できる相談窓口の情報」の41.6%が最も高く、「がん検診無料クーポン券に関する情報」の38.4%、「事業者が相談できる相談窓口の情報」の37.3%となっている。

札幌市から提供してほしい情報（複数回答）

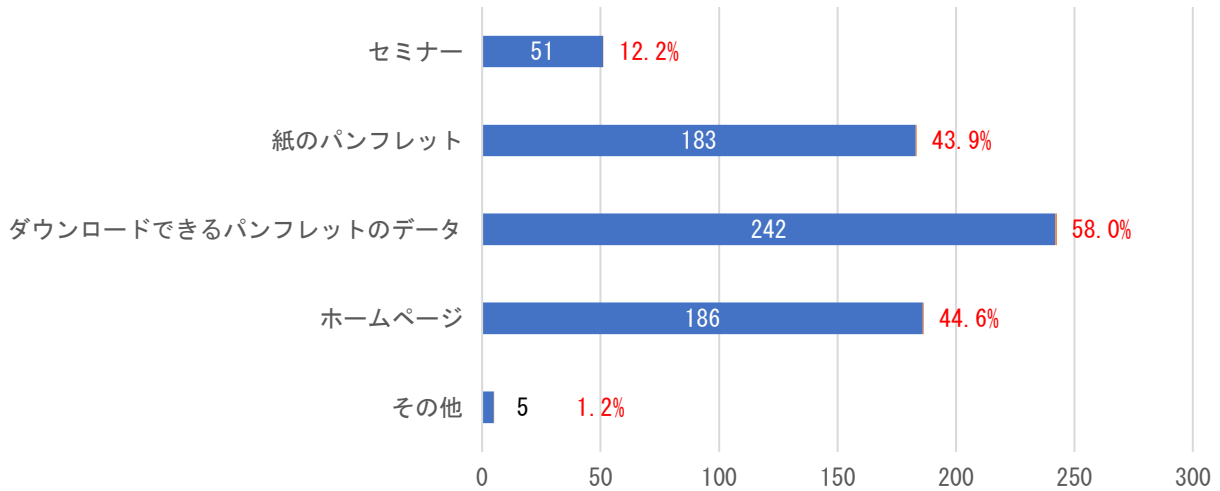


（サンプル計：515）

問 19 どのような形で情報提供があれば良いと思いますか。（複数回答）

問 18 で「特に情報提供してほしいことはない」以外を回答した事業者に、どのような形での情報提供を望むか聞いたところ、「ダウンロードできるパンフレットのデータ」が 58.0% で最も高く、次いで「ホームページ」が 44.6%、「紙のパンフレット」が 43.9% となっている。

希望する状況提供の形式の割合(複数回答)

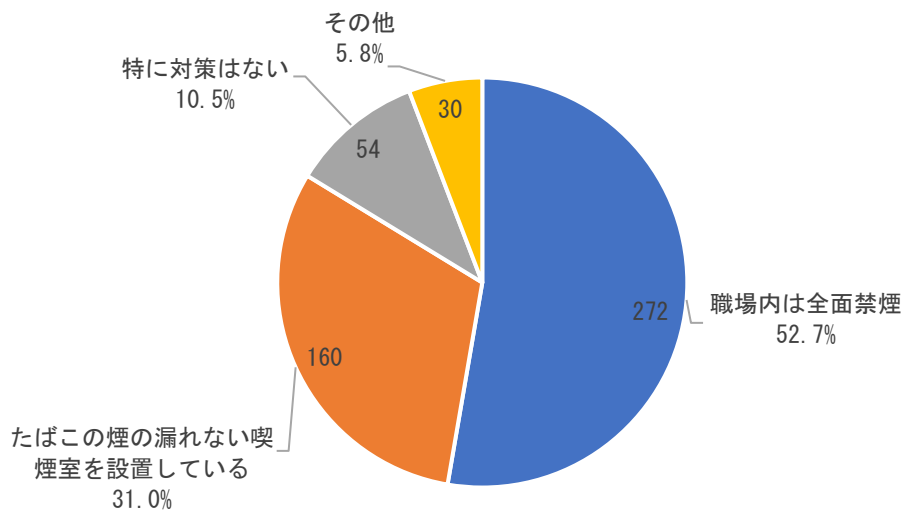


(サンプル計 : 417)

問 20 職場のたばこ対策についてお答えください。（択一回答）

職場のたばこ対策を行っているか聞いたところ、「職場内は全面禁煙」が 52.7% で最も高く、次いで「タバコの煙の漏れない喫煙室を設置している」が 31.0% となっている。

職場のたばこ対策



(回答数 : 516)

問 21 がん予防や啓発等の取組に関する意見等がございましたらお書きください。(自由記述)

がんの予防や啓発、その他の取り組みに関して、アイデアや意見を自由記述形式で聞いたところ、下記のような回答を得た。

従業員の家族でがんを発症した場合、お子さんの面倒で休職する場合も考えられると思うのですが、その際の対応なども知りたいと思いました。

もっと企業に周知できるような知らせがほしい社会保険をとおしてでもよいが、社員であったり企業側でも理解できるように。利用できる制度等も普通に生活していると知らないことが多いです。

事業主が従業員の保険加入（事業主が保険料の支払）

個人事業主です。このアンケートも複数従業員雇用の事業所、会社、職場をイメージされてるようですが、実態としては会社に所属していない or フリーランスとして働いている人（定期検診の強制がない、忙しい、お金がかかる（イメージ）生活の保障がない）などの人ががんにかかっているパターンは多いです。燃つき現象のように罹患し若年で亡くなる方は多いです。（ストレスほか）是非、フリーランスや非正規雇用の方々に届く情報提供・支援をお願いしたいです。行政で支援を行なって下さっていても、自分たちは誰からも守ってもらっていない、自衛するしかないという意識が強く、かといって時間もない…というジレンマがあります。アイデアですが、フリーランスの人が検診を受けやすくなるような優遇ソチなどあるといいかも…。確定申告と何とか連動とか何かポイントや手続きの簡略化、区役所の集団検診のイメージアップ、etc。フリーランス情報はコロナ支援金の受給者と重なっている所以で特定はある程度可能と思います

市民に必要な情報ほど市営地下鉄等に広告を掲載してほしい”健康市民活動”を行い健全な市政を創ってほしいと思います。調査結果は市ホームページ等で公表し、意識調査表を記入した会社のみが結果がわかるという調査方法は、意図を疑ってしまいます。（（オリンピックの件））市税が使用されているのですから市民には公表すべきです。

家族ががんで亡くなって治療中はじめてがんの治療方法を調査したりしました。どのような治療方法、対処できる病院、医療機関がわかれば理解できると思います。

線虫、N-NOSE 検査を行うとがん検診の費用がなくて済むと同時に大掛かりな検査を受けたくない人としては検査の量が増す。がん部分検診の前に線虫検査陽性であれば精密検査にすると受診率も上がるのではこの検査の助成があれば多くのがん発見率が上がるのでは 時代に合った検査を！！

全身のがんがわかるかもしれない「PET がん検診」の補助金制度があれば、検査もうけやすいし、検診したいという人も増えると思います。

現在労働災害保険など加入して治療費（抗剤）を補助しているが、就労条件や制限などの整備はできていない。この辺りを強化・整備をしていきたい。

問 19 のようにもっとたくさんの人や企業がわかりやすいようになれば、その先も不透明さがなくなっていくと感じました。

会社の対応策としては社員全員ががん保険を加入している費用全額会社負担としているので社員に対する一時的な補償には と思う かけ捨てで年間 35 万強損金処理出来ている。

家族などの心のケアも必要だと思う。

<p>ここ3年ほどは従業員でがんになった方はいないが、4~5年前に、30代後半で乳がんになった女性がいた。特に不摂生な生活をしている訳ではなくスポーツをしたり、体の良いもの食べたりといったごく普通の生活をしていた方。しかしがんになってからショックのあまり標準治療を拒み、医者をも2ヶ所、3ヶ所と変え結局、食事療法や民間の怪しげな治療法を独自の判断で取り入れていた。（結局、その後1年くらいで退職された）どんな治療がその人に合っているか、何が正しいのかは分からないが、標準治療についての知識や怪しい治療法についての情報など広く市民に知らせていくような機会（教育？）が必要なのではないかと思う。</p>
<p>将来、がん患者が2人に1人になるなら、検診を強化すべきだと思います。健康診断の必須項目に入れてほしい。オプションで付けると、高い為ほとんどの人がしない。</p>
<p>禁煙。小さな会社では社長とかお客が来ると吸わせている。やめてほしいってポスターとかもっと宣伝してほしい。法律で決めてほしい</p>
<p>ご主人がガンを患った時に奥様と相談するための行政からのアドバイスや相談可能な環境設備</p>
<p>当グループ内では禁煙コンテストを実施しています</p>
<p>15、16年前はガンになった従業員もいました、毎年行っている健診により発覚しましたタバコが原因でしたやはり、常日頃健康を意識した生活を送れるかだと思います年1回の健診もより重要だと思います。</p>
<p>特にありませんが、がんやその他の病気になっても安心して働ける社会になればいいなと思います。</p>
<p>明るく、前向きな生活を送る。</p>
<p>・食事に気をつける・規則正しい生活を送る・再発する可能性があるか冷静を保つ・家族に迷惑をかけず自立を心がける・1ヶ所の病院で発見できず、セカンドオピニオンを受けるとよかったと反省している。</p>
<p>女性だけでなく、男性にも無料で受診出来る制度（強制できればいいのでは）</p>
<p>ストレスを解消するための情報 簡単、安いバランスの良い食事の啓発セミナー</p>
<p>◎1. 非喫煙 2. 節酒 3. 塩分控えめ 4. 運動習慣 5. 適正 BMI 5つの健康習慣これしかない！◎気負わず時々心掛ける習慣を持つ事が大事だと思います。</p>
<p>個人事業主。この調査票で回答した従業員1名は自分のことでありそもそも誰も雇用していない。男性なので乳がんなどは検診していない。それでも何かに使えるデータとなるかもと最後まで記入しました。</p>
<p>協会けんぽの生活習慣病予防検診の案内を受け、助成される範囲内で、事業所負担にて健康保険加入者かつ本人希望者のみ受診しているのが現状です。小規模事業者、本人どちらが負担するにしてもがん検診、人間ドックやその他健康診断費用の負担は大きいため、毎年検診を受けたくても費用面で断念する人も多いのではと思います。検診受診率UP→早期発見につなげるには道や市による助成の強化が必要と感じます。</p>
<p>健康診断のように、がん検診必ずしなければならないようにすればいいと思います。</p>
<p>検診や入院治療のために休みをとりやすい職場にすることが第一</p>

<p>がん治療と仕事の両立について他者の取り組み具体例について知りたい。各がんの初期症状についてお医者さんのわかりやすい説明の冊子があれば従業員に観覧させたい。</p>
<p>札幌市で希望する人に癌健診の無料クーポンを全員いただけたら、がん検診受ける人が増えていいかと思いました。</p>
<p>若い方にこそ乳がん、子宮がんのクーポンの配布をしていただきたい。職場でも費用が高いから受けたくないという声がありました。がん検診での免税やクーポンを検討してほしい</p>
<p>この様なアンケートは無意味と感じた。自分の身内にガン患者がいる、家族や職場は十分に理解がありそっとしてくれる。セミナー、パンフレットなど必要な方々が求めれば良いし、すでにガン患者をかかえる者には不要。そっとしておいてほしい、ガン以外にも病気を抱えながら働いてる人は沢山ののにガンだけを取り上げるのは病気（病人）の差別とも感じた</p>
<p>個人的にがん検診は自主的に受けに行かなくてはいけないので各企業ごとの定期健康診断にがん検診を項目の1つとして追加させるのがガン発生の予防になると思います</p>
<p>がんのことばかりでありがたいですが他の病気のことも考えてはいかがでしょうか！当社はほとんど病気がありませんので国、市から表彰されても良いと思います。病気、怪我された方に保険料が使われているのですから！</p>
<p>各種がんの自覚症状について、お医者さんの説明する具体的な症例の冊子など、従業員に回覧できるものがあると良いです。</p>
<p>一定期間の間隔で精密な癌検査を受けるための費用の助成制度</p>
<p>早期発見に役立つマーカー検査助成金制度</p>
<p>札幌市には期待していない。</p>
<p>がんサバイバーによる「（職場に）こうしてほしかった、こうしてくれて助かった」事例集の制作・発行</p>
<p>クーポンの配布を増やしてほしい</p>
<p>当社では、保険会社の保険に全員入っており、3大疾病時には一時金の見舞金として従業員に渡し、早期復帰をサポートする体制を立てましたが、実際に発生してみないと個々それぞれのケースがあると思いますので、その時その時の対応が必要になってくると思います</p>
<p>企業がとるべき対応・求めるサービスと、一般市民として求めるサービスのあり方は異なるので、自治体には企業の応援または一般市民（企業で働くものは除く）への応援をお願いしたい</p>
<p>従業員側だけではなく経営者・雇用者側にももっと取り組みを広めるべき</p>

3 資料

(1) 市民向け意識調査	155
(2) 事業所向け意識調査	171

★アンケート協力のお願い★ 札幌市のがんに対する市民意識調査

この調査は、札幌市にお住まいの40歳～74歳の男性、20歳～74歳の女性計5,000人を無作為抽出により選定して、協力をお願いするものです。

札幌市では、平成29年度から令和5年度までを計画期間として、「札幌市がん対策推進プラン」を策定し、市民一人ひとりが、がんに関する正しい知識を身につけ、がん予防、早期発見・早期治療に取り組むとともに、がん患者やその家族等への支援を含めたがん対策を、市民・地域・関係機関と連携して取り組むことにより、がんになっても安心して暮らすことのできるまちづくりを進めてまいりました。

令和5年度に当該プランの計画期間が満了することから、当該プランの評価及び次期札幌市がん対策推進プラン策定の基礎資料とするため、この度、市民のがん、その検診及び治療に関する意識について調査を行うことといたしました。

ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、是非ご協力くださいますようお願い申し上げます。本調査に関してご不明な点がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

令和4年9月5日

札幌市保健福祉局保健所健康企画課

ご記入にあたってのお願い

- 1 調査票にお名前をご記入いただく必要はありません。
- 2 調査票の記入は、原則封筒のあて名のご本人が行ってください。もしご自身でご記入できない場合は、代理の方がご記入いただいても構いません。
- 3 この調査は、封筒のあて名のご本人の普段の考え方、平均的な生活習慣についてお答えください。
- 4 ご回答は、質問文に記載している回答数（1つだけ選択、いくつでも）に注意して、選択肢の□にチェック（☑）を記入するか、回答欄のあてはまる番号を○で囲んでください。ご回答が「その他」の場合は、（ ）内に具体的にご記入ください。
- 5 回答する方が限定される質問があります。質問文上の表示をよく読んでお答えください。
- 6 回答票は、令和4年（2022年）9月30日（金）までに同封の返信用封筒にてご返送願います。答えに漏れがないか最後にご確認の上、ご返送ください。また、回答できない質問がありましたら、空欄で構いませんので、そのままご返送ください。
- 7 なお、このアンケートは、下記ウェブページ（ウェブフォーム）にてご回答いただくことも可能です。

<https://forms.gle/3uYY4r8df7fZR5qk7>、

または下の2次元コードに、PC、スマートフォンからアクセスしてください。なお、ウェブページでのご回答は、本調査の入力・集計を委託しております（株）パイロンに直接送付されます。

【本調査に関する問い合わせ】

担当者：札幌市保健所健康企画課健康対策係
〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目
TEL: 011-622-5151 FAX 011-622-7221
E-mail: gantaisaku-tantou@city.sapporo.jp

【本調査に係る事業受託者】

株式会社 パイロン
〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目
5岩佐ビル3階
TEL: 011-252-9388



この調査票は両面印刷になっています
次のページ（裏面）からアンケートが始まります

問1 あなたのがんに関するご認識についてお答えください。

(1) がんにかかることが怖いと思いますか（1つだけ選択）。

- | | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> とても怖い | <input type="checkbox"/> どちらかと言えば怖い | <input type="checkbox"/> どちらかと言えば怖くない |
| <input type="checkbox"/> 怖くない | <input type="checkbox"/> どちらとも言えない | <input type="checkbox"/> わからない |

(2) (1)で「とても怖い」、「どちらかと言えば怖い」と回答した方におたずねします。がんが怖い理由をお答えください（いくつでも）。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 死亡する可能性が大きいから | <input type="checkbox"/> がんや治療の過程で体のつらさがあるから |
| <input type="checkbox"/> 後遺症が残るから | <input type="checkbox"/> 治っても再発・転移の可能性があるのであるから |
| <input type="checkbox"/> 治療の過程などで頭髪が抜けたり外見が変わってしまったりすることがあるから | |
| <input type="checkbox"/> 治療費が高額になるから | <input type="checkbox"/> 家族に大きな負担をかけることになるから |
| <input type="checkbox"/> 仕事を長期間休んだり、辞めたりしなければならないから | |
| <input type="checkbox"/> がんに対する知識はないけれども漠然と怖いイメージがあるから | |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |

(3) がんについて次のことを知っていましたか。知っていたことをお答えください（いくつでも）。

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> がんは日本人の死亡原因の1位である |
| <input type="checkbox"/> 日本の死亡者の3人に1人はがんで死亡している |
| <input type="checkbox"/> 日本ではおおよそ2人に1人が将来がんにかかるかと推測されている |
| <input type="checkbox"/> 多くのがんは進行するまでにほとんど自覚症状があらわれない |
| <input type="checkbox"/> がんは検診などにより早期に発見することが可能である |
| <input type="checkbox"/> がんは早期に発見・治療した場合、約9割が完治する |
| <input type="checkbox"/> 現在、がんで入院する場合の平均入院日数は、おおよそ20日以内である |
| <input type="checkbox"/> がんは、入院治療後は定期的に通院しながら治療・療養する場合がほとんどである |
| <input type="checkbox"/> (がんに限らず) 治療の支払額が一定額を超えると超過分が支給される高額療養費制度がある |
| <input type="checkbox"/> 喫煙はさまざまながんの原因となる |
| <input type="checkbox"/> 受動喫煙(他人が吸うたばこの煙を吸うこと)もさまざまながんの原因となる |
| <input type="checkbox"/> 過度の飲酒はさまざまながんの原因となる |
| <input type="checkbox"/> 肥満は特に閉経後の女性にとって乳がんの原因となる |
| <input type="checkbox"/> B型肝炎ウイルス(HBV)、C型肝炎ウイルス(HCV)への感染は肝臓がんの原因となる |
| <input type="checkbox"/> ピロリ菌への感染は胃がんの原因となる |
| <input type="checkbox"/> ヒトパピローマウイルス(HPV)への感染は、子宮頸がんの原因となる |

問2 あなたの喫煙・飲酒の状況についてお答えください。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 日常的に喫煙している | <input type="checkbox"/> 日常的に喫煙してないが、たまに吸う |
| <input type="checkbox"/> 喫煙していたが、今は吸っていない | <input type="checkbox"/> 喫煙したことがない |

(2) (1)で「喫煙したことがない」以外と回答した方におたずねします。あなたは、どのようなことがたばこをやめるきっかけになる（きっかけになった）と思いますか（いくつでも）。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 自分の健康のため | <input type="checkbox"/> 家族や友人に禁煙を勧められた |
| <input type="checkbox"/> お金を節約しようと思ったため | <input type="checkbox"/> パンフレットや手引きを見た |
| <input type="checkbox"/> 定期健診時に医師から指導があった | |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |

(3) (1)で「日常的に喫煙している」又は「日常的に喫煙してないが、たまに吸う」と回答した方におたずねします。受動喫煙（他人の吸うたばこの煙を吸うこと）について気を付けていることは何ですか（いくつでも）。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 子供や妊婦の近くでの喫煙をしない | <input type="checkbox"/> 空気清浄機を使用する |
| <input type="checkbox"/> 喫煙に同意している以外の人々の近くでの喫煙をしない | <input type="checkbox"/> 歩きたばこをしない |
| <input type="checkbox"/> 身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する | |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |
| <input type="checkbox"/> 受動喫煙に気を付けていることはない | |

(4) (1)で「喫煙していたが、今は吸っていない」又は「喫煙したことがない」と回答した方におたずねします。受動喫煙（他人の吸うたばこの煙を吸うこと）について気を付けていることは何ですか（いくつでも）。

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 喫煙している人に近づかない | <input type="checkbox"/> 副流煙対策グッズ（手持ちの空気清浄機など）を使用する |
| <input type="checkbox"/> 身近な人が禁煙するときには、禁煙が継続できるよう協力する | |
| <input type="checkbox"/> その他（ | ） |
| <input type="checkbox"/> 受動喫煙に気を付けていることはない | |

(5) あなたは週1回以上お酒を飲む習慣はありますか（1つだけ選択）。

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> ある | <input type="checkbox"/> ない |
|-----------------------------|-----------------------------|

(4) 下記のがん検診の受診状況についてお答えください（どれか1つでも、「1」～「3」と答えた方は問(5)に、「4」、「5」と答えた方は問(7)にお進みください）。

	受診した 1年以内に	受診した 2年以内に	ここ2年間は受けていない	受診したことはあるが、	受診したことはない	覚えていない・不明	受診したかどうか
【40歳以上の男女が回答】 肺がん検診（胸部レントゲン・喀痰検査等）	1	2	3	4	5		
【40歳以上の男女が回答】 大腸がん検診（便潜血反応検査（検便）等）	1	2	3	4	5		
【50歳以上の男女が回答】 胃がん検診（バリウム検査・内視鏡検査等）	1	2	3	4	5		
【20歳以上の女性が回答】 子宮（頸）がん検診（細胞診検査等）	1	2	3	4	5		
【40歳以上の女性が回答】 乳がん検診（マンモグラフィ撮影、エコー検査等）	1	2	3	4	5		

(5) (4)で、「1」～「3」を回答した方におたずねします。受診した検診はどこが実施した検診かお答えください（いくつでも）。

	市区町村が実施した検診	勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施した検診	どこが実施したかわからない	その他
【40歳以上の男女が回答】 肺がん検診（胸部レントゲン・喀痰検査等）	1	2	3	4 ()
【40歳以上の男女が回答】 大腸がん検診（便潜血反応検査（検便）等）	1	2	3	4 ()
【50歳以上の男女が回答】 胃がん検診（バリウム検査・内視鏡検査等）	1	2	3	4 ()
【20歳以上の女性が回答】 子宮（頸）がん検診（細胞診検査等）	1	2	3	4 ()
【40歳以上の女性が回答】 乳がん検診（マンモグラフィ撮影、エコー検査等）	1	2	3	4 ()

(6) (4)で「1」～「3」と答えた方におたずねします。検診・検査を受診した理由・きっかけについて、あなたに該当する項目を選択してください（いくつでも）。

	定期的な受ける健康診断の検査項目に入っていたから（自分で選んだわけではない）	定期的に受ける健康診断のオプション検査としてあったから（自分で選んで受診）	毎年受けているから・受けていたから	札幌市からがん検診の無料クーポンが送られてきたから	年齢的にそろそろ検診が必要だと思ったから	健康面で不安があったから・自覚症状があったから	身近な人や知人ががんにかかったから	医師に勧められたから	勤め先に勧められたから	家族や友人・知人に勧められたから	パンフレットやポスターなどを見て	以前からがんは早期発見が大切だと知っていたから	がんに関するマスコミ報道・記事を見て	がんの早期発見や検診に関する啓発イベントに触れて	その他（ ）
【40歳以上の男女が回答】 肺がん検診（胸部レントゲン・喀痰検査等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
【40歳以上の男女が回答】 大腸がん検診（便潜血反応検査（検便）等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
【50歳以上の男女が回答】 胃がん検診（バリウム検査・内視鏡検査等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
【20歳以上の女性が回答】 子宮（頸）がん検診（細胞診検査等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
【40歳以上の女性が回答】 乳がん検診（マンモグラフィ撮影、エコー検査等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

(7) (4)で、「4」又は「5」と回答した方におたずねします。検診・検査を受診しない理由について、あなたに該当する項目をそれぞれ下の枠内から数字を選択してください（いくつでも）。

	定期的 に受ける 健康診断 の検査項目 に入ってい なかつた	検診・検査 の案内がな かつたから	年齢的に まだ必要 ないと思 つたから	健康状態 に自信が あり自分 には必要 ないと思 つていた から	心配なと きはいつ でも医療 機関を受 診できる から	健康診断 や検診・ 検査を受 けるのが 面倒だつ たから	健康診断 や検診・ 検査を受 けるのが 面倒だつ たから	検診に費 用がかか るから	検便など の提出を 忘れてし まつたか ら	検査内容 が怖い・ 不快だか ら	がんが見 つかると のが怖い から	検診・検 査の申込 方法を 知らなかつ たから	検診・検 査がある ことを 知らなかつ たから	検診・検 査を受け られる場 所・方法 がわから ないから	検診を受 けたくな いから	その他 ()
【40歳以上の男女が回答】 肺がん検診（胸部レントゲン・喀痰検査等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
【40歳以上の男女が回答】 大腸がん検診（便潜血反応検査・検便）等	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
【50歳以上の男女が回答】 胃がん検診（バリウム検査・内視鏡検査等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
【20歳以上の女性が回答】 子宮（頸）がん検診（細胞診検査等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
【40歳以上の女性が回答】 乳がん検診（マンモグラフィ撮影、エコー検査等）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16

(8) 定期的を受診するがん検診は、疾病ではないことから健康保険の適用外ですが、がん検診の受診について、どのようにお考えかお答えください（1つだけ選択）。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 全額自己負担でも受診したい・受診している | <input type="checkbox"/> 費用助成があれば受診したい |
| <input type="checkbox"/> 無料であれば受診したい | <input type="checkbox"/> あまり受診したくない <input type="checkbox"/> 受診しない |

(9) 札幌市では、「がん検診無料クーポン事業」として、特定の年齢でがん検診の費用が無料になる以下のクーポン券をご自宅に送付する事業を行っています。これらのクーポン券を使用したことがあるか、又は知っているかについてお答えください（各がん検診について1つだけ選択）。

【子宮頸がん検診無料クーポン券（女性のみ回答）】

- 無料クーポン券を使用したことがある
- 無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた
- 無料クーポン券があることを知らなかった

【乳がん検診無料クーポン券（女性のみ回答）】

- 無料クーポン券を使用したことがある
- 無料クーポン券を使用したことはないが、あることは知っていた
- 無料クーポン券があることを知らなかった

(10) がん検診の受診を勧める情報を見聞きした経験についてお答えください（1つだけ選択）。

- ある
- ない

(11) (10)で「ある」と回答した方におたずねします。がん検診の受診を勧める情報を見聞きした媒体は何かお答えください（いくつでも）。

- 検診案内のはがき
- 札幌市の公式ホームページ
- 広報さっぽろ
- 公共施設のポスター（駅・電車・役所等）
- がん検診に関するイベント
- 医療機関・薬局
- インターネット（札幌市の公式ホームページ以外）
- 新聞・雑誌
- テレビ・ラジオ
- その他（)

問5 要精密検査となっている場合の精密検査受診についてお答えください。

(1) がん検診にて結果が「要精密検査」となっている場合、精密検査を受けますか（1つだけ選択）。

- 受ける
- 受けない

(2) (1)で「受けない」と回答した方におたずねします。精密検査を受けない理由をお答えください（いくつでも）。

- 検査の結果を受け入れたくない
- 内視鏡や注射など身体への負担が不安
- 経済的な負担を懸念している
- 検査の時間が取れない
- その他（)

問6 ピロリ菌※ 検査・ピロリ菌除去に関するご意向についてお答えください。

※ 胃の中に生息する胃がんや胃炎、胃潰瘍等の原因菌。この菌を除去すれば、胃の疾病にかかる可能性が大幅に下がることが確実であるとされている。

(1) ピロリ菌の有無を調べる検査を受診したいかお答えください（1つだけ選択）。

- 追加の費用がかかっても受診したい・受診している
- 追加の費用がかからなければ受診したい
- できればあまり受診したくない
- 受診はしたくない

(2) ピロリ菌検査の結果、陽性であればピロリ菌を除去する治療を受けたいかお答えください。なお、ピロリ菌の除去は、服薬によるものが一般的です（1つだけ選択）。

- 健康保険の適用外であっても治療したい
- 健康保険の適用内であれば治療したい
- できればあまり治療を受けたくない
- 治療はしたくない

(3) ご家族、ご友人などの方にピロリ菌の検査・除去を勧めたいかお答えください（1つだけ選択）。

- 健康保険の適用外であっても、検査・除去を勧めたい
- 補助があったり、健康保険の適用内であったりすれば、検査・除去を勧めたい
- 検査・除去を勧めたいとは思わない

問7 がんに関する情報の入手について、お答えください。

(1) がんやがんの予防に関する情報を何から得ているかお答えください（いくつでも）。

<input type="checkbox"/> 保健所・保健センター
<input type="checkbox"/> 「広報さっぽろ」や、札幌市などの行政機関が発行するパンフレット
<input type="checkbox"/> 医療機関などにある相談窓口
<input type="checkbox"/> 医師・看護師など医療関係者
<input type="checkbox"/> 薬局・薬剤師
<input type="checkbox"/> ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者
<input type="checkbox"/> 医療機関・介護施設・薬局などに設置されているパンフレット
<input type="checkbox"/> 家族・友人・知人（上記以外）
<input type="checkbox"/> インターネット上の医療等に関する特定のウェブサイト（具体的に： _____）
<input type="checkbox"/> インターネットで都度情報を検索する
<input type="checkbox"/> 雑誌・専門誌・単行本などの出版物
<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ・新聞などのマスメディア
<input type="checkbox"/> その他（ _____）
<input type="checkbox"/> 特に情報は得ていない

(2) がんに関して、どのような情報が知りたいかお答えください（いくつでも）。

<input type="checkbox"/> がんの予防方法
<input type="checkbox"/> がん検診の種類や受診方法
<input type="checkbox"/> がん検診無料クーポンの入手条件・使い方
<input type="checkbox"/> がんに関する相談窓口
<input type="checkbox"/> がんの治療方法
<input type="checkbox"/> がんの治療にかかる費用
<input type="checkbox"/> がん治療の副作用・副作用への対処法
<input type="checkbox"/> がんにかかっても働き続けるための方法
<input type="checkbox"/> がん治療の体験記
<input type="checkbox"/> 自宅療養の方法
<input type="checkbox"/> セカンドオピニオンの受け方
<input type="checkbox"/> その他（ _____）
<input type="checkbox"/> 特に知りたい情報はない

問8 がんに関する相談先についてお答えください。

(1) あなたやあなたの家族のことで、がんやがんの恐れ、予防や治療方法等について誰かに相談したことがあるかお答えください（いくつでも）。

<input type="checkbox"/> 医師・看護師などの医療関係者	
<input type="checkbox"/> 医療機関などにある相談窓口	
<input type="checkbox"/> ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	
<input type="checkbox"/> 薬局・薬剤師	
<input type="checkbox"/> 家族・友人・知人（上記以外）	
<input type="checkbox"/> 保健所・保健センター	
<input type="checkbox"/> インターネットで相談（具体的なサイト名をご記入ください： _____）	
<input type="checkbox"/> その他（具体的に誰かをご記入ください： _____）	
<input type="checkbox"/> 誰にも相談していない	
<input type="checkbox"/> 相談しようと思った事がない	

(2) あなたやあなたの家族について、がんやがんの恐れ、予防や治療方法等について今後誰に相談したいかお答えください（いくつでも）。

<input type="checkbox"/> 医師・看護師などの医療関係者	
<input type="checkbox"/> 医療機関などにある相談窓口	
<input type="checkbox"/> ケアマネージャー・ヘルパーなどの介護関係者	
<input type="checkbox"/> 薬局・薬剤師	
<input type="checkbox"/> 家族・友人・知人（上記以外）	
<input type="checkbox"/> 保健所・保健センター	
<input type="checkbox"/> インターネットで相談（具体的にどこかご記入ください： _____）	
<input type="checkbox"/> その他（具体的に誰かご記入ください： _____）	
<input type="checkbox"/> 誰にも相談しようと思わない	
<input type="checkbox"/> わからない	

(3) 「がん相談支援センター」※についてご存じかお答えください（1つだけ選択）。

※ 「がん診療連携拠点病院」に指定されている病院に設置されている相談窓口。がんのことであれば、がん患者・家族に限らず、どなたでも無料で相談可能。

<input type="checkbox"/> 知っていて、利用したことがある
<input type="checkbox"/> 名前だけでなく内容も知っていたが、利用したことはない
<input type="checkbox"/> 名前だけは知っていたが利用したことはない
<input type="checkbox"/> 知らなかった

問9 がん入院治療後の療養についてお答えください。

(1) ご自身ががんにかった場合、どこで療養したいと思うかお答えください（1つだけ選択）。

<input type="checkbox"/> 自宅	<input type="checkbox"/> 大きな総合病院	<input type="checkbox"/> 近隣の病院・診療所
<input type="checkbox"/> 友人家族がすすめる病院	<input type="checkbox"/> かかりつけの病院	<input type="checkbox"/> 介護施設
<input type="checkbox"/> その他（		）

(2) 自身ががんを自宅で療養する場合、不安に思うことがあるかお答えください（いくつでも）。

<input type="checkbox"/> 何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	
<input type="checkbox"/> 同居する家族に負担をかけてしまうこと	
<input type="checkbox"/> 自宅での生活について何に気をつけたらよいかわからないこと	
<input type="checkbox"/> 誰に相談したらよいかわからないこと	
<input type="checkbox"/> 自宅療養にかかる費用	
<input type="checkbox"/> 一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	
<input type="checkbox"/> 家事ができなくなること	
<input type="checkbox"/> その他（	）
<input type="checkbox"/> 特に不安に思うことはない	

(3) 同居する家族ががんにかった場合、どこで療養させたいかお答えください（1つだけ選択）。

<input type="checkbox"/> 自宅	<input type="checkbox"/> 大きな総合病院	<input type="checkbox"/> 近隣の病院・診療所
<input type="checkbox"/> 友人家族がすすめる病院	<input type="checkbox"/> かかりつけの病院	<input type="checkbox"/> 介護施設
<input type="checkbox"/> その他（		）

(4) 家族ががんを自宅で療養する場合、不安に思うことがあるかお答えください（いくつでも）。

<input type="checkbox"/> 何かあったときに医師にすぐに診てもらえないこと	
<input type="checkbox"/> 同居する家族に負担をかけてしまうこと	
<input type="checkbox"/> 自宅での生活について何に気をつけたらよいかわからないこと	
<input type="checkbox"/> 誰に相談したらよいかわからないこと	
<input type="checkbox"/> 自宅療養にかかる費用	
<input type="checkbox"/> 一人暮らしまたは家族が不在のことが多く、付き添ってくれる人がいないこと	
<input type="checkbox"/> 家事ができなくなること	
<input type="checkbox"/> その他（	）
<input type="checkbox"/> 特に不安に思うことはない	

問 10 がんにかかった際の就労継続についてお答えください。

(1) あなたは、がんにかかっても働きたいと思いますか、がんにかかったことのある方は、**がんであることが判明した際、働き続けたかったか否か**お答えください（1つだけ選択）。

- 働き続けたい・働き続けたかった
- 働き続けたくない・働き続けなくなかった
- 既に退職している・働いていなかった

(2) あなたの職場は、がんにかかっても働き続けられる職場だと思いますか。がんにかかったことのある方は、**がんが判明した際の職場について**お答え下さい（1つだけ選択）。

- 働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人がいる
- 働き続けられる職場だと思う・実際に働き続けている人はいない
- 働き続けるのは難しいと思う
- わからない
- 現在働いていない・がんが判明したときには働いていなかった

(3) (2) で「働き続けるのは難しいと思う」と回答した方におたずねします。働き続けるのが難しいと思う理由をお答えください（いくつでも）。

- がん患者には難しい・きつい業務内容だから
- がん等の治療の際に利用できるような勤務制度・仕組みがないから
- 長時間勤務や残業が必要な職場だから
- 仕事を代わってくれる人がいないから、頼みにくいから
- その他（）

問 11 がん治療中・治療後の日常生活、職場復帰についてお答えください。

(1) がん治療に関連した以下の事柄、話題について関心があるものをお答えください（いくつでも）。

<input type="checkbox"/> がん患者のアピアランスケア（外見の変化に対するケア）	
<input type="checkbox"/> 小児・AYA 世代※1 のがん患者支援	
<input type="checkbox"/> 緩和ケア・支持療法	<input type="checkbox"/> 妊孕性温存療法※2
<input type="checkbox"/> その他（	）

※1 AYA 世代：思春期や若年成人のことをいい、概ね 15 歳～39 歳の方を指す。

※2 妊孕性温存療法：がん治療の前に卵子や精子、受精卵、卵巣の凍結を行い、がん治療後にこれらを用いて妊娠・出産を目指す治療法

(2) がんにかかったご自身が抗がん剤治療を受けることを考えた場合、不安に思うことをお答えください（いくつでも）。

<input type="checkbox"/> 治療する期間	<input type="checkbox"/> 医療費の負担	<input type="checkbox"/> 抗がん剤の副作用による脱毛
<input type="checkbox"/> 脱毛以外の抗がん剤の副作用	<input type="checkbox"/> 治療中の日常生活	
<input type="checkbox"/> 治療中の職場復帰や稼働そのもの	<input type="checkbox"/> その他（	）
<input type="checkbox"/> わからない	<input type="checkbox"/> 特に不安に思うことはない	

(3) (2) で「抗がん剤の副作用による脱毛」、「治療中の日常生活」、「治療中の職場復帰や稼働そのもの」と回答した方におたずねします。ご自身が抗がん剤の副作用により脱毛した場合日常生活や働くことに対し、支障があるかお答えください（各影響について 1 つだけ選択）。

	支障がある	支障がない
日常生活への影響	1	2
働くことへの影響	1	2

(4) (3) で「支障がある」を選択した方におたずねします。脱毛に対応した医療用ウィッグ（かつら）を使用したいと思うかお答えください（1 つだけ選択）。

<input type="checkbox"/> 使用したい	<input type="checkbox"/> 使用したくない
--------------------------------	----------------------------------

(7) 今までに入院したことはありますか（出産を除く、1つだけ選択）。

ある ない

(8) がんにかかったことはありますか（1つだけ選択）。

かかったことがある かかったことがない

(9) (8)で「かかった事がある」と回答した方におたずねします（1つだけ選択）。

現在かかっており、治療継続中である
 現在、がんで通院や治療はしていない（経過観察中を含む）

(10) あなたの親しい人でがんにかかった人はいますか（いくつでも）。

家族 親戚 親しい友人・知人 その他（ ）
 いない わからない

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました
調査票は令和4年(2022年)9月30日(金)までにご返送ください

札幌市内の事業所様向け がんに対する市民意識調査票

この調査は、札幌市内に事業所を有する 1,500 社・団体を無作為抽出により選定して、協力をお願いするものです。

札幌市では、平成 29 年度から令和 5 年度までを計画期間として、「札幌市がん対策推進プラン」を策定し、市民一人ひとりが、がんに関する正しい知識を身につけ、がん予防、早期発見・早期治療に取り組むとともに、がん患者やその家族等への支援を含めたがん対策を、市民・地域・関係機関と連携して取り組むことにより、がんになっても安心して暮らすことのできるまちづくりを進めてまいりました。

令和 5 年度に当該プランの計画期間が満了することから、当該プランの評価及び次期札幌市がん対策推進プラン策定の基礎資料とするため、この度、市民のがん、その検診及び治療に関する意識について調査を行うことといたしました。

ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、是非ご協力くださいますようお願い申し上げます。本調査に関してご不明な点がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

令和 4 年 9 月 5 日
札幌市保健福祉局保健所健康企画課

◎ご回答にあたって

- ・貴事業所を代表して、従業員の健康管理ご担当者様や総務の方、経営者の方等から、ご回答をお願いいたします。
- ・貴事業所全体のご意見として回答いただくことが難しい場合や、ご回答に時間・手間を要する場合は、回答担当者様のご意見として、可能な範囲で回答いただければ結構です。
- ・ご回答は、選択肢の場合は当てはまる番号を○(マル)で囲んでください。
- ・(括弧)または下線で示す部分には具体的内容をご記入ください。
- ・調査票へのご回答は統計的に処理するため、事業所名がわかる形で公表されることはありません。
- ・別紙調査票は令和 4 年 9 月 30 日(金)までに同封の返信用封筒にてご返送願います。
- ・なお、このアンケートは、下記ウェブページ(ウェブフォーム・e-mail)にてご回答いただくことも可能です。
- ウェブページ(ウェブフォーム・e-mail)でのご回答については、<https://forms.gle/LH2aUtdX7XHUWaDC8>、または下の 2 次元コードに、PC、スマートフォンからアクセスしてください。なお、ウェブページ(ウェブフォーム・e-mail)でのご回答は、本調査の入力・集計を委託しております(株)パイロンに直接送付されます。

◎調査結果について

- ・e-mail にて調査結果の概要をお送りいたしますので、ご希望の際は下欄に e-mail アドレスをご記載のうえ、この用紙も併せてご返送願います。



e-mail アドレス

回答用紙は、別紙となっております(両面印刷)

問1 貴事業所のことについてお聞きします。(3)を除き、○は1つだけ)

(1) 貴事業所の業種	1. 農林漁業 3. 製造業(工業系) 5. 電力・ガス・水道関係 7. マスコミ・出版関係 9. 商業・販売関係 11. 学術・研究関係 13. 飲食業関係 15. 旅行関係 17. 教育・保育関係 19. その他()	2. 建設業関係(設計、建築、土木) 4. 製造業(食品系) 6. コンピュータ・情報通信関係 8. 交通・運輸関係 10. 金融・保険関係 12. 宿泊・ホテル関係 14. 理容・美容関係 16. スポーツ関係 18. 医療・福祉関係
(2) 貴事業所の従業員数	①正規雇用 _____ 名 ②非正規雇用 _____ 名	
(3) 女性従業員の雇用の有無	①正規雇用者で (1. 有 2. 無) ← 1・2のうちどちらかを選択する ②非正規雇用者で (3. 有 4. 無) ← 3・4のうちどちらかを選択する	
(4) 貴事業所の種類	1. 単独事業所 2. 本社・本店 3. 支所・支店	
(5) 貴事業所が加入する健康保険の種類	1. 全国健康保険協会管掌健康保険(協会けんぽ) 2. 健康保険組合(組合健保) 3. 共済組合 4. 国民健康保険 5. その他() 6. 加入していない	

がん検診についてお聞きします

問2 正規雇用の従業員のがん検診をどのような形で実施していますか。それぞれのがん検診についてお答えください。(○はいくつでも。)

	いる て、 定期 健診 と合 わ せ て、 全 員 に 実 施 し て い る	施 て、 定期 健診 と合 わ せ て、 希 望 者 に の み 実 施 し て い る	る 受 け る よ う に 行 う 検 診 を 促 め て い る	ど の 検 査 を 実 施 す る に あ ら わ ず 実 施 す る	定 期 健 診 と は 別 に 実 施 す る に あ ら わ ず 実 施 す る	実 施 し て い な い
(1) 大腸がん検診	1	2	3	4	5	
(2) 胃がん検診	1	2	3	4	5	
(3) 胃に関する検査 (ピロリ菌抗体・胃粘膜萎縮(ペプシノゲン)検査等)	1	2	3	4	5	
(4) 肺がん検診	1	2	3	4	5	
(5) 子宮頸がん検診	1	2	3	4	5	
(6) 乳がん検診	1	2	3	4	5	

1～4に○をつけた検診について問3～6にご回答ください
すべての検診について5を選択した場合は問7へお進みください

問3 【問2で1～4と回答したがん検診についてお答えください】

がん検診にかかる追加の費用はどのように負担されていますか。(〇はそれぞれ1つだけ)

	事業所又は保険者が全額を負担している	事業所又は保険者が一部を負担している →	従業員の負担額を記入してください	従業員が全額を負担している
(1)大腸がん検診	1	2 → (約 円)		3
(2)胃がん検診	1	2 → (約 円)		3
(3)胃に関する検査 (ピロリ菌抗体・胃粘膜萎縮(ペプシノゲン)検査等)	1	2 → (約 円)		3
(4)肺がん検診	1	2 → (約 円)		3
(5)子宮頸がん検診	1	2 → (約 円)		3
(6)乳がん検診	1	2 → (約 円)		3

問4 【問2で1～4と回答したがん検診についてお答えください】

がん検診の方法(内容)はどのようなものですか。(〇はそれぞれいくつでも)

(1)大腸がん検診	1. 便潜血検査 3. S状結腸鏡検査 5. その他 ()	2. 全大腸内視鏡検査 4. 注腸X線検査
(2)胃がん検診	1. 胃X線検査 3. その他 ()	2. 胃内視鏡検査
(3)胃に関する検査 (ピロリ菌抗体・胃粘膜萎縮(ペプシノゲン)検査等)	1. ピロリ菌抗体検査 3. ABC検診	2. 胃粘膜萎縮(ペプシノゲン)検査 4. その他 ()
(4)肺がん検診	1. 胸部X線検査(労働安全衛生法に基づく健診 ^{※1} として) 2. 胸部X線検査(医師の二重読影があるがん検診 ^{※2} として) 3. 喀痰細胞診 5. その他 ()	4. 胸部CT検査
(5)子宮頸がん検診	1. 細胞診(医師による採取) 3. その他 ()	2. 細胞診(自己採取)
(6)乳がん検診	1. マンモグラフィ 3. 乳房超音波(エコー)検査 4. その他 ()	2. 視触診

※1 労働安全衛生法に基づく一般健康診断で実施する胸部X線検査の主な目的は、肺がん対策ではない。(平成17年第2回労働安全衛生法における胸部エックス線検査等のあり方検討会(厚労省)資料より)

※2 厚生労働省の推奨する肺がん検診としての胸部X線検査は「2名以上の医師(このうち1名は、十分な経験を有すること。)によって読影するもの」とされている。(厚生労働省通知「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」より)

問5 【問2で1～4と回答したがん検診についてお答えください】

札幌市が実施するがん検診の対象年齢は〔 〕内のようになっています。その対象年齢の正規雇用の従業員のがん検診受診率はおおよそどの程度ですか。（〇はそれぞれ1つだけ）

	ほんのわずか (1割以下)	2 ～ 3割程度	4 ～ 5割程度	6 ～ 7割程度	8 ～ 9割程度	ほとんど全員	不明
(1)大腸がん検診〔40歳以上〕	1	2	3	4	5	6	7
(2)胃がん検診〔50歳以上〕	1	2	3	4	5	6	7
(3)胃に関する検査〔40歳〕 (ピロリ菌抗体・胃粘膜萎縮(ペプシノゲン)検査等)	1	2	3	4	5	6	7
(4)肺がん検診〔40歳以上〕	1	2	3	4	5	6	7
(5)子宮頸がん検診〔20歳以上〕	1	2	3	4	5	6	7
(6)乳がん検診〔40歳以上〕	1	2	3	4	5	6	7

問6 【問2でいずれかのがん検診について1～4と回答した事業所様にお聞きます】

正規雇用の従業員の家族、非正規雇用の従業員のがん検診にはどのように取り組んでいますか。（〇はそれぞれ1つだけ）

(1) 正規雇用の従業員の家族について	1. 正規雇用の従業員と同様に実施している 2. 正規雇用の従業員とは異なる内容で実施している (具体的に：) 3. 実施していない
(2) 非正規雇用の従業員について	1. 正規雇用の従業員と同様に実施している 2. 正規雇用の従業員とは異なる内容で実施している (具体的に：) 3. 実施していない

問7 札幌市では「がん検診無料クーポン券事業」として、特定の年齢でがん検診の費用が無料になる下記のクーポン券を市民のご自宅に送付する事業を行っています。

クーポン券の種類	対象者
子宮頸がん検診無料クーポン券	4月1日の時点で満年齢が20歳の女性
乳がん検診無料クーポン券	4月1日の時点で満年齢が40歳の女性

このクーポン券事業についてご存知でしたか。また、貴事業所では従業員の方にこのクーポン券について情報提供を行っていますか。

1. 知っていた（従業員に情報提供を行っている）
2. 知っていた（従業員に情報提供は行っていない）
3. 知らなかった

従業員が、がんなどの病気になったときの規定・制度等についてお聞きします

問8 貴事業所では以下のような制度を導入していますか。

(1) 制度があるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

(2) ○をつけた制度のうち、病気になったときに利用できるものに◎をつけてください。(◎はいくつでも)

1. 時差出勤制度 (始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ)
2. フレックスタイム制度 (労働者が自由に始業・終業時刻を決められる)
3. 半日単位の休暇制度
4. 時間単位の休暇制度
5. 失効年次の有給休暇の積立制度
6. 退職者の再雇用制度
7. 病気の治療目的の休暇・休業制度
8. 在宅勤務制度
9. 裁量労働制度 (労働時間の計算をみなし時間によって行う)
10. その他 ()
11. 導入している制度はない

問9 貴事業所では従業員が、がんをはじめとする病気や怪我をした際の休暇・休職・勤務形態等について就業規則等で規定していますか。(○は1つだけ)

1. 規定している
2. 特に規定していない (個別対応)
3. その他 ()

問10 がんをはじめとする病気や怪我で長期休職した従業員の復職に関する貴事業所の方針は次のうちどれですか。(○は1つだけ)

1. 慣らし出勤等で徐々に復帰させる
2. 完治してから復帰させる
3. 特に決めていない (個別対応)
4. その他 ()

問11 貴事業所では、がんなど比較的長期の治療・療養を必要とする病気や怪我になった際の規定や制度・方針(問8~10に示したようなこと)を従業員にどのように周知していますか。(○はいくつでも)

1. 文書(紙面)を各従業員に配布している
2. 文書をイントラネットなどに掲載しいつでも閲覧できるようにしている
3. 文書(紙面)を事業所内に備え付け、求めがあれば示すようにしている
4. 都度、口頭で伝えたり相談したりしている
5. その他 ()
6. 特に決まった規定や制度・方針はない

従業員ががんにかかった際の実際の対応についてお聞きします

問 12 ここ3年間でがんにかかった従業員はいらっしゃいましたか。いらっしゃった場合、その従業員はどのようにになりましたか。(〇はいくつでも)

がんにかかった従業員がいた場合

- | | | |
|---|---|-----------|
| 1. 入院・治療には有給休暇などを使い、休職せずに復帰した
2. 休職期間(無給期間)を経た後復職した
3. いったん退職したが再雇用した
4. 入院・療養後に復帰・復職したが、病状・療養等を理由に退職した
5. 入院・療養中(休暇・休職中)に退職した
6. 入院・療養中(職場復帰前)に死亡した | } | 問 13、14 へ |
| 7. がんにかかった従業員はいない
8. わからない | } | 問 15 へ |

問 13 【問 12 で「がんにかかった従業員がいた」と回答した事業所様のみお答えください】

従業員ががんにかかった際、対応に苦勞されたことはありましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--|----------------|
| 1. 病気や治療の見通しが不明だったこと | 2. 復職可否の判断 |
| 3. 就業制限の必要性や期間の判断 | 4. 復職後の適正配置の判断 |
| 5. 症状が悪化した際の対応 | 6. 代替要員の確保 |
| 7. 病状に配慮した異動や業務内容の調整 | |
| 8. 当該従業員の処遇や働き方について、他の従業員の理解・協力を得ること | |
| 9. 病気や治療の見通し等について本人に聞きづらかったこと | |
| 10. がんにかかった従業員のプライバシー保護と他の従業員への周知の兼ね合い | |
| 11. 長期休暇・休職に応じた社会保険等の手続き | |
| 12. 事業者が相談できる相談先を探すのに苦勞したこと・見つからなかったこと | |
| 13. 従業員が相談できる相談先を探すのに苦勞したこと・見つからなかったこと | |
| 14. その他 () | |
| 15. 特に苦勞したことはない | |

問 14 【問 12 で「がんにかかった従業員がいた」と回答した事業所様のみお答えください】

従業員のがんに関連して相談した先はどこですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 産業医・産業保健師 | 2. 病院に設置されている相談窓口 |
| 3. 病院・診療所の医師 | 4. 保健所・保健センター |
| 5. 産業保健総合支援センター | 6. ハローワーク |
| 7. 社会保険労務士 | 8. 労働局・労働基準監督署 |
| 9. 身体障害者福祉センター | 10. 事業所が加入している健康保険組合等 |
| 11. その他 () | |
| 12. 相談した先はない | |

がんについてのご認識についてお聞きします

問 17 がんについて次のことを知っていましたか。知っていたことに○をつけてください。（○はいくつでも）

1. がんは日本人の死亡原因の 1 位である
2. 日本の死亡者の 3 人に 1 人ががんで死亡している
3. 日本ではおおよそ 2 人に 1 人が将来がんにかかるかと推測されている
4. 多くのがんは進行するまでほとんど自覚症状があらわれない
5. がんは検診などにより早期に発見することが可能である
6. がんは早期に発見・治療した場合、約 9 割が治る
7. 現在、がんで入院する場合の平均入院日数はおおよそ 20 日以内である
8. がんは、入院治療後は定期的に通院しながら治療・療養する場合がほとんどである
9. がん患者の 5 年後に生存している割合は 60% であり、がんを抱えながら生活・就労する人は多い
10. 「働くがん患者の約 30% が職場にがんであることを報告していない」という調査結果があるなど、職場にがんであることを報告せずに治療をする患者もいる
11. 「がん診療連携拠点病院」に指定されている病院には「がん相談支援センター」があり、がんに関するさまざまな相談を無料で受けることができる
12. ピロリ菌は胃がんの発症と関連性がある

がんに関する情報のニーズについてお聞きします

問 18 がんに関して、札幌市から事業所に対して情報提供があれば良いと思うことはありますか。（○はいくつでも）

1. がんに関する基本的な知識
2. 事業者が相談できる相談窓口の情報
3. 従業員が相談できる相談窓口の情報
4. がん患者等の就労継続等に関する制度
5. がん患者等の就労継続等に関する他社の取組事例
6. がん患者等の就労継続のための行政等による支援
7. がん検診無料クーポン券に関する情報
8. 事業所内での普及啓発に使えるパンフレット等の紹介
9. 事業所内での従業員教育などに使える保健師等による出前講座の紹介
10. がんや予防などに関するセミナーやイベント等の開催情報
11. ピロリ菌検査の有効性や実施方法等に関する情報
12. その他（
13. 特に情報提供してほしいことはない → 問 20 へ

→ 問 19 へ

